

青森県文化財保存活用大綱

令和2年3月策定
令和8年3月改訂

青森県教育委員会

はじめに

青森県には、豊かな自然や風土に育まれた数多くの文化財が残されています。これらの先祖から受け継いだ貴重な文化財は、本県の歴史と文化を理解する上で欠くことのできない財産であるとともに、地域に暮らす人々の心の拠りどころでもあります。

本県では、かけがえのない宝である文化財を適切に保存し、その活用を図りながら次代へ継承していくため、文化財の保存・活用に関する基本方針や、これを実現していくために講ずる措置、市町村への支援の方針等を取りまとめた「青森県文化財保存活用大綱」を令和2年3月に策定しており、この度「青森県基本計画『青森新時代』への架け橋」(令和5年12月)が策定されたことを契機として、関係法令の改正等をふまえて改訂しました。

本大綱は、県全体の文化財の保存・活用に関する基本的な方向性を明確化し、県内における各種の取組を進めていく上での共通の基盤とすることを目的としています。

今後、各市町村や文化財所有者等が文化財の保存・活用を図っていく中で、本大綱における方針等の考え方を共有し、青森県として一体となった取組が行われていくことを期待します。

最後に、本大綱改訂に当たり、様々な御意見や御協力をいただいた関係各位に厚く御礼申し上げます。

青森県教育委員会
教育長 風張 知子

青森県文化財保存活用大綱

目次

序章 青森県文化財保存活用大綱の策定

1 青森県文化財保存活用大綱策定の背景と目的	1
2 大綱の位置付け	
（1）青森県基本計画、青森県教育施策の大綱、「アクションプラン」との関係	2
（2）青森県教育施策の方針、文化財保護行政の方針と重点との関係	2
（3）大綱の位置付け体系図	4
3 大綱の見直し	4

第1章 青森県の文化財の保存・活用に関する基本的な方針

1 青森県の特徴について	
（1）気候・風土	5
（2）人口動態	6
（3）歴史概要	6
2 青森県の文化財について	
（1）文化財の分類及び本県文化財の特徴	11
（2）ユネスコ世界遺産（文化遺産）	14
（3）ユネスコ無形文化遺産	14
（4）日本遺産	14
（5）未指定等の文化財	14
●文化財の体系図	15
3 文化財の保存・活用に関する今後の方針	
3-1 基本方針	16
3-2 項目別取組方針	
（1）文化財の保存・継承体制の整備	16
（2）文化財の調査・研究、保存・管理	17
（3）文化財に関する財政措置	18
（4）文化財の活用	18
（5）文化財に関わる人材の育成等	19

第2章 文化財の保存・活用を図るために講ずる措置

1 文化財の保存・継承体制の整備	
（1）保存・継承に係る業務の継続	20
（2）国、県、市町村の連携強化	20
（3）関係機関等との連携強化	20

2	文化財の調査・研究、保存・管理	
2-1	文化財の調査・研究	
(1)	調査・研究の必要性	2 1
(2)	未指定も含めた文化財の掘り起こし	2 1
2-2	文化財の指定	
(1)	青森県文化財保護審議会	2 2
(2)	文化財の価値付け	2 2
2-3	文化財の保存	
(1)	各分野別の対応	2 3
(2)	原材料の確保、修復等への対応	2 3
2-4	文化財の保存・管理状況の確認	
(1)	文化財パトロールの実施	2 4
(2)	文化財保護指導員の役割	2 4
3	文化財に関する財政措置	
(1)	補助事業の実施	2 4
(2)	国庫補助金等の確保	2 4
(3)	計画的な修理等の実施	2 4
4	文化財の活用	
(1)	文化財の公開・活用	2 4
(2)	新たな活用方法や取組支援の検討	2 5
5	文化財に関わる人材育成等	
(1)	文化財に関わる人材の確保・育成	2 5
(2)	文化財保護の意識醸成を図る取組	2 6
<参考>	児童・生徒を対象とした取組について	2 7

第3章 各市町村への支援方針

1	市町村の現状と課題	2 8
2	県の役割	2 8
3	市町村が行う文化財の保存・活用に関する取組への支援	
(1)	文化財保存活用地域計画作成等に関する支援	2 8
(2)	各種情報提供	2 9
(3)	その他各種支援	2 9
<参考>	文化財保存活用地域計画について	3 0

第4章 防災・防犯・災害発生時の対応

1	防災・防犯・災害対策の考え方	3 1
2	危機管理体制	
(1)	県の危機管理体制	3 1
(2)	文化財の防災・災害発生時の対応	3 1

3	文化財の救援（文化財レスキュー・文化財ドクター）	33
4	防災機器等の設置及び修理、耐震化対策	33
5	防災訓練、防犯対策	34
	<参考>新型コロナウイルス感染症拡大による影響	34

第5章 文化財の保存・活用の推進体制

1	青森県における文化財の保存・活用体制	
(1)	文化財関係部局及び職員の体制	35
(2)	文化財保護審議会	37
(3)	その他の委員等	37
2	今後の体制整備	
(1)	現状における課題	38
(2)	文化財の保存・活用に関する望ましい体制整備	38

付属資料

1	国・県・市町村指定等文化財一覧	41
2	青森県文化財調査報告書一覧（主なもの）	60
3	青森県埋蔵文化財調査報告書一覧	62
4	青森県立郷土館調査報告書一覧	70
5	青森県史一覧	72
6	青森県文化財保存活用大綱の策定について	73
7	掲載画像提供先等一覧	76

序 章 青森県文化財保存活用大綱の策定

1 青森県文化財保存活用大綱策定の背景と目的

文化財を保存し、活用を図ることは、文化財保護法第1条^{*1}や青森県文化財保護条例第1条^{*2}の目的として掲げられているものです。

青森県の文化財は、様々な時代背景の下で人々の生活や風土との関わりの中から生み出され、今日まで守り伝えられてきた本県の宝であり貴重な財産です。これらの文化財を確実に次世代に継承していくことは、県民共通の責務であると言えます。

しかしながら、過疎化や少子高齢化など、急激な社会状況の変化に伴い、地域の伝統や文化の衰退が懸念されており、文化財継承の担い手不足による滅失・散逸のみならず、開発や災害等による損壊・消滅の危機にも瀕しています。

このような中、地域における文化財の計画的な保存・活用の促進や、地方文化財保護行政の推進力の強化を図ることを目的として、平成31年4月1日に「文化財保護法及び地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」が施行されました。

この法改正により、地域における文化財の総合的な保存・活用を推進するため、都道府県では総合的な施策の大綱（文化財保存活用大綱）を策定できること、及び市町村では総合的な計画（文化財保存活用地域計画）を作成できることが文化財保護法第183条の2第1項^{*3}及び第183条の3第1項^{*4}に規定されました。

本県においても、法改正の趣旨を踏まえ、県全体の文化財の保存・活用に関する基本的な方向性を明確化し、県内における各種の取組を進めていく上での共通の基盤とすることを目的に、令和2年3月に青森県文化財保存活用大綱（以下「大綱」

*1 文化財保護法第1条：

「この法律は、文化財を保存し、且つ、その活用を図り、もつて国民の文化的向上に資するとともに、世界文化の進歩に貢献することを目的とする。」

*2 青森県文化財保護条例第1条：

「この条例は、文化財保護法（昭和二十五年法律第二百十四号。以下「法」という。）第百八十二条第二項の規定に基づき、法の規定による指定を受けた文化財以外の文化財で県の区域内に存するもののうち県にとって重要なものについて、その保存及び活用のため必要な措置を講じ、もつて県民の文化的向上に資するとともに、我が国文化の進歩に貢献することを目的とする。」

*3 文化財保護法第183条の2第1項：

「都道府県の教育委員会は、当該都道府県の区域における文化財の保存及び活用に関する総合的な施策の大綱（次項及び次条において「文化財保存活用大綱」という。）を定めることができる。」

*4 文化財保護法第183条の3第1項：

「市町村の教育委員会は、文部科学省令で定めるところにより、単独で又は共同して、文化財保存活用大綱が定められているときは当該文化財保存活用大綱を勘案して、当該市町村の区域における文化財の保存及び活用に関する総合的な計画を作成し、文化庁長官の認定を申請することができる。」

という。)を策定しました。

2 大綱の位置付け

(1) 青森県基本計画、青森県教育施策の大綱、「アクションプラン」との関係

本大綱は、「青森県基本計画『青森新時代』への架け橋（令和5年12月策定）において、下記のとおり「政策テーマ6 地域社会」の「政策Ⅲ 文化・スポーツの振興」の「施策1 歴史・文化の価値や魅力に対する理解と活用の促進」に関するものとして位置付けられます。また県では、青森県基本計画のめざす姿の実現に向け、教育施策における目標やその根本となる方針を示した教育分野における個別計画として「青森県教育施策の大綱」を策定しました。これらを踏まえ、県教育委員会では今後取り組むべき具体的な施策・事業や、その進捗状況を効果的に把握するための「アクションプラン」を作成し、青森県基本計画、青森県教育施策の大綱とあわせて「地方公共団体における教育の振興のための施策に関する基本的な計画」（教育振興基本計画）と位置付けています。

「青森県基本計画『青森新時代』への架け橋」

政策テーマ6 地域社会～持続可能な地域社会の形成～

政策Ⅲ 文化・スポーツの振興

「心が充実する地域社会」

郷土の伝統や歴史・文化が受け継がれながら活用され、それらを土壌に新しい価値が生み出されています。多くの県民が伝統の継承や新たな価値の創造に触れ、実践するとともに、郷土への誇りを持ちながら、文化や芸術を通して心の充実や生きがいを感じています。また、幅広い世代の県民が、豊かな自然の下、生活の中で気軽に体を動かしたりスポーツに親しんだりすることで、楽しく汗をかき、生活が豊かに彩られています。

施策1 歴史・文化の価値や魅力に対する理解と活用の促進

【主な取組】（関係部分抜粋）

- ・ 「北海道・北東北の縄文遺跡群」の価値や魅力を県内外で広く伝えるとともに、認知度向上や受入体制の充実に取り組みます。
- ・ 歴史的資料や文化財等を適切に収集・保護・保存するほか、デジタル技術の活用等による情報発信などの新たな価値の創出に取り組み、地域活性化を推進します。
- ・ 地域の祭りや伝統芸能などについて、鑑賞や体験機会の充実に取り組み、継承を促進します。
- ・ 県民、特に子どもたちがふるさと青森の歴史や自然、文化への理解を深め、郷土に誇りを持つことができる取組を推進します。

(2) 青森県教育施策の方針、文化財保護行政の方針と重点との関係

青森県教育委員会では、本県の教育行政の基本的な目標及び施策の方向性を

示すため「青森県教育施策の方針」を定め、さらに、「文化財保護行政の方針と重点」を定めています。

本大綱で取りまとめる、文化財保護の保存・活用の基本的な方針等は、この「文化財保護行政の方針と重点」に基づくものとなります。

【青森県教育施策の方針】

青森県教育委員会は、郷土に誇りを持ち、多様性を尊重し、創造力豊かで、新しい時代を主体的に切り拓く人づくりを目指します。このため、
夢や志の実現に向け、知・徳・体を育む学校教育
学びを生かし、つながりをつくり出す社会教育
次代へ伝える、かけがえのない文化財の保存・活用
活力、健康、感動を生み出すスポーツ
を、市町村教育委員会、家庭や地域社会との連携を図りながら推進します。

【令和8年度文化財保護行政の方針と重点】

1 方針

郷土への愛着と誇りを培い、うるおいと活力のある県民生活を実現するため、次代へ伝える、かけがえのない文化財の保存・活用に努める。

2 重点

(1) 文化財の保護・保存

かけがえのない文化財を次代に伝えるため、適切に管理し、保護・保存に努める。

(2) 文化財の公開・活用

県民が文化財に興味・関心を持ち、親しめるよう、公開・活用と情報発信に努める。

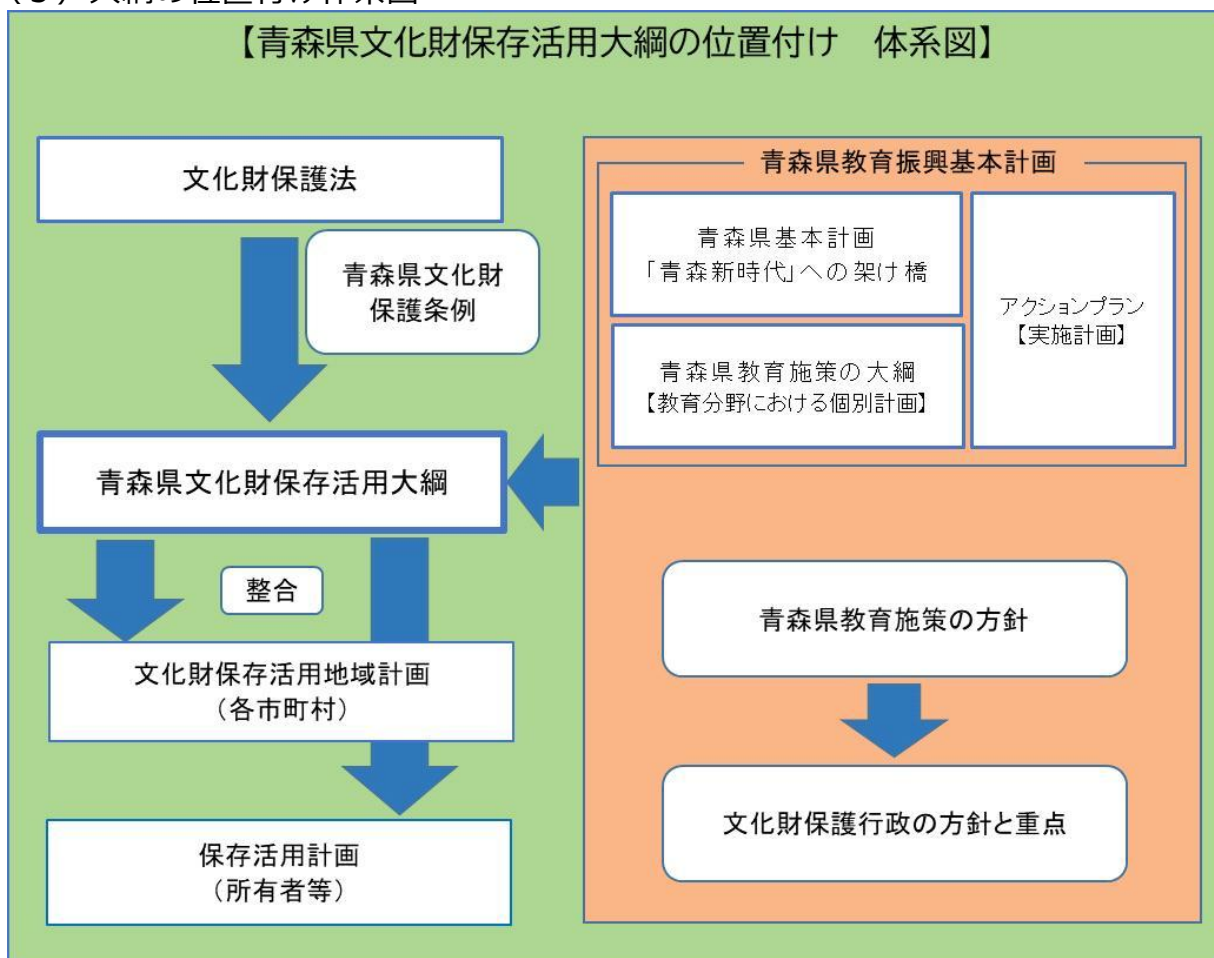
(3) 伝統芸能・技術の継承

地域で生まれ、保存・伝承されてきた伝統芸能や技術の継承に努める。

(4) 博物館等施設の機能の充実

多様な主体と連携し、地域の活性化等を考慮しながら、県民が文化財に触れ、体験・体感できる機会の充実と情報発信に努める。

(3) 大綱の位置付け体系図



本大綱は、県の基本計画等に基づき、本県の文化財の保存・活用に関する基本的な方向性を示すものです。また、各市町村で作成することができることとされた「文化財保存活用地域計画」や、文化財の所有者又は管理団体が作成する「保存活用計画」は、大綱で示す方向性と整合性が取れた内容であることが求められます。

3 大綱の見直し

県の基本計画等が見直される際は、随時必要な見直しを図ります。

第1章 青森県の文化財の保存・活用に関する基本的な方針

第1章では、本県の気候や風土に育まれてきた文化財の概要を紹介するとともに、本県の文化財の保存・活用について、課題や求められる施策等を踏まえた今後の目指すべき方向性や将来像等など、基本的な方針についてまとめます。

1 青森県の特徴について

(1) 気候・風土

青森県は、北緯40度12分から41度33分、東経139度30分から141度41分の間の本州最北に位置しています。東は太平洋、西は日本海、北は津軽海峡と三方を海に囲まれ、世界自然遺産「白神山地」に代表される美しく豊かな自然に恵まれた地であり、長い歴史と自然環境の中で、多種多様な文化が育まれてきました。

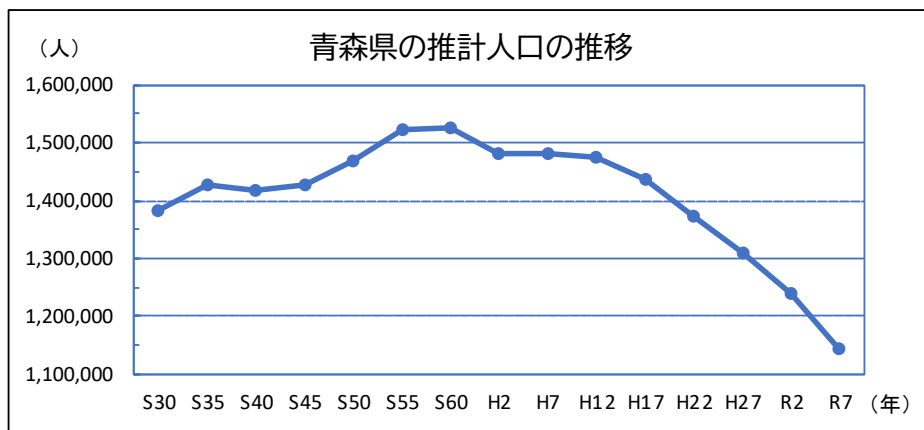
本県の気候は、八甲田山と十和田湖を境に分かれる日本海側の津軽地方（東青地域、西北地域、中南地域）と太平洋側の南部地方（上北地域、下北地域、三八地域）で異なる姿を見せ、津軽地方では冬の大雪、南部地方では夏の冷たく湿ったやませ（偏東風）が大きな特徴となっています。

津軽平野という大規模な稲作適地に恵まれていた津軽地方では、稲作を中心とした農業が盛んに行われ、近代以降はりんご栽培が大きく発展しました。一方、やませの影響で度々凶作や冷害に見まわられてきた南部地方では、畜産に目が向けられて馬産が盛んになるとともに、畑作による雑穀栽培や漁業等が営まれてきました。また、下北地域は周囲を海に囲まれ、山岳地が多く平野が少ないため、漁業や林業が主な生業となっていきました。



(2) 人口動態

令和8年2月1日現在の青森県の推計人口は1,139,865人です。人口動態（自然動態＋社会動態）は、平成8年以降マイナスとなっています。自然動態（出生数－死亡数）については、平成11年には死亡数が出生数を上回って以降、減少幅は拡大傾向にあります。社会動態（転入数－転出数）の減少幅は、令和2年のコロナ禍以降4,000人台まで減少しています。



出典：「青森県の推計人口（令和7年10月1日現在）」（青森県総合政策部統計分析課）

人口動態の推移（自然・社会動態）

（単位：人）

年月	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
自然動態	出生者数	7,943	7,323	7,005	6,589	6,100	5,793	5,244	4,839
	死亡者数	17,889	18,254	17,941	18,766	19,349	21,025	20,649	20,235
	自然増減数	△ 9,946	△ 10,931	△ 10,936	△ 12,177	△ 13,249	△ 15,232	△ 15,405	△ 15,396
社会動態	県外からの転入者数	19,561	19,986	18,483	17,790	19,605	19,171	18,630	18,629
	県外への転出者数	25,381	25,579	23,123	22,292	23,318	23,724	23,031	22,510
	社会増減数	△ 5,820	△ 5,593	△ 4,640	△ 4,502	△ 3,713	△ 4,553	△ 4,401	△ 3,881
増減数計	△ 15,766	△ 16,524	△ 8,307	△ 16,679	△ 16,962	△ 19,785	△ 19,806	△ 19,277	

令和2年の人口は国勢調査結果であり、人口増減数は自然増減数と社会増減数を足した数値と一致しない。

出典：「令和7年 青森県の人口」（青森県総合政策部統計分析課）

(3) 歴史概要

[旧石器時代]

本県で確認される最古の遺跡は、約3万年前の後期旧石器時代のもの^{たむかい}で、田向冷水遺跡^{ひやみず}（八戸市）等から出土したナイフ形石器を主体とする石器群が最古段階に位置付けられています。大平山元Ⅱ遺跡^{おおだいやまもと}（外ヶ浜町）では、後期旧石器時代後半期の石器群が出土し、その特徴から3段階の変遷が把握されるとともに、石器製作において北海道や関東・中部地方等との関係を示す資料が出土しています。

[縄文時代]

縄文時代は1万年以上の長期にわたり継続し、3,000箇所を超える遺跡数が確認されており、その間、遺跡数や分布、遺構・遺物の特徴に変化や移り変わりがあります。

草創期の大平山元Ⅰ遺跡^{*1}（外ヶ浜町）からは、縄文時代草創期初頭に位置づけられる神子柴・長者久保石器群とともに土器や石鏟が出土し、高精度放射性炭素年代測定により縄文時代の開始期の具体的な年代が明らかになりました。

早期の遺跡は全国的な傾向と同様に本県でも太平洋側に多く、史跡長七谷地貝塚（八戸市）に代表されるように、集落や貝塚が形成されるようになります。

前期後半以降は遺跡数が増え、全県的に広がるようになり、なかには中期まで長期間継続する大規模な集落もあります。この時期は本県を中心として「円筒土器」と呼ばれる特徴的な形状の土器が使用され、その人々の営む文化を「円筒土器文化」と呼びます。その代表的な遺跡としては、特別史跡三内丸山遺跡（青森市）、史跡二ツ森貝塚（七戸町）、史跡田小屋野貝塚（つがる市）等があります。

後期では、史跡小牧野遺跡（青森市）のような大規模な環状列石の構築が特徴的です。また、祭祀遺物の種類が豊富になるなど、精神文化の充実が窺え、土偶（青森県八戸市風張1遺跡出土）は優れた造形等の面から国宝に指定されているほか、重要文化財に指定されている土偶や土製品等が多数あります。

晩期には本県を中心とする亀ヶ岡文化が他地域まで広く影響を与え、その名の由来となった史跡亀ヶ岡石器時代遺跡（つがる市）や史跡是川石器時代遺跡（八戸市）は、その出土品とともに古くから全国的に注目されてきました。この文化では華やかで精緻な土器や漆器等が有名で、是川遺跡出土品は重要文化財に指定されています。また、史跡大森勝山遺跡（弘前市）からは、晩期のものとしては希少な、全体像や構築方法がわかる環状列石が発見されています。

〔弥生時代〕

弥生時代の本県は、水田稲作農耕に象徴される南からの文化と、縄文文化の伝統を色濃く残す遺物にみられる北の続縄文文化が接触した地域でした。砂沢遺跡（弘前市）では前期の水田跡がみつきり、早い段階から稲作が導入され、史跡垂柳遺跡（田舎館村）等でも中期の水田跡が見つかっています。

集落は前期のものが多く、中期以降は遺跡数そのものが激減します。宇鉄遺跡（外ヶ浜町）では土坑墓から多数出土した南の弥生文化の特徴をもつ玉類や、北



重要文化財 青森県大平山元遺跡出土品
（外ヶ浜町）



史跡 小牧野遺跡（青森市）

*1 史跡大平山元遺跡：大平山元Ⅰ遺跡と大平山元Ⅱ遺跡（P6）は、接した位置にあり、2つの遺跡で後期旧石器時代後半期から縄文時代草創期までの各段階の変遷を追うことができ、それらの一部は「史跡大平山元遺跡」として指定されています。

海道と共通する特徴をもつ土器等が出土し、南北の影響を受ける本県の地理的特性をよく表しています。

[古墳時代]

古墳時代の遺跡はごくわずかで、岩手県以南で見られる前方後円墳等の古墳は発見されていません。北海道系の続縄文土器が散発的に出土する遺跡が多く、土坑墓の検出例が数例あります。森ヶ沢遺跡（七戸町）からまとまってみつかった土坑墓の中には、古墳文化の土師器や須恵器、続縄文文化の北大Ⅰ式土器が出土した墓があり、本県における南北からの影響を考える上で重要な資料といえます。しかし、集落の様相は不明確で、わずかに田向冷水遺跡（八戸市）でカマドが設置された竪穴建物跡や墓と考えられる土坑等が検出されています。

[古代]

古代（飛鳥時代～平安時代）の本県を含めた北東北以北は、律令政府の支配の及ばない地域で、『日本書紀』等の史料では蝦夷と呼称された人々が住んでいたとされます。飛鳥時代から奈良時代には、遺跡数が増加し、特に太平洋側に多く分布しています。主な生業はコメや雑穀類の栽培で、この地において生産されていたと考えられます。

集落遺跡以外にも、在地の主に首長層（蝦夷）を埋葬した末期古墳が検出されており、史跡丹後平古墳群（八戸市）、史跡阿光坊古墳群（おいらせ町）等が代表的なものです。副葬品や供献品には、土師器、須恵器、鉄製品（武具や馬具など）、銅製品及び各種玉類等があり、なかでも朝鮮半島で製作されたと考えられる金銅獅嚙三累環頭大刀柄頭をはじめとする丹後平古墳群出土品は重要文化財に指定されています。

平安時代には遺跡数が増し、特に津軽地方に顕著です。主な生業としては前段階と同様にコメや雑穀栽培と考えられます。後半（10世紀後半～11世紀）には、史跡高屋敷館遺跡（青森市）、県史跡中里城遺跡（中泊町）等のように、周囲を壕で区画した集落が現れます。壕は集落の全体を囲うものや、一部のみを囲うものがあり、県内でも地域によって違いがあります。

この頃には、五所川原市の史跡五所川原須恵器窯跡（五所川原市）で須恵器、岩木山麓の壱沢遺跡（鯉ヶ沢町）等で鉄生産が行われました。須恵器は北海道へも供給され、本県でも北海道特有の擦文土器が津軽地方を中心に出土するなど、相互の交流が確認できます。



重要文化財
青森県丹後平古墳群
出土品（八戸市）
（金銅獅嚙三累環頭大刀柄頭）

[中世]

文治5年（1189）の奥州合戦の後、本県も徐々（ほろほろ）に鎌倉幕府の支配下に置かれ、北条得宗家（ほうじょうとくそうけ）の領地となりました。

14～15世紀には津軽・下北地方は十三湊（とさみなと、五所川原市）を拠点とした安藤氏（あんどう）が、南部地方は根城（ねじょう、八戸市）や本三戸城（もとさんのへじょう、聖寿寺館・南部町）、七戸城（しちのへじょう、七戸町）を拠点とした南部氏（なんぶ）が支配し、それぞれの拠点は史跡に指定されています。



史跡 聖寿寺館跡（南部町）

十三湊（さんしんしちそう）は三津七湊のひとつに数えられ、安藤氏は、北海道から西日本まで結びつきを持つ日本海交易を担っていましたが、15世紀中頃には南部氏により追われることとなります。本県支配の実権はやがて本三戸城の南部氏が掌握するようになり、16世紀後半には三戸城（さんすいじょう、三戸町）に本拠を移し、宗家としての地位を確立していきます。

また、14～15世紀を中心とした史跡山王坊遺跡（さんのおぼう、五所川原市）は宗教遺跡、史跡浜尻屋貝塚（はましりや、東通村）はアイヌの人びとにより営まれたアワビを主体とする貝塚で、いずれも当時の宗教活動や生業活動を具体的に示す貴重なものです。

浪岡城（なみのりじょう、史跡浪岡城跡・青森市）を居城とした北畠氏（きたばたけ）は、16世紀には浪岡から外浜（がいへ）を支配し、朝廷（ていてい）から官位（くわんい）を授かるなど最盛期を迎えます。その後、津軽地方で地盤（ぢばん）を固めつつあった大浦（おほのうら、津軽）為信（ためのぶ）が浪岡城を攻め落とし、津軽地方一円での支配体制を築くこととなります。

[近世]

天正18年（1590）の豊臣政権による奥州仕置を経て、北奥地方の大名領が成立していくこととなり、津軽為信（ためのぶ）と南部信直（のぶなお）は、共に近世大名として歩みだします。

津軽氏は津軽郡一円、南部氏は現在の下北地方から岩手県に至る（秋田県の一部を含む）広大な領地を江戸幕府から安堵され、弘前藩と盛岡藩が成立します。両藩の境は、津軽側が狩場沢（かりばさわ、平内町）、南部側が馬門（まかど、野辺地町）とされ、今日の津軽地方と南部地方につながっていくこととなります。

南部信直は、天正18年（1590）時点では、三戸城を居城としていましたが、その後、居城は福岡（現在の岩手県二戸市）に移り、やがて盛岡城を築城することとなります。一方、津軽為信は、

文禄3年（1594）に大浦城（おほのうらじょう、弘前市）から堀越城（ほりこしじょう、弘前市）へ居城を移します。

その後、弘前藩二代藩主信枚（のぶひら）は、慶長15年（1610）高岡城（たかおかじょう、現在の弘前城）の築城を開始し、翌16年には堀越城から本拠を移転しました。



重要文化財 弘前城 天守（弘前市）

寛永5年（1628）には地名を高岡から弘前に改称しています。

寛文4年（1664）には、幕府によって八戸藩が盛岡藩領から新藩として取り立てられ独立しました。また、八戸藩では、正保から慶安年間（1644～1651）に一応の完成をみていた八戸城と町をそのまま城下町としていきました。

18世紀後半以降、宝暦・天明・天保の三大飢饉が発生し、なかでも天明の大飢饉は被害が大きく、弘前藩では8万人、盛岡藩で6万人、八戸藩で3万人以上の餓死者を出したといわれています。

弘前藩、盛岡藩では、近世初期から新田開発が強力に推進されました。その一方で、寒冷地のため稲作に適さない盛岡藩及び八戸藩では、大豆と^{*}粕²が特産品となって関東や上方に移出されました。また、津軽地方や下北半島では良質な山林資源に恵まれ、木材産地として知られるようになります。さらに、近世期の盛岡藩は日本有数の馬産地として知られるところとなり、八戸藩、弘前藩でも馬産が盛んに行われました。

[近代以降]

戊辰戦争時、弘前藩と盛岡藩の両藩は、慶応4年（明治元年、1868）5月に結成された奥羽越列藩同盟に参加していましたが、弘前藩が新政府支持に転じたことから対立が生じ、同年9月に野辺地で武力衝突します。

明治3年（1870）春には、旧会津藩の人々が下北半島等に移住し、斗南藩として藩の再興を図ることとなりました。明治4年（1871）には、廃藩置県によって弘前・黒石・八戸・七戸・斗南の各藩は県となり、9月には合県が行われ、これらの5県と北海道の^{たて}館県（旧松前藩）が統合されて弘前県となりました。その後、青森県と改称され、県庁も青森に移ることになります。翌明治5年（1872）には旧館県域が北海道開拓使に、明治9年（1876）に旧盛岡藩領であった二戸郡が岩手県に移管され、現在の青森県の県域が成立することになります。

明治以降、津軽地方ではりんご栽培が盛んになり、明治30年（1897）にはりんご園の面積が日本一となり、その後も病害対策や栽培技術を進化させながら基幹産業へと成長させていきます。

南部地方では、馬産の伝統が近代においても引き継がれました。農業や軍などにおける馬の需要拡大を背景に、生産及び販売が拡大し、大正時代には大戦景気による馬の価格の上昇に伴って売上も伸び、りんごに匹敵する県の重要産業となっ



りんごと岩木山

2 ^{}粕（しめかす）：魚油を採るために絞ったイワシの絞りかす。特に木綿栽培に適した肥料として利用されました。

ていきました。

2 青森県の文化財について

(1) 文化財の分類及び本県文化財の特徴

文化財は、文化財保護法第2条第1項の規定により、有形文化財、無形文化財、民俗文化財、記念物、文化的景観、伝統的建造物群に分類されています。そのほか、埋蔵文化財や文化財の保存技術も保護の対象とされています。(※下記①～⑧の四角枠内及びP15文化財の体系図参照。)

これら文化財の分類に基づき、本県の主な文化財を以下に記します。

① 有形文化財（県指定の場合は「県重宝」）

建造物、絵画、彫刻、工芸品、書跡、典籍、古文書その他の有形の文化的所産で歴史上又は芸術上価値の高いもの並びに考古資料及びその他の学術上価値の高い歴史資料。

近世まで津軽地方の中心であった弘前市には、弘前城跡の城郭建築をはじめ、^{さいしやういんごじゆうのとう}最勝院五重塔、^{いわきやま}岩木山神社、^{ちやうしやうじ}長勝寺等の神社仏閣や旧第五十九銀行本店本館、旧弘前^{かいこうしや}偕行社等の近代建築等の建造物が多数所在し、南部地方の中心であった八戸市にも^{くしきはちまんぐう}櫛引八幡宮、^{せいすいじかんのんどう}清水寺観音堂等神社仏閣が多数所在しており、国や県の指定を受けています。

また、工芸品では、櫛引八幡宮に所蔵されている鎧2点が国宝に指定されています。このほか、考古資料では、八戸市の風張（1）遺跡から出土した土偶（合掌土偶）が国宝に指定されています。



重要文化財 旧第五十九銀行本店本館
(弘前市)



国宝 土偶（青森県八戸市風張1遺跡出土）
(八戸市)

② 無形文化財（県指定の場合は「県技芸」）

演劇、音楽、工芸技術、その他の無形の文化的所産で歴史上又は芸術上価値の高いもの。

平成29年10月に、本県で初めて「津軽塗」が工芸技術として国の重要無形文化財に指定され、津軽塗技術保存会が保持団体の認定を受けました。



研ぎ出し風景



津軽塗 八角五段重箱「四季」

③ 民俗文化財

衣食住、生業、信仰、年中行事等に関する風俗慣習、民俗芸能、民俗技術及びこれらに用いられる衣服、器具、家屋その他の物件など人々が日常生活の中で生み出し、継承してきた有形・無形の伝承で人々の生活の推移を示すもの。

有形民俗文化財では、船絵馬や南部小絵馬等の信仰資料、丸木舟などの漁撈具、さしこ着物等が、無形民俗文化財では、青森のねぶたや弘前のねぶた、八戸三社大祭の山車行事等の風俗慣習、下北の能舞や八戸のえんぶり、津軽地方に広く伝承されている獅子踊をはじめとする民俗芸能等が国や県の指定を受けて保存・継承されています。



重要有形民俗文化財
津軽・南部のさしこ着物（個人蔵）



重要無形民俗文化財 青森のねぶた

④ 記念物（史跡、名勝、天然記念物）

- ・史跡：貝塚、古墳、都城跡、城跡、旧宅等の遺跡で歴史上又は学術上価値の高いもの。
- ・名勝：庭園、橋梁、峡谷、海浜、山岳等の名勝地で芸術上又は観賞上価値の高いもの。
- ・天然記念物：動物、植物及び地質鉱物で学術上価値の高いもの。

史跡では、日本最大級の縄文集落である三内丸山遺跡をはじめとする数多くの縄文遺跡のほか、各時代の遺跡が国や県の指定を受けています。

また、名勝や天然記念物では、十和田湖および奥入瀬溪流や仏宇多（仏ヶ浦）、盛美園に代表される津軽地方に特徴的な作庭技法を継承した大石武学流庭園、下北半島のサルおよびサル生息北限地、ツバキ自生北限地帯、北金ヶ沢のイチョウ等が国や県の指定を受けています。



名勝 盛美園（平川市）



天然記念物
下北半島のサルおよびサル生息北限地

⑤ 文化的景観

地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で、人々の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの。

本県で選定されている文化的景観はありません。

⑥ 伝統的建造物群

周囲の環境と一体をなして歴史的風致を形成している伝統的な建造物群（城下町、宿場町、門前町など）で価値の高いもの。

江戸時代の武家町の地割・景観を今に伝える弘前市仲町^{なかちょう}と、商家町の「こみせ」と呼ばれる^{ひさし}庇が伝統的な形態を維持したまま残されている黒石市中町^{なかまち}が保存地区として選定されています。



弘前市仲町 重要伝統的建造物群保存地区



黒石市中町 重要伝統的建造物群保存地区

⑦ 埋蔵文化財

土地に埋蔵されている文化財（主に遺跡といわれている場所）のことであり、埋蔵文化財の存在が知られている土地（周知の埋蔵文化財包蔵地）は全国で約 46 万箇所ある。

本県では、旧石器時代、縄文時代、古墳時代、古代、中世等の時代に属する周知の埋蔵文化財包蔵地が約 4,800 箇所あります。

⑧ 文化財の保存技術

文化財の保存のために欠くことのできない伝統的な技術又は技能で保存の措置を講ずる必要があるものを、選定保存技術として選定し、その保持者及び保存団体を認定するもの。

本県では漆掻き用具製作が選定保存技術として選定されています。

(2) ユネスコ世界遺産（文化遺産）

令和3年7月に特別史跡三内丸山遺跡を含む17の考古遺跡から構成される「北海道・北東北の縄文遺跡群」が、「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」に基づき「ユネスコ世界遺産一覧表」に記載されました。そのうち、特別史跡三内丸山遺跡をはじめとする8つの構成資産（遺跡）が本県に所在しています。



特別史跡 三内丸山遺跡（青森市）

(3) ユネスコ無形文化遺産

平成28年12月に八戸三社大祭の山車行事を含む33の国指定重要無形民俗文化財を構成要素とする山・鉾・屋台行事が、「無形文化遺産の保護に関する条約」に基づき「代表一覧表」に記載されました。



重要無形民俗文化財
八戸三社大祭の山車行事

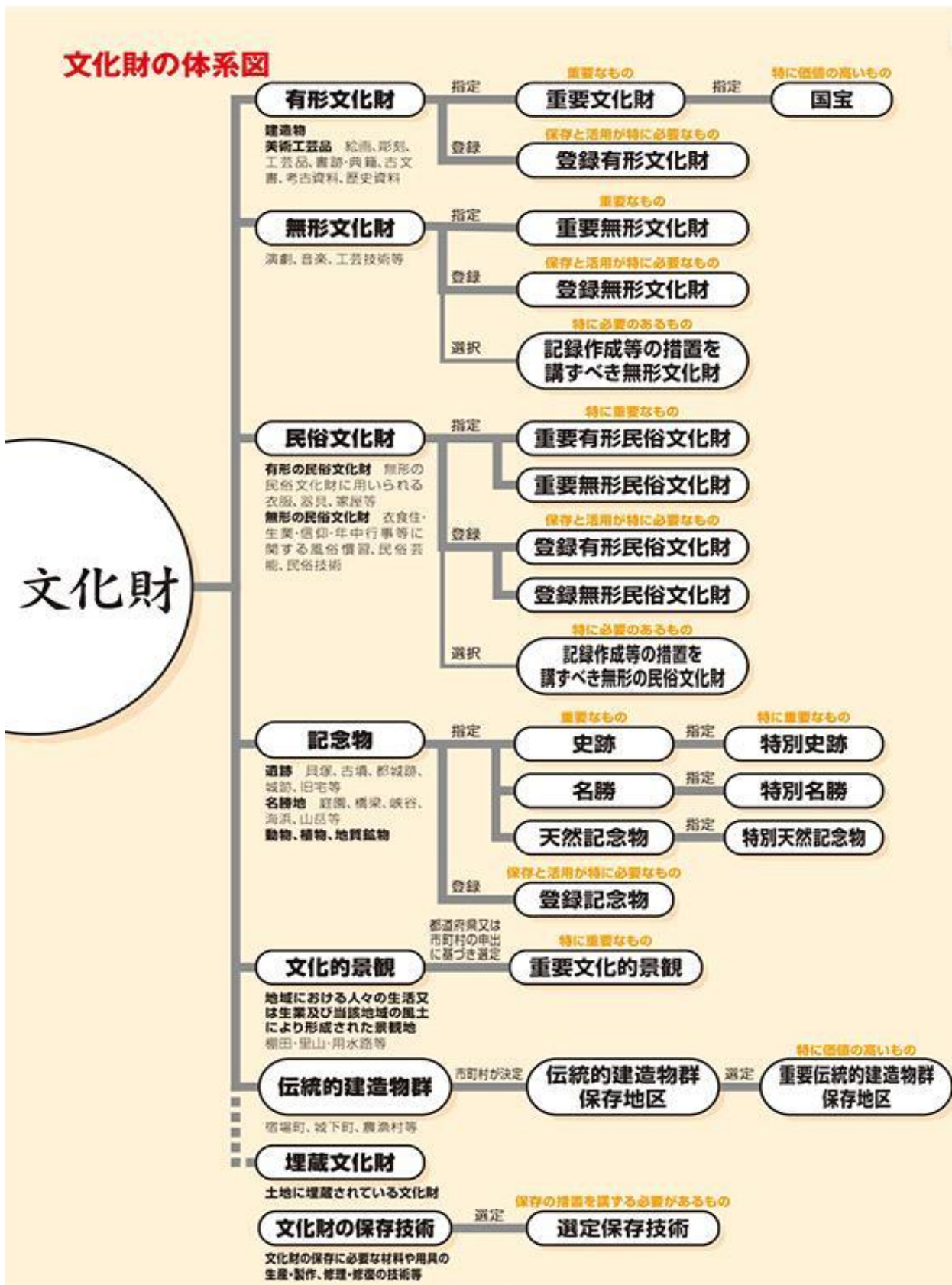
(4) 日本遺産

平成29年度に文化庁より「日本遺産」の認定を受けた「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」には、本県の鱒ヶ沢町と深浦町が含まれており、平成30年度には野辺地町が加わりました。

(5) 未指定等の文化財

本県では、県の文化財指定を進める上で、各市町村より候補を推薦してもらうなど、未指定も含めた県内の文化財の把握に努めているところです。

●文化財の体系図（文化庁のホームページより）



3 文化財の保存・活用に関する今後の方針

3-1 基本方針

序章で述べたとおり、本大綱は、青森県教育委員会が定めた「文化財保護行政の方針と重点」に基づくことから、基本方針は「文化財保護行政の方針と重点」の方針とします。

【基本方針】

郷土への愛着と誇りを培い、うるおいと活力のある県民生活を実現するため、次代へ伝える、かけがえのない文化財の保存・活用に努める。

3-2 項目別取組方針

今後、本県が文化財の保存・活用を推進していく上で、課題となる項目について取組方針等をまとめます。

(1) 文化財の保存・継承体制の整備

【方針】

- ・ 市町村教育委員会と連携して文化財の現況把握に努めるとともに、各種補助事業に関する情報提供や調査・修理等に関する相談に積極的に対応します。
- ・ 教育委員会以外の部局との連携を深め、文化財を保存・継承し、地域の活性化等につなげていく取組を進めていきます。
- ・ 行政機関と民間企業・団体等との連携方法やネットワーク形成に関する検討を進めていきます。
- ・ 関係市町教育委員会と連携して世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」の顕著な普遍的価値の保全の取組を進めていきます。

本県では、国、県、市町村それぞれで幅広い分野から数多くの文化財を指定し、保存・継承に努めていますが、急速に進む少子高齢化等の社会状況の変化を背景に、文化財所有者等^{*3}の努力のみでは文化財の維持管理を継続していくことが難しくなっており、今後、地域全体で支えていく体制を整備していくことが求められます。そのためには、所有者、行政機関、教育機関、民間企業・団体等が一つの方向性の下に連携を図り、地域全体での取組を拡充していくことが必要です。

*3 文化財所有者等：建造物等有形文化財等の所有者や管理者に加え、技術や芸能、風俗・慣習の継承者等も含まれます。

このほか、世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」の顕著な普遍的価値を保全し、次世代に確実に継承するためには、関係市町のみならず、北海道、岩手県、秋田県、民間団体や地域住民等とも連携・協働しながら、共通認識のもとに一体となって取り組む必要があります。

(2) 文化財の調査・研究、保存・管理

【方針】

- ・ 文化財の調査や記録作成を実施し、国や県の文化財指定、国の登録^{*4}等を推進します。また、文化財の保存・修理等の支援を行います。
- ・ 未指定等の文化財も含め、地域で失われつつある文化財の保護や記録作成等について、博物館や高等教育機関、民間団体等も巻き込んだ調査研究体制の整備を検討していきます。
- ・ 博物館等における調査研究活動や教育普及活動、展示・収蔵機能を充実させるとともに情報発信等に努めることにより、県民に開かれた施設としての機能向上を図っていきます。

近年、文化財所有者等の高齢化や担い手不足等の問題が顕在化しており、様々な理由で失われつつある地域の文化財をどのように保存・継承していくかは大きな課題です。このことは、有形文化財だけではなく、無形文化財や無形民俗文化財についても同様です。

地域で失われる可能性がある文化財の価値や魅力を適切に見出して保存・管理することや、記録作成を行うことなど、文化財を守り伝えていくための調査・研究に係る取組の充実が求められます。今後、過去の文化財調査の結果等を踏まえ、幅広い観点から各地域の文化財を把握しリスト化を進め、未指定のものについては指定や国の登録につなげていくなどの取組が必要です。このほか、青森県の歴史・文化を継承していく上で、類型に捉われない生活文化や郷土料理などを地域の文化財として見ることも有効と考えられます。

また、地域の文化財の適切な保存・管理を進めるとともに、博物館等における調査研究活動や情報発信等の取組の充実が求められます。

*4 登録制度：指定による保護制度を補完するもので、届出制と指導、助言、勧告を内容とする、緩やかな保護制度。平成8年に建造物を対象に先行導入されましたが、平成16年の文化財保護法の一部改正により、記念物、重要文化財（美術工芸品）及び有形民俗文化財に、令和3年の一部改正により無形文化財及び無形民俗文化財に対象が拡大されました。

また、無形文化財及び無形民俗文化財については、重要無形文化財や重要無形民俗文化財としてそのままの形で存続させるものの他に、記録を作成する必要があるものについて、必要に応じて記録の作成及び保存、公開の措置を講ずる記録選択制度があります。

(3) 文化財に関する財政措置

【方針】

- ・ 文化財保護に係る補助金の確保に努めるとともに、補助事業等に関する情報共有を図ります。また、文化財以外の補助金の活用なども検討していきます。
- ・ 各種企業・団体等による助成事業等について情報共有を図り、利用を促進します。

文化財を保存・継承していく上で、維持管理に係る所有者等の経費負担は大きな問題となっています。本県では、国・県指定の文化財について、建造物等の保存修理、無形民俗文化財の用具等の修繕、史跡・名勝・天然記念物の環境整備等に係る補助事業を行っているところです。

引き続き、所有者等が修理や維持管理、防災対策、活用等の取組を計画的に行っていける仕組づくりが求められます。

(4) 文化財の活用

【方針】

- ・ デジタル技術の活用等による文化財の公開や活用を促進するとともに、普及啓発に努めます。
- ・ 世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」の価値や魅力の発信、認知度向上及び受入態勢の充実を進めます。
- ・ 行政機関や教育機関、民間企業・団体等と様々な連携を図りながら、地域の文化財の活用や情報発信に関する取組を継続し、地域活性化に寄与するとともに、各市町村と情報共有を図ります。

二次元コードを用いた解説やVRによる疑似体験等誰にでもわかりやすく文化財の価値を発信する方法や、インターネットを通じて誰もが気軽に文化財にアクセスできる環境など、デジタル技術を活用した公開・活用が求められています。

世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」についても、国内外のこどもから高齢者まで幅広い年齢層が、縄文遺跡群の顕著な普遍的価値や意義について理解を深めることができるよう、様々な媒体により総合的に情報発信を図るとともに、多言語化や通信環境の整備等受入態勢の充実を進めていきます。

今後は、市町村をはじめとする地域の多様な主体と連携・協力しながら、デジタル技術の活用も含め多種多様な方法で文化財の魅力を発信するなど、地域活性化に寄与するための取組について検討していきます。

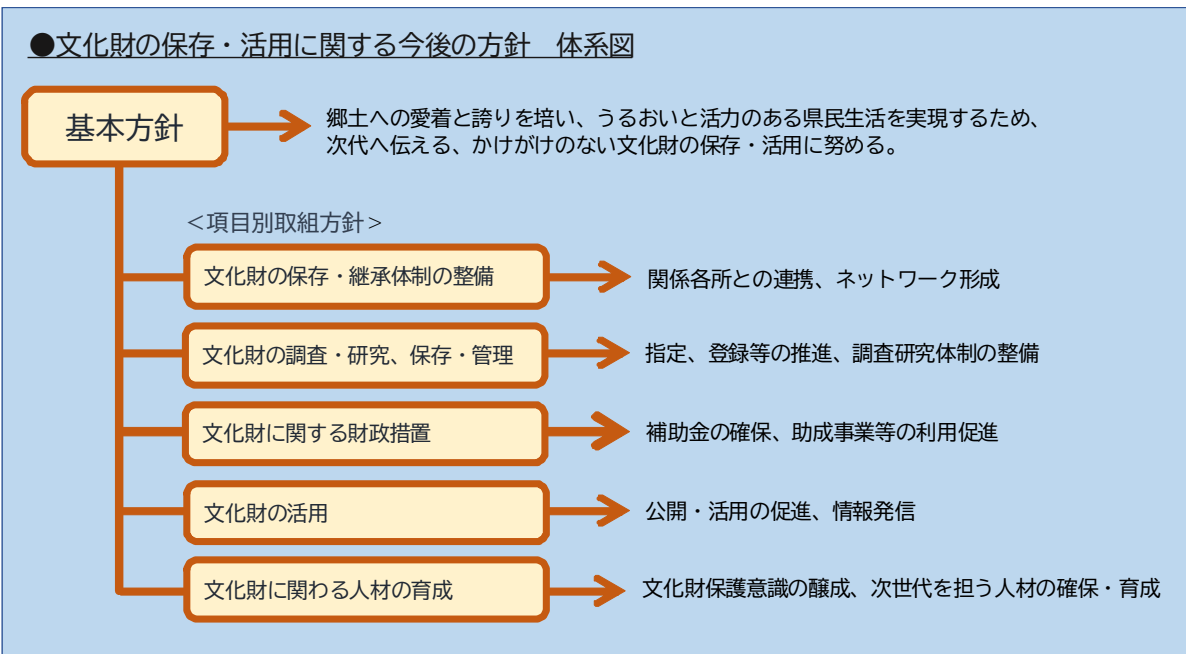
(5) 文化財に関わる人材の育成等

- 【方針】**
- ・ 地域の文化財を保存・継承していく意義を積極的に伝え、文化財保護意識の醸成を図ります。
 - ・ 専門家や高等教育機関等と連携を図り、次世代を担う人材の確保及び育成を進めます。
 - ・ 伝統芸能・技術の後継者の育成支援と発表機会の充実を図ります。
 - ・ 学校教育等での文化財に関する学習機会の充実に努めます。

文化財の調査・研究や、保存・管理に携わる人材についても、高齢化や後継者不足の問題があります。

今後、文化財の調査や価値付けを適切に行うことができる専門家等、文化財に関わる人材の確保及び育成を推進するとともに、伝統芸能の発表機会の充実等、地域の宝である文化財の価値や魅力に関する普及啓発活動や情報発信を通じて、文化財に興味・関心を持つ人々の裾野を広げていく取組が求められます。

また、小・中学校や高等学校などの学校教育において、博物館などの施設を利用した学習や出前授業、体験活動等を通じて地域の様々な文化財の魅力に触れることにより、郷土愛の醸成を図る機会の充実に努められます。



第2章 文化財の保存・活用を図るために講ずる措置

第2章では、第1章でまとめた基本的な方針に基づき、文化財の保存・活用について、県が主体となって行う各種の取組についてまとめます。

1 文化財の保存・継承体制の整備

(1) 保存・継承に係る業務の継続

本県では、これまで様々な分野の文化財に関する調査を実施するとともに、保存・継承を図ってきたところです。今後も、各市町村と連携を図りながら、これらの業務を継続していきます。

(2) 国、県、市町村の連携強化

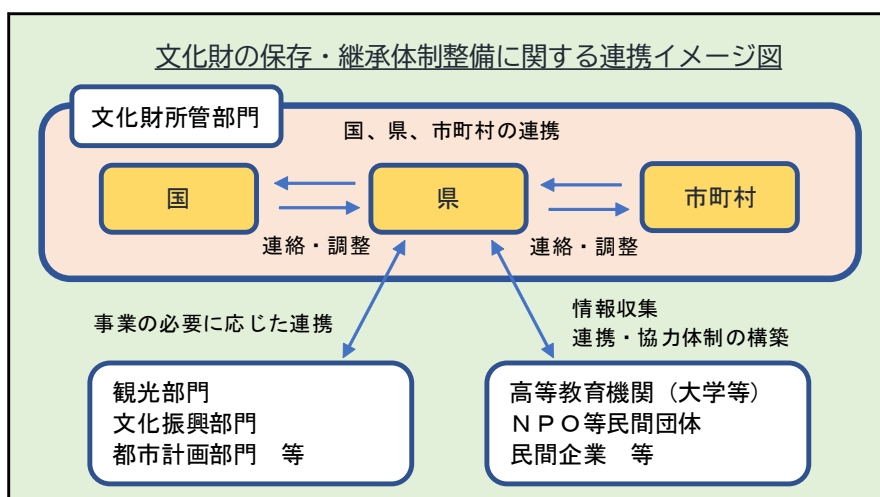
調査から指定、維持管理と一連の作業を効率的に実施できるよう、国や関係市町村と情報共有を図り計画的な保存・管理に努めます。また、県が国と市町村の間に立ち、各種業務を円滑に進めることができるよう連絡・調整を積極的に行っていきます。

(3) 関係機関等との連携強化

文化財を地域の観光資源として活用することや、まちづくり等に活かしていくためには、教育委員会のみでは対応が困難であり、観光部門や文化振興部門、都市計画部門など他部局との連携は欠かせないものとなります。これまでも各種事業や検討会議等で連携を図ってきたところですが、今後も情報共有を図り連携していきます。

また、広域な視点に立ち、文化財の保存・活用等に取り組んでいる高等教育機関やNPO等の民間団体、民間企業等に関する情報収集を進め、各種事業で連携を図ることができるよう協力体制を構築していきます。

このほか、世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」の価値の保全と公開・活用の両立を図るため、関係部局等との連携を継続するとともに、地域住民、関係団体等が主体的に行う活動を支援していきます。



2 文化財の調査・研究、保存・管理

2-1 文化財の調査・研究

(1) 調査・研究の必要性

文化財の調査・研究は、指定や保存・活用を行っていく上で欠くことのできないものです。文化財の調査が実施されることにより、地域の文化財が適切に価値付けされるとともに、記録が残され、データの蓄積を図っていくことが可能となります。

調査は、専門家の指導・助言の下、県と各市町村が連携を図り、必要に応じて文化庁や博物館・高等教育機関等に職員の派遣を依頼して実施します。

(2) 未指定も含めた文化財の掘り起こし

調査に当たっては、各地域で価値付けされないまま忘れ去られる文化財の存在も懸念されることから、未指定のものも含めて幅広い観点で取り組む必要があると考えられます。過去の文化財調査結果を活用しながら、新たな調査成果を加え、将来的な保存・活用に向けて文化財の掘り起こしを行い、リスト化を進めていきます。

また、県内各地の博物館や高等教育機関等が有する調査データの活用について検討するほか、市町村をまたいで継承されている民俗芸能等については、保存団体等の協力を得ながら調査を進めます。

このほか、未指定も含めた文化財を地域の宝として登録・認定する制度^{*1}や、郷土料理等、これまでの類型に捉われない地域資源の活用についても研究を行います。



文化財調査の様子

◎各分野別の対応

[有形文化財]

比較的歴史の浅い建造物や、地域の神社・仏閣に保管されたままの美術工芸品等は、後継者が途絶えることに伴い、あまり振り返られることもなく廃棄され、当時の生活文化が知らぬ間に失われていく可能性が高いと考えられます。

こうした文化財の保存・活用や、記録作成の方法について検討します。

[無形文化財]

少子高齢化や後継者不足の影響から、技術が失われていく技芸等について、活動の支援や後継者育成の方策とともに、記録作成の方法について検討します。

*1 令和3年の文化財保護法の一部改正により、地方公共団体による文化財の登録制度が規定されました（法第182条の3）。

[民俗文化財]

有形民俗文化財については、価値が見出されないまま廃棄される民具等について、新たな収蔵先や、図面・動画等の記録作成の方法について検討します。

また、無形民俗文化財については、上記の無形文化財と同様に、少子高齢化等の影響から、活動を止めてしまう民俗芸能団体等について、活動の支援策や動画等の記録作成の方法を検討します。

[記念物]

貝塚等の遺跡や庭園などの名勝地、巨木等について、文化財指定等も念頭に置きながら、開発行為による損壊や所有者が諸事情で手放す状況となる前に、適切な保護をどのように行っていくべきか、また、記録作成の方法について検討します。

[埋蔵文化財]

分布調査や試掘、確認調査等を行い、埋蔵文化財の有無を把握し、範囲や内容の確認に努めます。重要な埋蔵文化財包蔵地について、その保護に万全を期すとともに、近世・近代の埋蔵文化財包蔵地の取扱いについての検討を進めます。

2-2 文化財の指定

(1) 青森県文化財保護審議会^{*2}

文化財は、指定されることにより、その価値や魅力が明確になり、地域における保存・活用が図られていくことから、文化財の指定は文化財保護の基本となるものです。本県では青森県文化財保護審議会による調査等に基づき文化財の指定を進めており、今後もこれを継続していきます。

また、平成31年の文化財保護法の改正で、文化財保護審議会は、「文化財に関して優れた識見を有する者により構成される」ということが明示され、文化財保護行政の主管を首長部局に移した自治体については、文化財保護審議会の設置が必須となるなど、文化財の保存・活用に関する専門性を担保する機関としてその重要性が増しています。

(2) 文化財の価値付け

文化財の指定に当たっては、前述の調査内容の充実が求められるところであり、調査結果に基づき、専門家による文化財の価値付けを適切に行っていきます。また、指定対象については、市町村との連携を密にし、国の登録文化財も含めて幅広い観点から掘り起こしていきます。

*2 文化財保護審議会：文化財保護法第190条第1項の規定に基づき、各都道府県及び市町村において条例で定めるところにより設置されます。県の文化財保護審議会では、指定候補となる文化財の調査や文化財指定に関する諮問など、文化財の保存活用に関する重要事項について審議を行っています。

2-3 文化財の保存

(1) 各分野別の対応

指定に値する文化財として価値付けされたものについては、調査報告等の記録を適切にまとめるとともに、保存・管理環境の整備を進めます。

[有形文化財]

建造物等で修理が必要なものについては、所有者と協議の上、国や県の補助金の活用等に関する情報提供等を適宜行います。また、保存環境が良くないものについては、博物館への寄贈や寄託等、適切な保存・管理が可能な方法を検討します。

[無形文化財]

技術保持団体等の状況把握に努めるとともに、必要に応じて国や県の補助金の活用等に関する情報提供や、保持団体が開催する研修会等の支援を行います。

[民俗文化財]

有形民俗文化財については、有形文化財と同様に、必要に応じて国や県の補助金の活用等に関する情報提供や、適切な保存方法に関する検討を行います。

また、無形民俗文化財については、民俗芸能保護団体等の状況把握に努めるとともに、必要に応じて補助金等に関する情報提供を行います。このほか、用具の修繕等に対する補助や発表機会の充実等の支援を行います。

[記念物（史跡・名勝・天然記念物）]

文化財所有者や管理者、関係市町村と連携して保存環境の確認及び把握に努め、必要に応じて国や県の補助金の活用等に関する情報提供を行い、環境整備に関する支援を行います。

[埋蔵文化財]

埋蔵文化財の内容把握に努めるとともに、開発によりやむを得ず破壊される遺跡については、開発事業者と調整を図りながら、青森県埋蔵文化財調査センターを中心として記録保存の調査を行います。

(2) 原材料の確保、修復等への対応

建造物や美術工芸品、記念物、民俗文化財等を維持管理していく上では、漆や茅など修復等に要する原材料の確保も必要となることから、国等が行う取組を活用して、供給地の現状確認や専門業者等からの情報収集に努めるとともに、原材料の確保方法等について研究を進めます。

また、実際に修復等を行う場合、対応できる技術者等の協力が必要不可欠となることから、専門業者等に関する情報収集を進めるとともに、国等が開催する修理技術に関する研修等について情報提供に努めます。

2-4 文化財の保存・管理状況の確認

(1) 文化財パトロールの実施

本県に数多く存在する文化財について、全ての保存・管理状況を一時期に把握するため、県では、これまでも文化財保護指導員を委嘱し、県内各地で文化財パトロールを実施しており、今後も可能な限り現況把握に努め、パトロールの結果に基づき、関係市町村と連携して修理や環境整備を進めます。



建造物のパトロールの様子
登録有形文化財 村井家住宅（南部町）

(2) 文化財保護指導員の役割

- ① 国・県指定の有形文化財、有形民俗文化財、史跡、名勝、天然記念物及び周知の埋蔵文化財包蔵地のパトロールを行い、その状況を報告する。
- ② 文化財等の保護に関する指導及び連絡を行う。
- ③ その他文化財等の愛護に関する啓蒙活動に協力する。

3 文化財に関する財政措置

(1) 補助事業の実施

本県でこれまで行ってきた建造物等の保存・修理、無形民俗文化財の用具等の修繕、史跡・名勝・天然記念物の環境整備等に係る補助事業を継続します。

(2) 国庫補助金等の確保

文化財の維持管理に当たっては、国庫補助金の確保とともに各種助成金等の有効活用等に努めます。

(3) 計画的な修理等の実施

建造物などの大規模な修理や多額の経費を要するものについては、文化財所有者及び関係市町村と十分に協議して年次計画等を作成の上、優先順位を付けて対応を進めます。

4 文化財の活用

(1) 文化財の公開・活用

博物館等施設における文化財の公開は、活用の基本的な形です。県では、青森県立郷土館や三内丸山遺跡センターにおけるデジタル技術の活用等機能の充実を進め、訪れる人にとってより分かりやすく、興味関心を高めることができる公開方法等を検討していきます。



三内丸山遺跡センター
「さんまるミュージアム」

また、建造物や記念物等について、所有者や管理者、関係市町村の相談等に対応するとともに情報提供・情報共有を図り、登録文化財制度等により地域の魅力発信につなげる資源として適切かつ有効に公開・活用されるよう支援を行います。

(2) 新たな活用方法や取組支援の検討

今後、有名な文化財以外のものにも幅広く目を向け、各市町村や民間企業、団体等と連携を図り、国の登録文化財制度等を積極的に活用し、これまでの形にとらわれない多様な活用方法を探っていくほか、文化財所有者の経費負担を軽減しつつ、利益が望めるような活用方法や取組支援について検討を行います。

また、地域の文化財の新たな活用方法等^{*3}について、調査・研究を行うとともに事業の実施等を通じた情報発信を行います。



登録有形文化財 旧第八師団長官舎
カフェとして活用（弘前市）

5 文化財に関わる人材育成等

(1) 文化財に関わる人材の確保・育成

文化財の保存と活用に向けて、文化財の調査・研究や保存・管理に携わる専門家等を継続的に確保していくことが必要です。

このため、専門家や関係機関を通じて情報収集を行い、専門的な知識等を有する人材が文化財の保存や活用に関わる機会を提供するとともに、文化財の調査や事業等で高等教育機関や民間企業・団体等と連携し、文化財に関わる人材の確保に努めます。また、県内で人材の確保が困難な場合は、他県等とも連携を図りながら情報を収集し、人材確保に努めます。

新たに文化財保護審議会委員等に任用した場合は、経験者と共に調査等を行うなど、実地研修の機会を設けることで人材育成につなげます。



特別天然記念物カモシカ
令和元年度生息状況調査で撮影
（下北半島保護地域）

*3 新たな活用方法等：建造物や史跡をイベント会場にするなど、これまでになかった利用手段を用いることや、ドローンで撮影した史跡や庭園などの映像をスマートグラスや二次元コードにより提供するIoT技術を活用した取組など、文化財の新たな魅力を引き出す様々な方法が考えられます。

(2) 文化財保護の意識醸成を図る取組

少子高齢化等、急激な社会状況の変化に伴い、本県においても文化財の保存・継承に支障が生じている事例が見受けられ、建造物等の文化財所有者の死去に伴い相続が困難となることや、民俗芸能の担い手が不足して活動が休止となるなどの問題があります。

少子高齢化は大きな社会問題であり、今後も進行していくことが予想されます。このような中、本県では、これまでも「こども民俗芸能大会」や「民俗芸能活性化大会」により、民俗芸能団体の発表機会を確保するとともに、地域住民への魅力の発信に努めてきました。また、こどもたちが文化財の価値や魅力に理解を深められるよう、児童・生徒を対象とした文化財の調査・研究・情報発信に関する事業等を実施しました。



令和元年度「こども民俗芸能大会」
(青森市にて開催)

さらに、民俗芸能継承のための新たな指導ツールとして、動画による記録作成マニュアルを制作しSNS等で一般に広く公開する取組を進めており、今後もこれらの取組を継続していくことで、文化財に興味関心を持つ人材の育成に取り組んでいきます。

また、小・中学校や高等学校における出前授業や講師派遣、縄文遺跡等を活用した体験活動、セミナー等の開催による普及啓発活動のほか、史跡のボランティアガイド等、文化財の魅力を伝える人材の育成や活動支援に取り組みます。

<参考> 児童・生徒を対象とした取組について

青森県教育委員会では、平成29年度から、県の重点事業として児童・生徒による文化財の保存・活用に関する取組を行ってきました。

○高校生文化財魅力発信事業（平成29～30年度）

高校生が地域の文化財を調査研究し、その成果を発表する取組を通して文化財の魅力を発信することにより、地域住民の文化財への理解を促すとともに、観光資源としての文化財の活用を促進することを目的に2か年で実施しました。

初年度は、津軽地方の大石武学流庭園、2年目は南部地方の神社仏閣を題材に文化財の調査研究を行いました。



高校生文化財魅力発信事業
高校生による文化財調査の様子
(小田八幡宮仁王門（八戸市有形文化財・当時）にて)

○高校生縄文案内人養成事業（令和元～2年度）

高校生が縄文遺跡群をはじめとする文化財の価値や魅力に関する講座の受講やガイド等の体験活動を行い、新たな活用方法を提案する取組を通じて将来的に文化財の保存・活用に携わることができる人材を育成することを目的に実施しました。

北海道・北東北の縄文遺跡群の構成資産である各遺跡で、地元の活動団体等と連携してガイド体験等に取り組みました。



高校生縄文案内人養成事業
高校生によるガイド体験の様子
(史跡小牧野遺跡（青森市）にて)

○小学生による縄文遺跡と地域の文化財体験事業（令和3～5年度）

小学生が直接文化財に触れ、体験する取組を通じて、文化財の価値や魅力に関する理解を深めるとともに、郷土に対する自信と誇りを高め、将来的に文化財の保存・活用に携わる人材の育成を図ることを目的に実施しました。取組は主に各学校の「総合的な学習の時間」等を活用して行われ、最後に合同で学習成果発表を行いました。

また、取組内容をモデル事業として「学習・体験プログラム集」にまとめ、関係機関に配布し、活用してもらうこととしました。



小学生による縄文遺跡と地域の文化財体験事業
小学生による体験の様子
(縄文住居展示資料館（つがる市）にて)

第3章 各市町村への支援方針

第3章では、市町村の現状と課題を踏まえ、県の役割を示すとともに、市町村が行う文化財の保存・活用に関する取組への支援の方針及び市町村が地域計画を作成する際の相談や指導・助言、その他各種支援についてまとめます。

1 市町村の現状と課題

現在、厳しい財政状況や人員不足は全国的な課題であり、県内各市町村においても同様の課題があると考えられます。複数の専門職員が配置されている自治体は多くなく、文化財担当が他の業務を兼務している場合も珍しくありません。

これらのことから、少ない人員で多方面の業務に対応しなければならないのが実情です。

2 県の役割

県では、国と市町村のパイプ役を務めるとともに、市町村間連携や民間企業・団体との連携等、広域的な連携に関するコーディネート機能を果たしていきます。

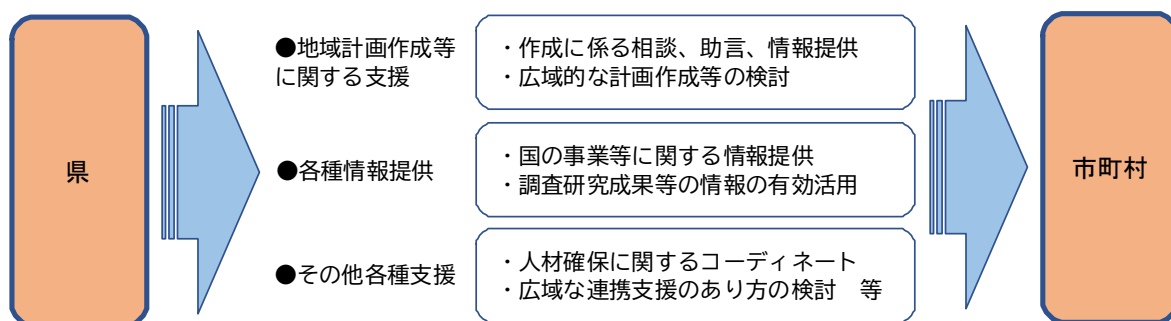
これまでと同様に、市町村の要望に応じて、国との連絡調整や協議等を確実にを行い、文化財の指定や登録についても市町村と連携して対応に当たるほか、埋蔵文化財の取扱いや、発掘調査に関する助言等の支援を行います。

また、県域を包括する立場として、様々な案件に関する情報提供、連絡調整等を行い、文化財の保存・活用の主体となる市町村の活動を支援していきます。

この他、今後、将来的に文化財保存活用支援団体に成り得る民間企業・団体等との連携を促進するネットワーク構築を進めるなど、各市町村と情報共有を図りながら取組を進めます。

3 市町村が行う文化財の保存・活用に関する取組への支援

文化財の保存・活用に関する取組への支援イメージ図



(1) 文化財保存活用地域計画作成等に関する支援

各市町村が文化財保存活用地域計画を作成する際には、相談、助言等の対応を積極的に行うとともに、大綱策定時の各種資料や文化庁の指導事項等について情

報提供を行います。

また、文化財保存活用地域計画を作成することが困難な市町村に対しては、近隣市町村との広域的な連携も視野に入れた計画作成の可能性等を検討し、助言等の支援を行います。

(2) 各種情報提供

今後の本県における文化財の保存・活用の推進に供するため、国や関係機関等から入手した情報については、各市町村に積極的に提供します。(例えば、国における新たな補助事業に関する事や、全国における文化財の観光資源としての活用事例、災害等における文化財レスキュー^{*1}や文化財ドクター^{*2}派遣の事例等。)

また、県では、これまで県内の様々な文化財に関する調査等を行っており、これらの成果をデータベース化して、各市町村と情報共有を進めるなどの活用を図ります。

その他、県で実施した事業の取組内容を事例集等にまとめ、各市町村に提供します。

(3) その他各種支援

文化財パトロール事業をはじめ、各市町村で文化財に関わる人材の確保が厳しい状況にあることから、各市町村単独ではなく、複数の市町村をまたいだ連携により人材を確保していくなど、広い視点からコーディネートを実施します。

また、市町村域を超えて継承されている民俗芸能等について、他県等で取組の実例が見られる連絡協議会の組織化に向けたサポート等、今後実施可能な支援のあり方について検討を進めます。

*1 文化財レスキュー：被災文化財等救援事業（通称：文化財レスキュー事業）。自然災害により被災した美術工芸品を中心とする文化財等を緊急に保全し、廃棄・散逸や盗難の被害から防ぐものです。東日本大震災では、文化庁の要請により「東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会（事務局：独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所）」が国立文化財機構をはじめとする13の文化財・美術関係の団体によって組織され、宮城・岩手・茨城・福島の4県で、美術工芸品だけでなく、自然史標本、公文書、図書等、地域の歴史と文化を物語る幅広い分野の資料を救出・保全しました。

*2 文化財ドクター：地震等の災害で被災した文化財である建造物の被災状況を調査するとともに、応急処置及び復旧に向けての技術的支援を行うことにより、貴重な文化財である建造物を保護することを目的に専門職員を派遣するもの。文化庁と社団法人日本建築学会の連携により、これまで、東日本大震災や熊本地震、能登半島地震などで実施されています。

このほか、歴史的建造物等に関する建築基準法の適用除外^{*3}などの各種相談に積極的に応じ、国等との連絡調整を行います。

<参考>文化財保存活用地域計画について

文化財保存活用地域計画（以下「地域計画」という。）については、文化財保護法第183条の3において、「市町村の教育委員会（地方文化財保護審議会を置くものに限る。）は、文部科学省令で定めるところにより、単独で又は共同して、文化財保存活用大綱が定められているときは当該文化財保存活用大綱を勘案して、当該市町村の区域における文化財の保存及び活用に関する総合的な計画を作成し、文化庁長官の認定を申請することができる。」と定められています。

つまり、地域計画は、本大綱を勘案し、各市町村において取り組むべき目標や具体的な取組内容をまとめたものであり、各市町村における基本的なアクション・プランとなるものです。

今後、各市町村において地域計画が作成されることにより、文化財の保存・活用に関して目指すべき将来的なビジョンや事業等の実施計画が定められ、これらに基づき計画的に取組を進めることにより、継続性をもった文化財の保存・活用の促進が期待できます。

また、地域計画の認定を受けた場合、国の登録文化財とすべき物件を提案できるほか、現状変更の許可など文化庁長官の権限に属する事務の一部を認定市町村で行うことが可能となり、地域計画の円滑な実施につながるものと考えられます。

*3 歴史的建造物等の活用（増改築や用途変更）に当たり、国指定の重要文化財については建築基準法が適用除外となりますが、県や市町村指定の文化財や登録文化財については、建築基準法第3条第1項第3号の規定に基づき、地方公共団体が定める条例により、現状変更の規制及び保存のための措置が講じられ、建築審査会の同意を得て特定行政庁が指定した建築物でなければ、建築基準法を適用除外とすることができません。

第4章では、災害に備えた県の危機管理体制や、緊急的なレスキュー活動等災害発生時における対応、日常的な防災・防犯に関する取組等についてまとめます。

1 防災・防犯・災害対策の考え方

【方針】

- ・ 本県の文化財の現状を把握し、保存・管理に努めます。
- ・ 今後起こり得る災害を想定し、災害発生時における役割分担、連絡体制等の整備に努めます。
- ・ 非常時における文化財救援ネットワークの構築等について検討を進めます。
- ・ 災害に備えた予防対策や、防災訓練、防犯対策等について、情報提供や実施の働きかけに努めます。

日本各地の文化財に大きな被害をもたらした、阪神淡路大震災や東日本大震災等の地震・津波、近年多発している豪雨等、自然災害はいつ発生するか予測がつかないものです。本県の文化財の現状については、文化財パトロールの結果等を通じ、各市町村と情報共有を図りながら把握に努めていますが、今後、災害発生を想定した上で、連絡体制等の整備を更に進める必要があります。

また、豪雪地帯である本県では、降雪による災害も予見した上で、非常時に備えた危機管理体制を構築しておく必要があります。

さらに、火災により貴重な文化財が焼失してしまう事例も発生しており、平時から、自然災害以外にも火災や盗難、棄却等、防災・防犯に常に注意する必要があります。

このほか、地震・豪雨等の災害発生時など非常時における文化財レスキュー等の救援ネットワークの構築などが今後の課題であり、それらに対応できる体制整備が求められます。

2 危機管理体制

(1) 県の危機管理体制

県では、地域防災計画を策定し、県全域を対象に各種災害に応じた体制や対応策等をまとめています。また、県教育委員会では、緊急時対応マニュアルを作成し、緊急時の連絡網を整備しています。文化財が被災した場合は、所管する自治体が状況を確認して県教育委員会に報告し、県教育委員会では被災状況を取りまとめて国等へ報告します。

(2) 文化財の防災・災害発生時の対応（青森県地域防災計画より）

① 災害予防計画

(風水害等災害対策編(令和8年2月修正)第3章・第15節、地震・津波災害対策編(令和8年2月修正)第3章・第21節)

県内には、歴史的に価値の高い文化財が数多く残されており、これら文化財を保存し、後世に伝えるためには万全の配慮が必要であり、現況を正確に把握し予想される災害に対して予防対策を計画し、文化財保護のための施設・設備の整備等の災害対策に努めるとともに文化財保護思想の普及・徹底及び現地指導の強化を推進するよう努める。

文化財の所有者又は管理者は、良好な状況の下で文化財の維持管理に当たるものとし、国指定のものにあつては、文化庁長官若しくは法の定めるところにより指定又は委託を受けた県教育委員会及び市町村教育委員会^{*1}、県指定のものにあつては、県教育委員会の指示に従い管理するよう努める。

② 災害応急対策計画

(風水害等災害対策編(令和8年2月修正)第4章・第27節、地震・津波災害対策編(令和8年2月修正)第4章・第27節)

文化財は貴重な国民的財産であることに鑑み、次のような応急対策を実施するものとする。

- ア 文化財に被害が発生した場合は、その所有者又は管理者は、応急の防災活動、搬出等により文化財の保護を図るとともに、被害状況を速やかに調査し、その結果を市町村教育委員会を経由して県教育委員会に報告する。
- イ 県教育委員会及び市町村教育委員会は被災文化財の被害拡大を防ぐため、協力して応急措置を講じる。
- ウ 被災文化財については、文化財的価値を最大限に維持するよう所有者、管理者が県教育委員会及び市町村教育委員会の指導・助言により必要な措置を講ずる。

③ 災害対策に関する事務の分担(文化財保護)

(資料編(令和5年2月修正)第2章・第3節)

- ア 文化財等の被災状況の情報収集に関すること。
- イ 文化財等の災害応急対策の実施(応急復旧、予算措置、国庫補助等申請等)に関すること。
- ウ 博物館等(文化財関連)施設・設備の被災状況の情報収集に関すること。
- エ 博物館等(文化財関連)施設・設備の災害応急対策の実施(応急復旧、予算措置、国庫補助等申請等)に関すること。

*1 条例の定めにより、地方公共団体の長が文化財の保護に関する事務を所管する場合は、「市町村教育委員会」を「市町村」と読替えます。

3 文化財の救援（文化財レスキュー・文化財ドクター）

前述のとおり、近年、地震や豪雨、豪雪等、これまで予想もしなかった規模の災害に突然見舞われ、日本各地の文化財が甚大な被害を受けており、本県においても令和7年12月に八戸市で最大震度6強を観測した青森県東方沖地震では文化財に係る被害があったことから、日頃から不測の事態に備えておく必要があります。

本県ではこれまで文化財レスキューの実績はないものの、青森県立郷土館をはじめとする県内の博物館、大学（史料ネット^{*2}）、民間企業・団体等と情報交換を進め、災害等発生時におけるレスキュー活動の実施方法・体制、連絡網等について、他県等の事例も踏まえながら検討を進めます。

同様に、文化財ドクターについては、青森県建築士会等と連携して震災発生時の他県における派遣事例等について情報収集を行い、ヘリテージマネージャー^{*3}の活動のあり方について検討を進めます。

一方、災害以外でも、文化財所有者等の事情により引き取り手がないうまま文化財が放置される可能性等を予測し、対応方法を検討しておく必要があります。

そのほか、国立文化財機構が主催する「文化財防災ネットワーク推進事業」と連携を図り、文化財防災に関する様々な情報を入手するほか、デジタルアーカイブ化による文化財の記録の保全についても検討を進めます。

4 防災機器等の設置及び修理、耐震化対策

国・県指定文化財の建造物については、所有者を対象に火災報知設備の設置、防災設備の修理等に関して補助事業を実施しているところであり、今後も継続していきます。

また、建造物等の耐震予備診断や耐震補強等について、文化財所有者等に情報提供するとともに、対策の実施等に関する相談に応じます。このほか、各種防災対策等に関する国や県の取組についても随時情報提供し、日常の管理に関する注意喚起や防災意識の向上に努めます。

*2 史料ネット（歴史資料ネットワーク）： 歴史資料ネットワークは、1995年2月4日、関西に拠点を置く大阪歴史学会、日本史研究会、大阪歴史科学協議会、京都民科歴史部会、神戸大学史学研究会、神戸女子大史学会などの歴史学会を中心に、阪神大震災で被災した歴史資料保全のために歴史資料保全情報ネットワークとして開設されました（1996年4月に歴史資料ネットワークと改称）。

*3 ヘリテージマネージャー： 歴史的建造物の保全活用に係る専門家であり、地域に眠る歴史文化遺産を発見し、保存・活用を図り、地域づくりに活かしていく役割を担っています。公益社団法人 日本建築士会連合会では、平成24年に「全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会」を設立しています。

5 防災訓練、防犯対策

例年、文化財防火デーに合わせ、各市町村及び関係機関に対し、防災訓練や消防用設備点検の実施等防災対策の推進について働きかけています。また、県内各地における防災訓練等に関する実施状況の把握に努めており、今後も継続して取り組みます。

文化財の盗難や棄損等の防犯対策についても、市町村や文化財所有者等に対して随時情報提供を行って注意喚起を促すとともに、文化財パトロール等を通じて文化財の現況把握に努め、必要に応じて警察との連携及び情報共有を図ります。



ひらやまけ
防火訓練 重要文化財 旧平山家住宅
(五所川原市)

<参考>新型コロナウイルス感染症拡大による影響

2020年1月に国内で初めて新型コロナウイルス感染症が検知されて以降全国に拡大し、文化財についても大きな影響を受けました。

本県においても、無形民俗文化財である「青森のねぶた」や「弘前のねぶた」、「八戸三社大祭の山車行事」等、例年、多くの観光客が訪れる祭りは軒並み中止に追い込まれたほか、各地域で行われている民俗芸能等の行事や催し物も中止や延期を余儀なくされました。

県関係の事業では、2020年・2021年に開催予定であった、「こども民俗芸能大会」や、「北海道・東北ブロック民俗芸能大会」等が中止（次年度に延期）となりました。

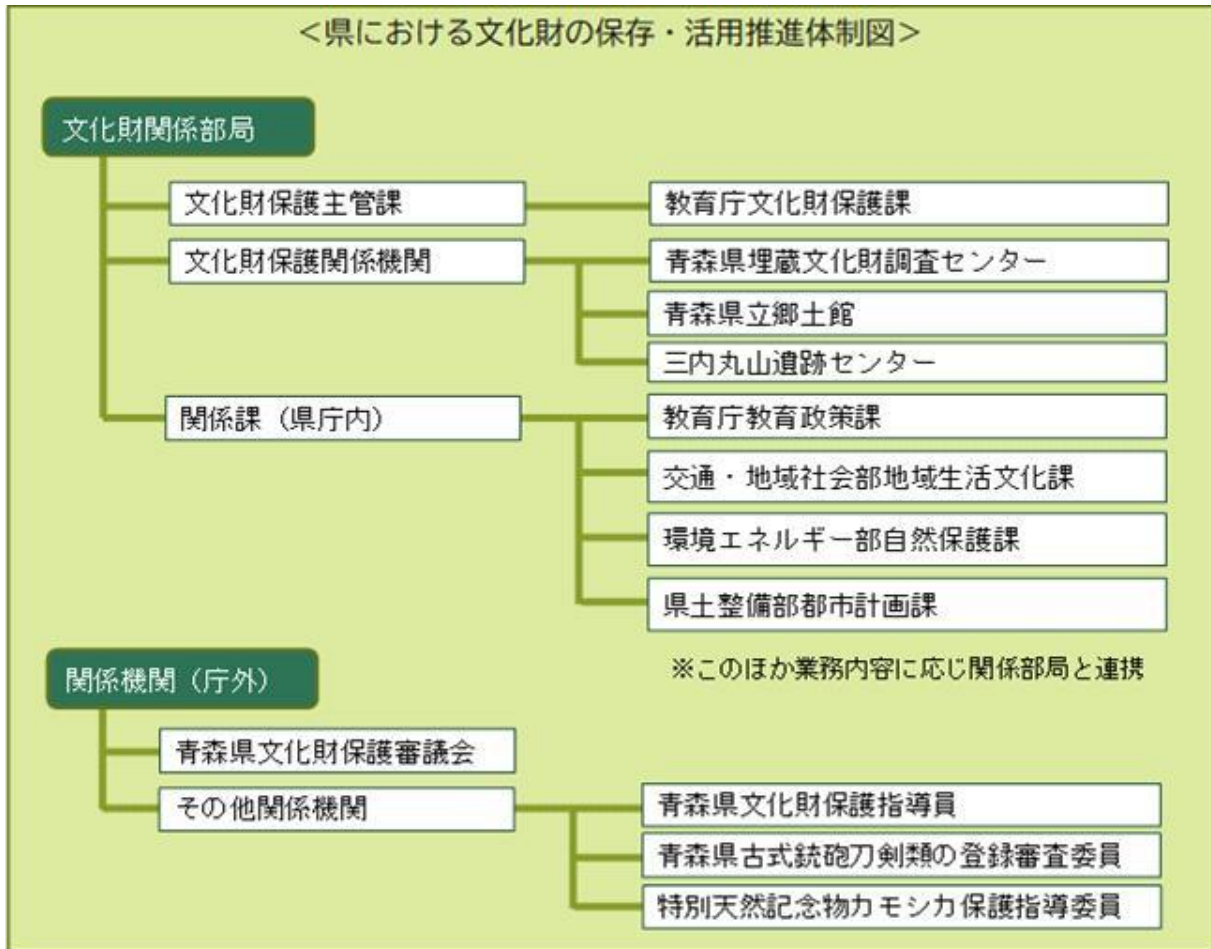
また、この当時、博物館等の展示・収蔵施設についても影響は大きく、来館者及び職員の安全確保のため、ガイドライン等に基づき様々な対策を行いました。

感染症の拡大は、地震や豪雨等の自然災害とは異なるものですが、社会全体に多大な影響を及ぼす可能性が高いものであり、これを契機とし、発生時の対策や予防等について平時から準備しておく必要があります。

第5章 文化財の保存・活用の推進体制

第5章では、文化財担当部局や関係部局、関係機関における職員の配置状況、文化財保護審議会等の設置状況、今後の体制整備の方針等についてまとめます。

1 青森県における文化財の保存・活用体制



(1) 文化財関係部局及び職員の体制

(※業務内容は、令和8年4月1日現在のもの。)

文化財保護主管課

【教育庁文化財保護課】

○業務内容

- ・文化財の保護に関すること。
- ・県文化財保護審議会に関すること。
- ・銃砲刀剣類の登録及び刀剣類の製作の承認に関すること。
- ・ユネスコ活動に関すること。
- ・博物館に関すること。

- ・青森県立郷土館に関すること。
- ・青森県埋蔵文化財調査センターに関すること。
- ・三内丸山遺跡センターに関すること。

文化財保護関係機関

【青森県埋蔵文化財調査センター】

○業務内容

- ・埋蔵文化財の発掘調査の企画及び実施に関すること。
- ・埋蔵文化財の研究及び発掘調査報告書の刊行に関すること。
- ・出土品その他の資料の整理、保存及び活用に関すること。
- ・埋蔵文化財の調査及び保存に関する研修等市町村の支援に関すること。
- ・埋蔵文化財に関する情報の収集及び埋蔵文化財保護の啓発に関すること。

【青森県立郷土館】

○業務内容

- ・郷土の歴史、民俗、産業、自然等に関する実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の資料(以下「郷土館資料」という。)を収集し、保管し、及び展示すること。
- ・郷土館資料の利用に関し必要な説明、助言及び指導を行うこと。
- ・郷土館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- ・郷土館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び配布すること。
- ・郷土館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を主催し、及びその開催を援助すること。
- ・その他郷土館資料の利用に関し必要な業務

【三内丸山遺跡センター】

○業務内容

- ・三内丸山遺跡に関する調査及び研究に関すること。
- ・三内丸山遺跡及び三内丸山遺跡の出土品の保存に関すること。
- ・三内丸山遺跡に関する資料の展示に関すること。
- ・三内丸山遺跡に関する学習の機会及び情報の提供に関すること。。
- ・その他三内丸山遺跡の保存及び活用に関し必要な業務
- ・北海道・北東北の縄文遺跡群包括的保存管理計画の推進に関すること。

関係課

【教育庁教育政策課】

○業務内容

- ・災害・事故等の情報収集と連絡調整に関すること。

【交通・地域社会部地域生活文化課】

○業務内容

- ・文化振興の総合的な企画、調整及び推進に関すること。
- ・芸術文化団体に関すること。
- ・県史の利活用の推進に関すること。

【環境エネルギー部自然保護課】

○業務内容

- ・国立公園、国定公園及び県立自然公園に関すること(施設に係る事務を除く。)
- ・鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関すること。

【県土整備部都市計画課】

○業務内容

- ・三内丸山遺跡を活用した公園施設の整備に関すること。

※上記のほか、業務内容に応じ、観光交流推進部や農林水産部等と随時連携を図っています。

(2) 青森県文化財保護審議会

○業務内容

県教育委員会の諮問に応じて、文化財の保存及び活用に関する重要事項について調査審議し、並びにこれらの事項に関して県教育委員会に建議する。

○委員数15名(定員15名)※委員数は令和8年4月1日現在

分野別内訳：建造物2名、絵画1名、工芸品・彫刻1名、考古資料1名、歴史資料2名、技芸1名、民俗文化財2名、記念物4名(史跡、名勝、動物、植物各1名)、学校教育1名

(3) その他の委員等

① 青森県文化財保護指導員(文化財パトロール)

各市町村に文化財保護指導委員(パトロール員)を委嘱・配置し、国・県指定等の対象文化財及び埋蔵文化財包蔵地についてパトロールを行う。

(毎年度75名程度を委嘱・配置。)

- ② 青森県古式銃砲刀剣類の登録審査委員
美術品若しくは骨董品として価値のある火縄式銃砲等の古式銃砲又は美術品として価値のある刀剣類の鑑定を行う。登録審査会を年4回開催。
(委員数4名(定員5名)) ※委員数は令和8年4月1日現在
- ③ 特別天然記念物カモシカ保護指導委員
特別天然記念物カモシカについて、北奥羽山系保護地域及び下北半島保護地域における特別調査及び通常調査に関する指導・助言を行う。
(委員数2名:北奥羽山系担当1名、下北半島担当1名)
※委員数は令和8年4月1日現在

2 今後の体制整備

(1) 現状における課題

- ① 専門職員の確保及び育成
文化財の保存・活用を進めていく上で、専門的な知識・経験等を有する職員を確保し、育成することは、重要です。
本県においては、これまで埋蔵文化財分野の専門職員の確保に努めてきましたが、今後はそれ以外の分野についても、専門職員の確保を検討する必要があります。
また、専門職員の育成のためには、文化庁等が実施する各種研修に参加するなど、計画的に資質向上を図る取組が求められます。
- ② 青森県文化財保護審議会
本県文化財の保存・活用に関して要となる機関であり、委員となる人材の確保及び後継者の育成が求められます。
また、その一方で人材不足等に対応するため、必要に応じて外部の人材との連携が図られるような体制の見直しも検討する必要があります。
- ③ その他委員等の人材確保
その他の委員等についても、専門的な知識や経験が必要であり、対応できる人材の確保が課題となっています。

(2) 文化財の保存・活用に関する望ましい体制整備

今後の望ましい体制整備を考えていく上で、人材が確保されていることが重要なのは言うまでもありませんが、働き手の不足は社会的な課題であり、全国的に同様の課題を抱えていると言えます。

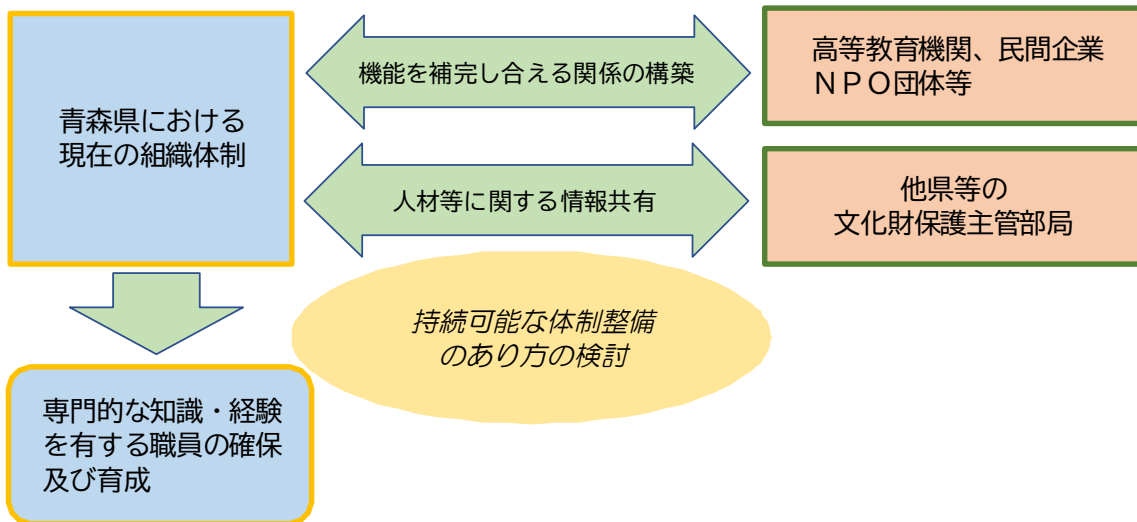
このため、現在ある組織体制の中で、専門的な知識・経験を有する職員(学芸

員等)をいかに確保し、育成していけるかが重要であり、その一方で、大学等の高等教育機関や民間企業、NPO等の団体などとの連携を深め、互いの機能を補完し合える関係を構築していくことが求められます。

また、上記(1)のとおり文化財に関わる人材不足は大きな課題であり、この状況を速やかに解消することは大変難しいと思われませんが、こうした現実を踏まえ、本県のみならず他県等との情報共有や連携を図りながら、より広域な視点を持って人材の確保に努めるなど、今後も持続可能な体制整備のあり方を検討する必要があります。

さらには、地域の文化財の価値や魅力を理解してもらう取組を継続していく中で、文化財に興味関心を持ち、将来的に文化財の保存・活用に携わることができる人材の育成を図ることが重要となります。

望ましい体制整備イメージ図



付属資料

- 1 国・県・市町村指定等文化財一覧
- 2 青森県文化財調査報告書一覧（主なもの）
- 3 青森県埋蔵文化財調査報告書一覧
- 4 青森県立郷土館調査報告書等一覧
- 5 青森県史一覧
- 6 青森県文化財保存活用大綱の策定について
- 7 掲載画像提供先等一覧

国・県・市町村指定等文化財件数一覧 [総括表]

(令和7年4月1日現在)

【指定】

種別	国指定		県指定		市町村指定	
有形文化財	○国宝					
	・工芸品	2				
	・考古資料	1				
	○重要文化財		○県重宝			
	・建造物	34	・建造物	48		
	・絵画	0	・絵画	8		
	・彫刻	2	・彫刻	31		
	・工芸品	7	・工芸品	30		
	・書跡	0	・書跡	4		
	・考古資料	14	・考古資料	31		
・歴史資料(史料)	0	・歴史資料(史料)	12			
	計	60	計	164	計	597
文無 化財形	○重要無形文化財		○県技芸	2		
	・工芸技術	1				
	計	1		2	計	5
文民 化財俗	○重要有形民俗文化財	8	○県有形民俗文化財	13	○有形の民俗文化財	64
	○重要無形民俗文化財	8	○県無形民俗文化財	56	○無形の民俗文化財	158
	計	16	計	69	計	222
記念物	○特別史跡	1	○県史跡	20	○史跡	92
	○史跡	22	○県名勝	1	○名勝	10
	○特別名勝及び天然記念物	1	○県天然記念物	40	○天然記念物	166
	○名勝及び天然記念物	1				
	○名勝	8				
	○特別天然記念物	2				
	○天然記念物	16				
	計	51	計	61	計	268
	合計	128	合計	296	合計	1,092

【国の選定、登録等】

選定	重要伝統的建造物群保存地区	2
	選定保存技術	1
登録	登録有形文化財	101
	登録有形民俗文化財	1
	登録記念物	4
記録選択	記録作成等の措置を講ずべき無形文化財	1
	記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財	15
美術品要	書跡	4
	考古資料	1
	合計	130

国指定等文化財一覽

(令和7年4月1日現在)

有形文化財

国 宝

[工芸品]

名 称 及 び 員 数	指定年月日	所 在 地	所有者及び管理団体
1 赤糸威鎧 兜、大袖付 1 領	昭 28. 11. 14	八戸市八幡字八幡丁	櫛 引 八 幡 宮
2 白糸威褌取鎧 兜、大袖付 1 領	昭 28. 11. 14	〃	〃

[考古資料]

名 称 及 び 員 数	指定年月日	所 在 地	所有者及び管理団体
1 土偶 (八戸市風張 1 遺跡出土) 1 箇	平 21. 7. 10	八戸市是川字横山	八 戸 市

重要文化財

[建造物]

名 称 及 び 員 数	指定年月日	所 在 地	所有者及び管理団体
1 最勝院五重塔 1 基	明 41. 4. 23	弘前市銅屋町	最 勝 院
2 岩木山神社楼門 1 棟	明 41. 4. 23	弘前市百沢字寺沢	岩 木 山 神 社
3 岩木山神社拝殿 1 棟	明 41. 4. 23	〃	〃
4 岩木山神社本殿、奥門、瑞垣、 中門 4 棟	昭 46. 6. 22	〃	〃
5 弘前八幡宮本殿、唐門 2 棟	昭 11. 9. 18	弘前市八幡町	弘 前 八 幡 宮
6 長勝寺三門 1 棟	昭 11. 9. 18	弘前市西茂森	長 勝 寺
7 弘前城 天守、二の丸辰巳櫓 二の丸未申櫓、二の丸丑寅櫓 二の丸南門、二の丸東門 三の丸追手門、北の郭北門 8 棟	昭 12. 7. 29	弘前市下白銀町	弘 前 市
8 誓願寺山門 1 棟	昭 13. 8. 26	弘前市新町	誓 願 寺
9 円覚寺薬師堂内厨子 1 基	昭 28. 8. 29	深浦町深浦字浜町	円 覚 寺
10 弘前城三の丸東門 1 棟	昭 28. 11. 14	弘前市下白銀町	弘 前 市
11 南部利康霊屋 1 棟	昭 28. 11. 14	南部町小向字正寿寺	個 人 (管) 南 部 町
12 津軽為信霊屋 1 棟	昭 28. 11. 14	弘前市藤代	革 秀 寺
13 東照宮本殿 1 棟	昭 28. 11. 14	弘前市笹森町	弘 前 市
14 熊野奥照神社本殿 1 棟	昭 29. 9. 17	弘前市田町	熊 野 奥 照 神 社
15 旧第五十九銀行本店本館 1 棟	昭 47. 5. 15	弘前市元長町	弘 前 市
16 石場家住宅 1 棟	昭 48. 2. 23	弘前市亀甲町	個 人
17 高橋家住宅主屋、 米蔵・味噌蔵、文庫蔵 3 棟	昭 48. 2. 23 平 16. 12. 10	黒石市中町 (追加指定)	〃
18 旧笠石家住宅 1 棟	昭 48. 2. 23	十和田市奥瀬字栃久保	十 和 田 市
19 江渡家住宅 1 棟	昭 48. 2. 23	五戸町荒町	個 人
20 旧平山家住宅主屋、表門 2 棟	昭 53. 1. 21	五所川原市湊字千鳥	五 所 川 原 市
21 弘前学院外人宣教師館 1 棟	昭 53. 1. 21	弘前市稔町	(学) 弘 前 学 院
22 清水寺観音堂 1 棟	昭 55. 1. 26	八戸市是川字中居	清 水 寺
23 津軽家霊屋 環月臺、碧巖臺、 明鏡臺、白雲臺、凌雲臺 5 棟	昭 61. 1. 22	弘前市西茂森	長 勝 寺
24 長勝寺御影堂 1 棟	昭 61. 1. 22	〃	〃
25 櫛引八幡宮本殿、旧拝殿、 末社神明宮本殿、末社春日社本殿、 南門 5 棟	平 5. 4. 20	八戸市八幡字八幡丁	櫛 引 八 幡 宮

名称及び員数	指定年月日	所在地	所有者及び管理団体
26 長勝寺本堂、庫裏	2棟 平 5. 8. 17	弘前市西茂森	長 勝 寺
27 革秀寺本堂	1棟 平 5. 8. 17	弘前市藤代	革 秀 寺
28 旧弘前偕行社	1棟 平 13. 6. 15	弘前市御幸町	弘 前 市
29 旧津島家住宅主屋、文庫蔵、中の蔵、米蔵、煉瓦塀	6棟 平 16. 12. 10	五所川原市金木町朝日山	五 所 川 原 市
30 高照神社本殿、中門、西軒廊、東軒廊、拝殿及び幣殿、随神門、津軽信政公墓、廟所拝殿、廟所門	8棟2基 平 18. 7. 5	弘前市高岡字神馬野 弘前市高岡字獅子沢	高 照 神 社 個人・（管）高照神社
31 旧大湊水源地水道施設	3所 平 21. 12. 8	むつ市宇田町、桜木町	む つ 市
32 旧弘前藩諸士住宅	1棟 平 28. 2. 9	弘前市若党町	弘 前 市
33 木村産業研究所	1棟 令 3. 8. 2	弘前市在府町	一 般 財 団 法 人 木 村 産 業 研 究 所
34 尻屋埼灯台	1基 令 4. 12. 12	東通村尻屋字尻屋崎	国（国土交通省）

【彫刻】

名称及び員数	指定年月日	所在地	所有者及び管理団体
1 木造阿弥陀如来坐像	1躯 大 4. 3. 26	むつ市田名部町	常 念 寺
2 木造阿弥陀如来坐像	1躯 大 9. 8. 16	大鰐町蔵館字村岡	大 円 寺

【工芸品】

名称及び員数	指定年月日	所在地	所有者及び管理団体
1 紫系威肩白浅黄鎧、兜、大袖付	1領 大 4. 3. 26	八戸市八幡字八幡丁	櫛 引 八 幡 宮
2 唐櫃入白糸威肩赤胴丸、兜、大袖付	1領 大 4. 3. 26	〃	〃
3 兜、浅黄威肩赤大袖二枚付	1頭 大 4. 3. 26	〃	〃
4 太刀 銘友成作	1口 大 14. 4. 24	弘前市高岡字獅子沢	高 照 神 社
5 太刀 銘真守	1口 大 15. 4. 19	〃	〃
6 銅鐘	1口 昭 16. 11. 6	弘前市西茂森	長 勝 寺
7 刀 無銘伝来国光	1口 昭 34. 12. 18	弘前市土手町	個 人

【考古資料】

名称及び員数	指定年月日	所在地	所有者及び管理団体
1 青森県是川遺跡出土品	963点 昭 37. 2. 2 平 23. 6. 27	八戸市是川字横山 (追加指定及び名称変更)	八 戸 市
2 青森県石神遺跡出土品	219箇 平 2. 6. 29	つがる市森田町森田月見野	つ が る 市
3 青森県宇鉄遺跡出土品	559箇 平 3. 6. 21	青森市本町	青 森 県
4 青森県大石平遺跡出土品	一括 平 7. 6. 15 (198箇)	〃	〃
5 青森県風張1遺跡出土品	一括 平 9. 6. 30 (663箇)	八戸市是川字横山	八 戸 市
6 青森県薬師前遺跡墓坑出土品	一括 平 12. 6. 27 (33点)	八戸市根城字東構	五 戸 町
7 青森県砂沢遺跡出土品	一括 平 12. 12. 4 (230点)	弘前市下白銀町	弘 前 市
8 青森県三内丸山遺跡出土品	(1,958点) 平 15. 5. 29	青森市本町	青 森 県
9 猪形土製品	1点 平 23. 6. 27	弘前市下白銀町	弘 前 市
青森県十腰内2遺跡出土			
10 青森県二枚橋2遺跡出土品	1,308点 平 24. 9. 6	むつ市金谷	む つ 市
11 土偶	1箇 平 24. 9. 6	野辺地町字野辺地	野 辺 地 町
青森県有戸鳥井平4遺跡出土			
12 赤漆塗木鉢	1点 平 26. 8. 21	〃	〃
青森県向田18遺跡出土			
13 青森県丹後平古墳群出土品	一括 平 30. 10. 31 (195点)	八戸市根城字東構	八 戸 市
14 青森県櫛引遺跡出土品	一括 令 5. 6. 27 (83点)	〃	〃

無形文化財

重要無形文化財

[工芸技術]

名称及び員数	指定年月日	所在地	保持団体
1 津軽塗	平 29. 10. 2	—	津軽塗技術保存会

民俗文化財

重要有形民俗文化財

名称及び員数	指定年月日	所在地	所有者及び管理団体
1 泊のまるきぶね 1隻	昭 38. 5. 15	青森市本町	青 森 県
2 南部のさしこ仕事着コレクション 64点	昭 41. 6. 11	三沢市（教育委員会）	三 沢 市
3 円覚寺奉納海上信仰資料 106点	昭 56. 4. 22	深浦町深浦字浜町	円 覚 寺
4 津軽・南部のさしこ着物 786点	昭 58. 4. 13	青森市本町	個 人
5 南部七戸見町観音堂庶民信仰資料 359点	平 2. 3. 29	七戸町字見町	見 町 観 音 堂 講 中 (管)七戸町(平4. 7. 27)
6 南部七戸小田子不動堂奉納絵馬 108点	平 2. 3. 29	七戸町字和田下	八 幡 神 社 (管)七戸町(平4. 7. 27)
7 八戸及び周辺地域の漁撈用具と浜小屋 1, 383点 1棟	平 5. 4. 15	八戸市根城字東構 八戸市鮫町字大作平	八 戸 市
8 津軽海峡及び周辺地域のムダマ ハギ型漁船コレクション 67隻	平 9. 12. 15	青森市沖館	青 森 市

重要無形民俗文化財

名称及び員数	指定年月日	所在地	保護団体
1 八戸のえんぶり	昭 54. 2. 3	八戸市、三戸郡	八 戸 地 方 え ん ぶ り 連 合 協 議 会
2 青森のねぶた	昭 55. 1. 28	青森市	青 森 ね ぶ た 祭 保 存 会
3 弘前のねぶた	昭 55. 1. 28	弘前市	弘 前 ね ぶ た 保 存 会
4 岩木山の登拝行事	昭 59. 1. 21	青森市、弘前市、黒石市、 五所川原市、平川市、東津 軽郡、西津軽郡、中津軽 郡、南津軽郡、北津軽郡	お 山 参 詣 保 存 会
5 下北の能舞	平 元. 3. 20	下北郡、むつ市、上北郡	下 北 の 能 舞 保 存 連 合 会
6 泉山の登拝行事	平 9. 12. 15	三戸町泉山	泉 山 七 歳 児 初 参 り 保 存 会
7 八戸三社大祭の山車行事	平 16. 2. 6	八戸市	八 戸 三 社 大 祭 山 車 祭 り 行 事 保 存 会
8 津軽海峡及び周辺地域における 和船製作技術	平 18. 3. 15	津軽海峡周辺地域	津 軽 海 峡 及 び 周 辺 地 域 に お け る 和 船 製 作 技 術 保 存 会

記念物

特別史跡

名称及び員数	指定年月日	所在地	所有者及び管理団体
1 三内丸山遺跡	史跡 平 9. 3. 5 特別 平 12. 11. 24 平 26. 3. 18	青森市三内字丸山、安田字 近野 (追加指定)	青 森 県

史 跡

名 称 及 び 員 数	指定年月日	所 在 地	所有者及び管理団体
1 浪岡城跡	昭 15. 2. 10 平 元. 3. 7	青森市浪岡大字浪岡 (追加指定)	(管) 青 森 市 (昭15. 12. 13)
2 七戸城跡	昭 16. 12. 13 平 元. 8. 14 平 12. 12. 13	七戸町七戸字貝ノ口 (追加指定) (追加指定)	(管) 七 戸 町 (昭17. 3. 11)
3 根城跡	昭 16. 12. 13 平 23. 2. 7	八戸市根城 (追加指定)	(管) 八 戸 市 (昭17. 3. 11)
4 津軽氏城跡 (種里城跡・堀越城跡・弘前城跡)	昭 27. 3. 29 昭 59. 12. 6 昭 60. 11. 15 平 元. 8. 11 平 14. 12. 19 平 22. 8. 5	弘前市下白銀町、西茂森町、新 寺町、堀越町外、鱈ヶ沢町種里 (追加指定及び一部指定解除) (追加指定及び名称変更) (追加指定) (追加指定及び名称変更) (追加指定)	(管) 弘 前 市 (昭52. 12. 10)
5 亀ヶ岡石器時代遺跡	昭 19. 6. 26 令 2. 3. 10	つがる市木造館岡・亀ヶ岡 (追加指定)	(管) つ が る 市 (昭19. 10. 24)
6 田小屋野貝塚	昭 19. 6. 26 平 29. 10. 13	つがる市木造館岡田小屋野 (追加指定)	(管) つ が る 市 (昭19. 10. 24)
7 是川石器時代遺跡	昭 32. 7. 1 平 16. 9. 30 平 25. 10. 17 平 28. 10. 3 令 7. 3. 10	八戸市是川 (追加指定) (追加指定) (追加指定) (追加指定)	(管) 八 戸 市 (昭33. 6. 18)
8 長七谷地貝塚	昭 56. 5. 25	八戸市桔梗野工業団地	八 戸 市
9 小牧野遺跡	平 7. 3. 17 平 13. 8. 13	青森市野沢字小牧野 (追加指定)	(管) 青 森 市 (平8. 11. 13)
10 二ツ森貝塚	平 10. 1. 16 平 27. 3. 10 平 27. 10. 7	七戸町字貝塚家ノ前 (追加指定) (追加指定)	(管) 七 戸 町 (平27. 7. 7)
11 丹後平古墳群	平 11. 1. 14	八戸市根城字丹後平	八 戸 市
12 垂柳遺跡	平 12. 4. 11	田舎館村垂柳・高樋	田 舎 館 村
13 高屋敷館遺跡	平 13. 1. 29	青森市浪岡高屋敷	青 森 市
14 聖寿寺館跡	平 16. 9. 30 平 25. 3. 27	南部町小向字正寿寺 (追加指定)	南 部 町 ほ か
15 五所川原須恵器窯跡	平 16. 9. 30	五所川原市持子沢字隠川	五 所 川 原 市 ほ か
16 十三湊遺跡	平 17. 7. 14 平 18. 7. 28 平 19. 7. 26	五所川原市十三 (追加指定) (追加指定)	五 所 川 原 市 ほ か
17 浜尻屋貝塚	平 18. 7. 28	東通村尻屋字念佛間	尻 屋 土 地 保 全 会
18 阿光坊古墳群	平 19. 7. 26	おいらせ町阿光坊	(管) お い ら せ 町 (平19. 10. 4)
19 大森勝山遺跡	平 24. 9. 19	弘前市大森字勝山	弘 前 市 ほ か
20 大平山元遺跡	平 25. 3. 27 平 27. 10. 7	外ヶ浜町字蟹田大平山元・沢辺 (追加指定)	(管) 外 ケ 浜 町 (平26. 7. 10)
21 山王坊遺跡	平 29. 2. 9	五所川原市相内岩井・桂川	(管) 五 所 川 原 市 (平29. 3. 22)
22 三戸城跡	令 4. 3. 15	三戸町梅内字城ノ下	(管) 三 戸 町 (令 4. 7. 25)

特別名勝及び天然記念物

名 称	指定年月日	所 在 地	所有者及び管理団体
1 十和田湖および奥入瀬溪流	名天 昭 3. 4. 12 特名 昭 27. 3. 29	十和田市	

名勝及び天然記念物

名 称	指定年月日	所 在 地	所有者及び管理団体
1 仏宇多（仏ヶ浦）	昭 16. 4. 23	佐井村長後	農 林 水 産 省

名 勝

名 称	指定年月日	所 在 地	所有者及び管理団体
1 種差海岸	昭 12. 12. 21	八戸市鮫町	(管) 八 戸 市 (昭13. 9. 15)
2 盛美園	昭 28. 3. 31 平 14. 12. 19	平川市猿賀石林 (追加指定)	個 人
3 瑞楽園	昭 54. 5. 31	弘前市宮館字宮館沢	弘 前 市
4 清藤氏書院庭園	昭 54. 8. 7 平 19. 2. 6	平川市猿賀石林 (追加指定)	個 人
5 金平成園（澤成園）	平 18. 1. 26	黒石市内町・上町	黒 石 市
6 成田氏庭園	令 2. 3. 10	弘前市樹木	個 人
7 對馬氏庭園	〃	弘前市折笠字宮川	〃
8 須藤氏庭園（青松園）	〃	弘前市前坂字船山	〃

特別天然記念物

名 称	指定年月日	所 在 地	所有者及び管理団体
1 小湊のハクチョウおよびその飛来地	天 大 11. 3. 8 特天 昭 27. 3. 29	青森市、平内町	(管) 平 内 町 (大11. 11. 7)
2 カモシカ	天 昭 9. 5. 1 特天 昭 30. 2. 15	青森県ほか29都府県	

天然記念物

名 称	指定年月日	所 在 地	所有者及び管理団体
1 蕪島ウミネコ繁殖地	大 11. 3. 8	八戸市鮫町字鮫	(管) 八 戸 市 (大11. 11. 7)
2 ツバキ自生北限地帯	大 11. 10. 12	平内町東田沢字小湊越	(管) 平 内 町 (大12. 12. 13)
3 法量のイチョウ	大 15. 10. 20	十和田市法量字銀杏木	(管) 十 和 田 市 (昭3. 3. 23)
4 下北半島のサルおよびサル生息北限地	昭 45. 11. 11	むつ市・佐井村 ※サル自体は下北郡の区域内のものは全て天然記念物	
5 縫道石山・縫道石の特殊植物群落	昭 51. 12. 23	佐井村	
6 北金ヶ沢のイチョウ	平 16. 9. 30	深浦町北金ヶ沢字塩見形	東 北 財 務 局

天然記念物で地域を定めず指定したもの（本県関係分）

名 称	指定年月日	所 在 地
1 声良鶏	昭 12. 12. 21	秋田県、青森県、岩手県
2 軍鶏	昭 16. 8. 1	東京都、茨城県、千葉県、青森県、秋田県、高知県
3 クマガラ	昭 40. 5. 12	北海道、青森県、秋田県、岩手県
4 イヌワシ	昭 40. 5. 12	北海道他 1 3 県
5 オジロワシ	昭 45. 1. 23	北海道、新潟県
6 オオワシ	昭 45. 1. 23	北海道、石川県、福井県
7 コクガン	昭 46. 5. 19	北海道、青森県、秋田県他 2 県
8 ヒシクイ	昭 46. 6. 28	北海道、青森県、宮城県、新潟県、石川県他 3 県
9 マガン	昭 46. 6. 28	北海道、青森県、宮城県、新潟県、石川県他 3 県
10 ヤマネ	昭 50. 6. 26	本州、四国、九州

伝統的建造物群

重要伝統的建造物群保存地区

名 称	選定年月日	所 在 地
1 弘前市仲町伝統的建造物群保存地区	昭 53. 5. 31	弘前市馬喰町全域、若党町及び小人町各一部
2 黒石市中町伝統的建造物群保存地区	平 17. 7. 22	黒石市中町、浦町二丁目、甲徳兵衛町及び横町の各一部

文化財の保存技術

選定保存技術

名 称	選定年月日	所 在 地	保 持 者
1 漆掻き用具製作	昭 63. 4. 26	田子町田子	個 人

登録文化財

登録有形文化財

名 称 及 び 員 数	登録年月日	所 在 地	所有者及び管理団体
1 佐滝本店	1棟 平 9. 7. 15	三戸町八日町	個 人
2 旧河内屋橋本合名会社	1棟 平 10. 12. 11	八戸市八日町	(株) 大 正 ロ マ ン
3 旧七戸郵便局	1棟 平 12. 2. 15	七戸町字七戸	個 人
4 盛田牧場一号廄舎 (南部曲屋育成廄舎)	1棟 平 12. 2. 15	七戸町字膝森	(有) 金 子 フ ェ ー ム
5 盛田牧場二号廄舎 (育成廄舎)	1棟 "	"	"
6 盛田牧場三号廄舎 (繁殖廄舎)	1棟 "	"	"
7 盛田牧場四号廄舎 (繁殖廄舎)	1棟 "	"	"
8 盛田牧場五号廄舎 (種牡馬廄舎)	1棟 "	"	"
9 盛田牧場馬頭観音堂奥殿	1棟 "	"	"
10 盛田牧場馬頭観音堂拝殿	1棟 "	"	"
11 盛田牧場馬頭観音堂鳥居	1基 "	"	"
12 佐滝文庫蔵	1棟 平 12. 2. 15	三戸町八日町	個 人
13 佐滝土蔵	1棟 "	"	"
14 佐滝別邸	1棟 "	三戸町梅内字雷平	"
15 佐滝門及び塀	1基 "	"	"
16 旧第八師団長官舎 (弘前市長公舎)	1棟 平 15. 7. 1	弘前市上白銀町	弘 前 市
17 旧藤田家別邸洋館	1棟 "	"	"
18 旧藤田家別邸和館	1棟 "	"	"
19 旧藤田家別邸倉庫 (考古館)	1棟 "	"	"
20 旧藤田家別邸冠木門及び両袖番屋	1棟 "	"	"
21 旧弘前無尽社屋 (三上ビル)	1棟 "	弘前市元寺町	個 人
22 旧高谷銀行本店 (盛農薬商会倉庫)	1棟 "	つがる市木造千代町	(有) 盛 農 薬 商 会
23 更上閣主屋	1棟 平 15. 9. 19	八戸市本徒士町	八 戸 市
24 更上閣門	1棟 "	"	"
25 青森県立郷土館 (旧青森銀行本店)	1棟 平 16. 2. 17	青森市本町	青 森 県

名称及び員数	登録年月日	所在地	所有者及び管理団体
26 旧制弘前高等学校外国人教師館	1棟 平 17. 7. 12	弘前市文京町	国立大学法人弘前大学
27 佐藤政衛家住宅土蔵	1棟 平 17. 12. 26	平川市金屋中松元	個人
28 駒井正篤家住宅土蔵	1棟 "	"	"
29 森内勇治家住宅土蔵	1棟 "	"	"
30 駒井光芳家住宅土蔵	1棟 "	"	"
31 小野幸満家住宅土蔵	1棟 "	"	"
32 森内レイ子家住宅土蔵	1棟 "	"	"
33 佐藤義秋家住宅土蔵	1棟 "	"	"
34 佐藤聖徳家住宅土蔵	1棟 "	"	"
35 佐藤長臣家住宅土蔵	1棟 "	"	"
36 駒井忠雄家住宅土蔵	1棟 "	平川市金屋上松元	"
37 百田昭逸家住宅土蔵	1棟 "	"	"
38 小野智栄家住宅土蔵	1棟 "	"	"
39 小野長道家住宅土蔵	1棟 "	"	"
40 小野正博家住宅土蔵	1棟 "	"	"
41 小野郁男家住宅土蔵	1棟 "	"	"
42 松田良昭家住宅土蔵	1棟 "	"	"
43 小野秋穂家住宅土蔵	1棟 "	"	"
44 佐藤亮家住宅土蔵	1棟 "	"	"
45 駒井武義家住宅土蔵	1棟 "	"	"
46 駒井宏家住宅土蔵	1棟 "	"	"
47 小野昭正家住宅土蔵	1棟 "	平川市金屋中早稲田	"
48 松田和雄家住宅土蔵	1棟 "	"	"
49 九戸家住宅主屋	1棟 平 18. 10. 18	黒石市甲大工町	"
50 新むつ旅館本館	1棟 平 19. 5. 15	八戸市小中野	"
51 田中家住宅主屋	1棟 "	南部町福田字間ノ原	"
52 田中家住宅米蔵	1棟 "	"	"
53 田中家住宅門	1棟 "	"	"
54 成田和夫家住宅土蔵	1棟 平 19. 7. 31	平川市金屋上松元	"
55 佐藤幸正家住宅土蔵	1棟 "	"	"
56 小野良家住宅土蔵	1棟 "	"	"
57 佐藤正道家住宅土蔵	1棟 "	"	"
58 佐藤征栄家住宅土蔵	1棟 "	"	"
59 駒井徹雄家住宅土蔵	1棟 "	"	"
60 小野サツエ家住宅土蔵	1棟 "	"	"
61 小野きみゑ家住宅土蔵	1棟 "	"	"
62 佐藤良徳家住宅土蔵	1棟 "	"	"
63 佐藤利衛家住宅土蔵	1棟 "	"	"
64 村井家住宅主屋	1棟 "	南部町大向字泉山道	"
65 駒井善重家住宅土蔵	1棟 平 19. 10. 2	平川市金屋上早稲田	個人

名称及び員数	登録年月日	所在地	所有者及び管理団体
66 森内悦子家住宅土蔵	1棟	〃	〃
67 松田陸三家住宅土蔵	1棟	〃	〃
68 松田圭司家住宅土蔵	1棟	〃	〃
69 佐藤竹悦家住宅土蔵	1棟	〃	〃
70 山田寛家住宅土蔵	1棟	〃	〃
71 松田和雄家住宅文庫蔵	1棟	〃	〃
72 坂本家住宅主屋	1棟	平 19. 12. 5	新郷村西越字日向
73 木村家住宅主屋	1棟	〃	〃
74 旧西沢家住宅主屋	1棟	平 20. 3. 7	五所川原市金木町朝日山
75 旧野村家住宅離れ	1棟	平 20. 7. 8	野辺地町字野辺地
76 旧島守発電所本館	1棟	平 21. 11. 2	八戸市南郷島守字持金沢
77 旧島守発電所水槽	1基	〃	〃
78 旧島守発電所水圧鉄管路	1所	〃	〃
79 旧島守発電所余水路	1所	〃	〃
80 八戸酒造店舗兼主屋	1棟	平 22. 9. 10	八戸市湊町字本町
81 八戸酒造北蔵	1棟	〃	〃
82 八戸酒造文庫蔵	1棟	〃	〃
83 八戸酒造西蔵	1棟	〃	〃
84 八戸酒造煉瓦蔵	1棟	〃	〃
85 八戸酒造煉瓦塀	1棟	〃	〃
86 石場旅館	1棟	平 24. 2. 23	弘前市元寺町
87 翠明荘（旧高谷家別邸）洋館	1棟	〃	〃
88 翠明荘（旧高谷家別邸）日本館	1棟	〃	〃
89 翠明荘（旧高谷家別邸）奥座敷	1棟	〃	〃
90 翠明荘（旧高谷家別邸）土蔵	1棟	〃	〃
91 翠明荘（旧高谷家別邸）門	1棟	〃	〃
92 翠明荘（旧高谷家別邸）四阿	1棟	〃	〃
93 阿部家住宅主屋	1棟	平 26. 4. 25	五所川原市羽野木沢
94 阿部家住宅文庫蔵	1棟	〃	〃
95 津軽鉄道旧芦野公園駅本屋	1棟	平 26. 12. 19	五所川原市金木町芦町
96 弘前市庁舎本館	1棟	平 27. 8. 4	弘前市上白銀町
97 カトリック十和田教会	1棟	平 27. 8. 4	十和田市稲生町
98 法光寺承陽塔	1棟	平 29. 6. 28	南部町法光寺字法光寺
99 ヤマニ仙遊館本館	1棟	平 29. 10. 27	大鰐町蔵館字村岡
100 ヤマニ仙遊館土蔵	1棟	〃	〃
101 旧増川営林署庁舎（展示館しょうね	1棟	令 4. 10. 31	青森市浪岡女鹿沢字野尻

登録有形民俗文化財

名称及び員数	登録年月日	所在地	所有者及び管理団体
1 津軽の林業用具 353点	平 24. 3. 8	中泊町中里字紅葉坂他	中泊町

登録記念物

名称	登録年月日	所在地	所有者及び管理団体
1 揚亀園	平 19. 7. 26	弘前市亀甲町	個人
2 旧菊池氏庭園（弘前明の星幼稚園庭園）	〃	弘前市紺屋町	(学) 明の星学園
3 鳴海氏庭園	〃	黒石市中町	個人
4 丹藤氏庭園（旧三上氏庭園）	平 31. 2. 26	弘前市葛原	個人

記録選択

記録作成等の措置を講ずべき無形文化財

名称	選択年月日	所在地	保持者
1 郁田流箏曲	昭 55. 4. 4	青森市	

記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財

名称	選択年月日	所在地	保護団体
1 田子神楽	昭 46. 4. 21	田子町田子字七日市	田子神楽保存会
2 八戸のえんぶり	昭 46. 11. 11	八戸市、三戸郡	八戸えんぶり保存連絡会
3 南部駒踊	昭 49. 12. 4	十和田市洞内	洞内南部駒踊保存会
4 津軽神楽	昭 51. 12. 25	弘前市常盤坂	津軽神楽保存会
5 平内の鶏舞	昭 53. 1. 31	階上町平内	平内鶏舞組
6 下北の能舞	昭 53. 12. 8	東通村、横浜町、野辺地町、六ヶ所村	三余会 上田屋青年会 大利敬神組 東通村郷土芸能保存連合会 横浜町能舞保存会 馬門熊野神社敬神組 愛宕神社能舞保存会 新納屋神社 神楽保存会
7 泉山の登拝習俗	昭 54. 12. 7	三戸町泉山	泉山七歳児初参り保存会
8 津軽のイタコの習俗	昭 54. 12. 7	青森県	
9 津軽の地藏講の習俗	平 6. 12. 7	青森県	
10 久渡寺のオシラ講の習俗	平 11. 12. 3	弘前市坂元	久渡寺
11 南部切田神楽	平 16. 2. 6	十和田市切田字下切田	南部切田神楽会
12 青森県南部地方の虫送り	平 16. 2. 6	青森県	
13 津軽の七日堂祭	平 21. 3. 11	弘前市、平川市	百沢町会氏子 鬼神社氏子総代 猿賀町会氏子
14 氣比神社の絵馬市の習俗	平 21. 3. 11	おいらせ町上久保	
15 青森県津軽地方の虫送り	平 22. 3. 11	青森県	

重要美術品

[書 跡]

名 称 及 び 員 数	認定年月日	所 在 地	所有者及び管理団体
1 徳川家康自筆日課念仏	1巻 昭 8.10.31	八戸市十六日町	天 聖 寺
2 徳川家康自筆日課念仏	1巻 昭 8.12.14	青森市本町	個 人
3 徳川家康自筆日課念仏	1巻 昭 8.12.14	八戸市十八日町	〃
4 後柏原天皇宸翰御懐紙	1幅 昭 18.10. 1	つがる市木造	〃

[考古資料]

名 称 及 び 員 数	認定年月日	所 在 地	所有者及び管理団体
1 板石塔婆	1基 昭 17.12.16	弘前市中別所字葛野	弘 前 市

県指定文化財一覧

(令和7年4月1日現在)

有形文化財

県重宝

[建造物]

名称及び員数	指定年月日	所在地	所有者及び管理団体
1 久祥院殿位牌堂	1棟 昭 30. 1. 7	弘前市西茂森	隣 松 寺
2 三尊仏及びその厨子堂	1棟 昭 32. 1. 11	弘前市西茂森	長 勝 寺
3 桧山御前五輪塔	1基 昭 33. 1. 22	三戸町同心町字古間木平	長 栄 寺
4 青銅塔婆	1基 昭 34. 5. 6	今別町今別字今別	本 覚 寺
5 南部利直霊屋	1棟 昭 48. 12. 3	南部町小向字正寿寺	個 人
6 法眼寺鐘楼堂	1棟 昭 53. 8. 24	黒石市山形町	宝 巖 山 法 眼 寺
7 八戸城角御殿表門	1棟 昭 56. 4. 18	八戸市内丸	八 戸 市
8 見町観音堂	1棟 昭 60. 4. 27	七戸町見町	見 町 観 音 堂
9 旧岩田家住宅	1棟 昭 60. 4. 27	弘前市若党町	弘 前 市
10 稻荷神社本殿	1棟 平 2. 3. 16	三戸町斗内字田屋ノ下	稻 荷 神 社
11 南宗寺山門	1棟 平 3. 3. 13	八戸市長者	南 宗 寺
12 新羅神社本殿、拝殿	2棟 平 3. 3. 13	八戸市長者	新 羅 神 社
13 旧八戸小学講堂	1棟 平 3. 3. 13	八戸市八幡字八幡丁	櫛 引 八 幡 宮
14 旧東奥義塾外人教師館	1棟 平 5. 1. 22	弘前市下白銀町	弘 前 市
15 旧弘前市立図書館	1棟 平 5. 1. 22	弘前市下白銀町	〃
16 熊野宮本殿	1棟 平 5. 1. 22	弘前市茜町	熊 野 宮
17 日本聖公会弘前昇天教会教会堂	1棟 平 5. 4. 16	弘前市山道町	日 本 聖 公 会 会 弘 前 昇 天 教 会
18 巖鬼山神社本殿	1棟 平 5. 4. 16	弘前市十腰内字猿沢	巖 鬼 山 神 社
19 法眼寺本堂	1棟 平 5. 4. 16	黒石市山形町	宝 巖 山 法 眼 寺
20 旧青森県尋常中学校本館	1棟 平 5. 7. 19	弘前市新寺町	青 森 県
21 日本基督教団弘前教会教会堂	1棟 平 5. 7. 19	弘前市元寺町	日 本 基 督 教 団 会 弘 前 教 会
22 飯詰八幡宮本殿	1棟 平 6. 1. 21	五所川原市飯詰字福泉	飯 詰 八 幡 宮
23 袋宮寺本堂	1棟 平 6. 4. 25	弘前市新寺町	袋 宮 寺
24 円明寺本堂	1棟 平 6. 4. 25	弘前市新寺町	円 明 寺
25 報恩寺本堂	1棟 平 6. 4. 25	弘前市新寺町	報 恩 寺
26 猿賀神社本殿	1棟 平 6. 4. 25	平川市猿賀石林	猿 賀 神 社
27 本行寺護国堂	1棟 平 7. 4. 19	弘前市新寺町	本 行 寺
28 寶福寺本堂	1棟 平 7. 4. 19	五戸町浅水字浅水	寶 福 寺
29 野辺地八幡宮本殿、末社金刀比羅宮本殿	2棟 平 9. 7. 30	野辺地町字笹館	野 辺 地 八 幡 宮
30 青岩寺本堂	1棟 平 9. 7. 30	七戸町字町	青 岩 寺
31 旧圓子家住宅	1棟 平 13. 6. 29	五戸町倉石中市字中市	五 戸 町
32 南部安信の墓(宝篋印塔)	1基 平 14. 4. 17	南部町小向字馬場坂	個 人
33 旧坪田家住宅	1棟 平 14. 11. 18	青森市浪岡字岡田	青 森 市
34 黒石市消防団第三分団第三消防部屯所	1棟 平 15. 7. 14	黒石市甲徳兵衛町	黒 石 市
35 五戸町消防団第一分団屯所	1棟 平 15. 7. 14	五戸町字野月	五 戸 町
36 旧伊東家住宅	1棟 平 17. 3. 14	弘前市若党町	弘 前 市
37 旧橋本家住宅	1棟 平 17. 3. 14	田子町田子字川代ノ上ミ	田 子 町
38 円覚寺宝篋印塔	1基 平 18. 7. 14	深浦町深浦字浜町	円 覚 寺
39 大慈寺(松館)山門	1棟 平 21. 2. 18	八戸市松館字古里	大 慈 寺
40 岩木山神社社務所	1棟 平 23. 8. 19	弘前市百沢寺沢	岩 木 山 神 社
41 南部信直夫妻の墓石	2基 平 27. 8. 14	南部町小向字正寿寺	個 人
42 旧三上家住宅	1棟 平 28. 4. 18	佐井村佐井字大佐井	佐 井 村

名称及び員数	指定年月日	所在地	所有者及び管理団体
43 対泉院山門 1棟	平 29. 8. 16	八戸市新井田字寺ノ上	対 泉 院
44 大慈寺(糠塚)本堂、山門、経蔵 3棟	平 30. 8. 20	八戸市長者	大 慈 寺
45 五林神社五輪塔 1基	令 4. 4. 13	中泊町中里字亀山	五林神社氏子総代長
46 乳井神社五輪塔 1基	令 4. 4. 13	弘前市乳井字外ノ沢	乳 井 神 社
47 旧石戸谷家住宅 1棟	令 6. 4. 8	弘前市川合字岡本160-1	弘 前 市
48 小田八幡宮八脚門 1棟	令 6. 4. 8	八戸市小田1-2-1	八 幡 宮

[絵 画]

名称及び員数	指定年月日	所在地	所有者及び管理団体
1 世界地図屏風 1隻	昭 33. 1. 22	青森市本町	個 人
2 親鸞上人連座御影 1幅	昭 38. 4. 10	鱒ヶ沢町釣町	来 生 寺
3 阿弥陀如来像 1幅	昭 38. 4. 10	〃	〃
4 絹本著色当麻曼荼羅図 1幅	平 3. 3. 13	弘前市新寺町	貞 昌 寺
5 新井晴峰筆紙本著色観桜観楓図屏風 1双	平 16. 1. 21	弘前市下白銀町	弘 前 市
6 絹本著色聖宝僧正像 1幅	平 17. 7. 20	深浦町深浦字浜町	円 覚 寺
7 紙本著色弘前八幡宮祭礼図巻 5巻	令 2. 9. 4	弘前市下白銀町	弘 前 市
8 絹本著色阿弥陀如来像 1幅	令 5. 4. 12	弘前市大字新寺町	法 源 寺

[彫 刻]

名称及び員数	指定年月日	所在地	所有者及び管理団体
1 木彫阿弥陀如来立像 1軀	昭 31. 5. 14	弘前市新寺町	西 光 寺
2 獅子頭 1面	昭 31. 5. 14	三戸町梅内字村中	個 人
3 舞楽面 3面	昭 31. 5. 14	弘前市百沢字寺沢	岩 木 山 神 社
4 木彫阿弥陀如来立像 1軀	昭 32. 1. 11	青森市野内字菊川	當 古 寺
5 薬師如来三門本尊 1軀	昭 32. 1. 11	弘前市西茂森	長 勝 寺
6 津軽為信木像 1軀	昭 32. 1. 11	〃	〃
7 十一面観音立像 1軀	昭 33. 1. 22	南部町大向字長谷	恵 光 院
8 木彫阿弥陀如来立像 1軀	昭 33. 6. 25	野辺地町字寺ノ沢	海 中 寺
9 十一面観世音立像 1軀	昭 33. 6. 25	弘前市新寺町	袋 宮 寺
10 木彫十一面観音立像 1軀	昭 34. 10. 6	佐井村佐井字古佐井	長 福 寺
11 十一面観音像 1軀	昭 35. 6. 24	田子町田子字清水頭	個 人
12 弥勒菩薩像 1軀	昭 35. 6. 24	〃	〃
13 阿弥陀如来像 1軀	昭 37. 6. 29	弘前市下白銀町	吉 祥 寺
14 十一面観音像 1軀	昭 37. 6. 29	弘前市新寺町	西 福 寺
15 地藏像 1軀	昭 37. 6. 29	〃	〃
16 十一面観音像 1軀	昭 37. 6. 29	田舎館村田舎館東田	田 舎 館 村
17 観世音菩薩像 1軀	昭 38. 6. 4	外ヶ浜町三蔵字家ノ上	龍 馬 山 義 経 寺
18 如来立像 1軀	昭 39. 6. 30	むつ市大湊上町	常 楽 寺
19 菩薩坐像 1軀	昭 41. 1. 12	蓬田村阿弥陀川字汐干	正 法 院
20 菩薩坐像(寺伝薬師如来像) 1軀	昭 41. 1. 12	鱒ヶ沢町富根町	延 寿 院
21 菩薩坐像 1軀	昭 43. 4. 5	平川市沖館宮崎	沖 館 神 明 宮
22 舞楽面 9面	昭 46. 9. 6	八戸市八幡字八幡丁	櫛 引 八 幡 宮
23 十一面観世音菩薩坐像(木像) 1軀	昭 56. 4. 18	三戸町同心町字熊ノ林	観 福 寺
24 聖観世音菩薩立像(金銅仏) 1軀	昭 56. 4. 18	おいらせ町阿光坊	聖 福 寺
25 阿弥陀如来立像(木像) 1軀	昭 56. 4. 18	三戸町同心町字諏訪内	悟 真 寺
26 円空作木造男神像 1軀	平 2. 3. 16	中泊町小泊字小泊	個 人
27 円空作木造観音菩薩坐像 1軀	平 2. 8. 3	青森市浪岡北中野字天王	西 光 院
28 円空作木造観音菩薩坐像 1軀	平 9. 5. 14	青森市浪岡徳才子字山本	元 光 寺
29 木造舞楽面 9面 木造能面 1面	平 11. 1. 22	青森市本町	大 星 神 社
30 木造女神坐像 1軀	平 30. 12. 25	南部町大向字長谷	恵 光 院
31 木造舞楽面及び龍頭 舞楽面 11面 猿楽面 1面 龍頭 4点	令 3. 2. 1	青森市本町	個 人

[工芸品]

名称及び員数	指定年月日	所在地	所有者及び管理団体
1 鎧櫃 1個	昭 31. 5. 14	八戸市中居林字彦五郎	個人
2 古瀬戸瓶子 1個	昭 31. 5. 14	青森市月見野	〃
3 鱧口 銘正長二年七月十四日 1個	昭 31. 5. 14	平川市広船広沢	広船神社
4 鱧口 銘至徳二年六月二十四日 1個	昭 31. 5. 14	深浦町深浦字浜町	円覚寺
5 釣燈籠 1個	昭 31. 5. 14	弘前市百沢字寺沢	岩木山神社
6 日本刀 銘相州住綱広 1口	昭 31. 5. 14	〃	〃
7 津軽信政着用具足 1領	昭 31. 5. 14	弘前市高岡字獅子沢	高照神社
8 短刀 銘波岡森宗 1口	昭 31. 5. 14	弘前市安原	個人
9 梵鐘 1口	昭 37. 11. 16	五所川原市飯詰字福泉	長円寺
10 日本刀 銘津軽主為信相州綱廣呼下作之 1口	昭 37. 11. 16	弘前市高岡字獅子沢	個人
11 日本刀 無銘(伝備中古青江貞次作) 1口	昭 37. 11. 16	青森市本町	青森県
12 鱧口 銘慶長九年奉納銘 1個	昭 38. 4. 10	弘前市十腰内字猿沢	巖鬼山神社
13 短刀 銘奥州津軽住国廣 1口	昭 41. 5. 25	弘前市高岡字獅子沢	弘前市
14 日本刀 銘奥観寿藤原吉廣 1口	昭 43. 4. 5	八戸市根城字東構	八戸市
15 金梨子地牡丹紋散蒔絵糸巻太刀拵 1口	昭 44. 12. 15	弘前市在府町	個人
16 日本刀 銘吉治郎紀正賀鋳外濱砂鐵作之 1口	昭 44. 12. 15	むつ市大湊新町	〃
17 劍 銘以外濱砂鐵紀正賀謹鍛造 1口	昭 44. 12. 15	〃	〃
18 鱧口 応永十二年銘 1口	昭 46. 9. 6	八戸市八幡町八幡丁	櫛引八幡宮
19 日本刀 銘備州長船幸光 1口	昭 46. 9. 6	〃	〃
20 金梨子地牡丹紋散蒔絵衛府太刀拵 1口	昭 49. 10. 14	黒石市市ノ町	黒石神社
21 日本刀 銘津軽住安宗 1口	昭 56. 4. 18	つがる市森田町中田若浦	個人
22 津軽塗 8点	平 7. 4. 19	弘前市下白銀町	弘前市
23 高照神社刀剣類 11口	平 12. 4. 19	弘前市高岡字獅子沢	高照神社
24 津軽漆塗手板 514枚	平 15. 4. 14	弘前市下白銀町	弘前市
25 津軽塗(変わり塗)五段重箱及び弁当箱 2点	平 16. 7. 16	弘前市寒沢町	個人
26 菊牡丹唐草轡十字紋蒔絵漆器 13点	平 18. 2. 1	八戸市根城字東構	八戸市
27 唐草南部鶴紋蒔絵漆器 12点	平 18. 4. 19	〃	〃
28 南部鶴紋蒔絵漆器 7点	平 18. 4. 19	〃	〃
29 黒塗御寺膳揃 一揃(13点)	平 21. 2. 18	むつ市新町	個人
30 鱧口 正平廿一年三月三日銘 1口	令 3. 2. 1	青森市本町	〃

[書跡]

名称及び員数	指定年月日	所在地	所有者及び管理団体
1 久祥院殿写経 8冊	昭 30. 1. 7	弘前市西茂森	隣松寺
2 新編文林全集 1部10冊	昭 31. 5. 14	八戸市番町	個人
3 円覚寺真言・修験聖教類及び文書 2, 135点	令 3. 4. 9	西津軽郡深浦町深浦字浜町	円覚寺
4 刊本「自然真営道」 3巻	令 5. 4. 12	八戸市大字糠塚字下道	八戸市

[考古資料]

名称及び員数	指定年月日	所在地	所有者及び管理団体
1 石棒 1個	昭 30. 1. 7	青森市合浦	個人
2 蕨手刀 1口	昭 31. 5. 14	青森市本町	青森県
3 蕨手刀 1口	昭 31. 5. 14	弘前市田町	熊野奥照神社
4 縄文式尖底土器 1個	昭 31. 5. 14	青森市本町	県立名久井農業高校
5 亀ヶ岡式壺形彩色土器 1個	昭 31. 5. 14	青森市本町	青森県

名称及び員数	指定年月日	所在地	所有者及び管理団体
6 亀ヶ岡式壺形羽状縄文土器	1個	昭 31. 5. 14 青森市本町	青 森 県
7 亀ヶ岡式浅鉢形台付土器	1個	昭 31. 5. 14 "	"
8 盤形籃胎漆器	1個	昭 31. 5. 14 つがる市木造館岡屏風山	個 人
9 亀ヶ岡式壺形丹漆塗土器	1個	昭 31. 5. 14 青森市本町	青 森 県
10 縄文式甕形土器	1個	昭 31. 5. 14 八戸市根城字東構	八 戸 市
11 縄文式土偶	1個	昭 31. 5. 14 青森市本町	青 森 県
12 亀ヶ岡式壺形土器	1個	昭 31. 5. 14 東京都台東区上野公園 (寄託中 国立科学博物館)	個 人
13 縄文式土器	1個	昭 34. 10. 6 八戸市根城字東構	清 水 寺
14 縄文式注口土器	1個	昭 36. 1. 14 青森市本町	青 森 県
15 漆塗壺形土器	1個	昭 37. 3. 13 "	"
16 勾玉	1個	昭 37. 3. 13 "	"
17 鯨骨製青竜刀形骨器、 鹿角製尖頭器、 猪牙製垂飾品、 鹿角製叉状品	4点	昭 37. 11. 16 七戸町字森ノ上	七 戸 町 教 育 委 員 会
18 垂柳遺跡出土品	11点	昭 46. 5. 6 田舎館村高樋字大曲	田 舎 館 村
19 縄文式板状土偶	1個	昭 47. 4. 6 八戸市根城字東構	清 水 寺
20 石神遺跡出土縄文式遺物	20点	昭 48. 12. 3 つがる市森田町床舞	個 人
21 亀ヶ岡遺跡出土品(風韻堂)	60点	昭 52. 7. 21 青森市本町	青 森 県
22 縄文土器(狩猟文土器)	1点	平 2. 3. 16 "	"
23 鹿島沢古墳群出土品(一括)	63点	平 14. 4. 17 八戸市根城字東構 令 6. 4. 8 (追加指定)	八 戸 市
24 大森勝山遺跡出土の旧石器	10点	平 15. 4. 14 弘前市下白銀町	弘 前 市
25 細隆起線文尖底深鉢形土器	1点	平 15. 4. 14 青森市本町	青 森 県
26 長者久保遺跡出土品	28点	平 24. 4. 16 野辺地町字野辺地	野 辺 地 町
27 鹿角製櫛(二ツ森貝塚出土)	1点	平 25. 4. 17 青森市新城字天田内	青 森 県
28 人物線刻石冠(近野遺跡出土)	1点	平 25. 4. 17 "	"
29 大平山元 I 遺跡出土品	203点	平 31. 4. 5 青森市本町 外ヶ浜町字蟹田大平沢辺	外 ヶ 浜 町
30 寺下遺跡出土骨角器類	141点	令 3. 4. 9 階上町赤保内字耳ヶ吠	階 上 町
31 浜尻屋貝塚出土骨角器類	87点	令 4. 4. 13 東通村大字田屋字家ノ上	東 通 村

[歴史資料(史料)]

名称及び員数	指定年月日	所在地	所有者及び管理団体
1 棟札	1枚	昭 30. 1. 7 八戸市根城字東構	個 人
2 長栄寺正応碑	1基	昭 33. 1. 22 三戸町同心町字古間木平	長 栄 寺
3 南部利康公位牌	1基	昭 33. 1. 22 三戸町梅内字城ノ下	三 戸 大 神 宮 祖 霊 社
4 青銅擬宝珠	1個	昭 47. 3. 15 "	三 戸 町
5 湊家文書	11通	昭 47. 4. 6 八戸市根城字東構	八 戸 市
6 天保三辰ヨリ七ヶ年凶作日記 (内題「市川日記」)	1巻	平 8. 5. 22 "	"
7 明暦二年津軽十郎左衛門拝領山形 黒石領外浜平内領検地帳 (明暦の検地帳)		平 12. 4. 19 黒石市市ノ町	黒 石 市
8 棟札 (田屋熊野神社 文明十八年銘)	1枚	平 12. 8. 30 東通村田屋字ハサバ	熊 野 神 社
9 陸奥国津軽郡之絵図 (正保国絵図写)	1 鋪	平 23. 4. 6 青森市本町	青 森 県
10 菅江真澄筆「外浜奇勝」	1 冊	平 26. 4. 2 "	"
11 遠山家日記	111点	平 28. 8. 15 八戸市糠塚字下道	八 戸 市
12 板碑	4基	平 31. 4. 5 平川市岩館長田	個 人

無形文化財

県技芸

名 称	指定年月日	所 在 地	保 持 者
1 根笹派大音笹流錦風流尺八	昭 56. 6. 23	弘前市	須 藤 脩 鵬 (追加認定平9.7.30) 山 田 史 生 (追加認定平18.4.19) 平 尾 雄 三 (追加認定平23.4.6) 藤 田 昌 宏 (追加認定平23.4.6) 高 橋 勝 良 (追加認定令2.4.30) ペランド ジョン ニコラス (追加認定令5.4.12)
2 津軽箏曲郁田流	昭 56. 9. 26	青森市	櫛 引 禮 子 (追加認定平18.2.1) 葛 西 洋 子 (追加認定平18.2.1) 葛 西 淑 子 (追加認定平18.2.1)

民俗文化財

県有形民俗文化財

名 称 及 び 員 数	指定年月日	所 在 地	所有者及び管理団体
1 順礼札 1枚	昭 33. 1. 22	南部町大向字長谷	恵 光 院
2 笈 1個	昭 33. 1. 22	〃	〃
3 壁機 1式	昭 35. 3. 26	田子町田子字天神堂向	田子町教育委員会
4 アイヌの腰刀 1口	昭 36. 1. 14	むつ市大湊新町	個 人
5 泊の丸木舟 1隻	昭 37. 1. 12	六ヶ所村尾駮字野附	六ヶ所村教育委員会
6 銀熨斗包印籠刻蝦夷腰刀拵 1点	昭 56. 6. 23	むつ市大湊新町	個 人
7 高照神社奉納額絵馬 54枚	平 2. 8. 3	弘前市高岡字獅子沢	高 照 神 社
8 舟ヶ沢の丸木舟 1隻	平 7. 4. 19	東北町塔ノ沢山	東 北 町
9 青森の刺しこ着 1,014点	平 12. 1. 19	青森市戸門字山部	青 森 市
10 東通村目名不動院伝来能舞面 20面	平 13. 6. 29	下北郡東通村田屋字家ノ上	東 通 村
11 順礼札(隅ノ観音堂) 1枚	平 14. 3. 13	南部町小向字鱒沢	個 人
12 小泊のキッツ舟 1隻	平 29. 4. 10	中泊町小泊字漆流	中 泊 町
13 熊野本地絵巻 2巻	令 5. 4. 12	下北郡東通村田屋字家ノ上	東 通 村

県無形民俗文化財

名 称	指定年月日	所 在 地	保 護 団 体
1 南部切田神楽	昭 31. 5. 14	十和田市切田字下切田	南 部 切 田 神 楽 会
2 津軽神楽	昭 31. 5. 14	弘前市乳井字外の沢	津 軽 神 楽 保 存 会
3 南部駒踊	昭 34. 10. 6	十和田市洞内字沼田野	洞 内 南 部 駒 踊 保 存 会
4 南部駒踊	昭 34. 10. 6	八戸市河原木字高館	高 館 駒 踊 保 存 会
5 南部駒踊	昭 34. 10. 6	三沢市三沢字山ノ神	浜 三 沢 駒 踊 保 存 会
6 鶏舞	昭 34. 10. 6	階上町平内	平 内 鶏 舞 組
7 田子神楽(山伏)	昭 36. 1. 14	田子町田子字七日市	田 子 神 楽 保 存 会
8 高田獅子(鹿)踊	昭 36. 1. 14	青森市高田	高 田 獅 子 踊 保 存 会
9 吉野田獅子(鹿)踊	昭 36. 1. 14	青森市浪岡吉野田	吉 野 田 獅 子 踊 保 存 会

名 称	指定年月日	所 在 地	保 護 団 体
10 尾崎獅子（熊）踊	昭 36. 1. 14	平川市尾崎	尾崎獅子踊保存会
11 八幡崎獅子（熊）踊	昭 36. 1. 14	平川市八幡崎	八幡崎郷土芸能保存会
12 種市獅子（鹿）踊	昭 36. 1. 14	弘前市種市	種市獅子同好会
13 一野渡獅子（熊）踊	昭 36. 1. 14	弘前市一野渡	一野渡獅子会
14 古懸獅子（熊）踊	昭 36. 1. 14	平川市碓ヶ関古懸	古懸獅子舞保存会
15 南部駒踊	昭 36. 10. 6	階上町赤保内	赤保内駒踊組
16 水木獅子（鹿）踊	昭 37. 1. 12	藤崎町水木	水木獅子踊保存会
17 大沢獅子（熊）踊	昭 37. 1. 12	弘前市大沢	大沢獅子舞保存会
18 浅井獅子（鹿）踊	昭 37. 1. 12	五所川原市浅井	浅井獅子踊保存会
19 悪戸獅子（熊）踊	昭 37. 1. 12	弘前市悪戸	悪戸獅子舞保存会
20 南部駒踊	昭 37. 6. 29	五戸町倉石石沢字石沢	南部駒踊石沢保存会
21 嘉瀬奴踊	昭 44. 12. 15	五所川原市金木町嘉瀬	嘉瀬奴踊保存会
22 念仏鶏舞	昭 46. 5. 6	東北町大浦字家ノ前	沼崎念仏鶏舞保存会
23 加賀美流騎馬打毬	昭 47. 3. 15	八戸市	八戸騎馬打毬会
24 金ヶ沢鶏舞	昭 51. 6. 26	新郷村戸来字金ヶ沢	金ヶ沢鶏舞保存会
25 三ッ目内獅子（熊）踊	昭 54. 7. 24	大鰐町三ッ目内	三ッ目内獅子舞保存会
26 東通神楽	昭 55. 3. 18	東通村	東通村郷土芸能保存連合会
27 鮫の神楽	昭 55. 10. 21	八戸市鮫町字上鮫	鮫神楽連中
28 斗内獅子舞	昭 55. 10. 21	三戸町斗内	斗内獅子舞保存会
29 広船獅子（熊）踊	昭 56. 6. 23	平川市広船	広船獅子踊保存会
30 金木さなぶり荒馬踊	昭 56. 9. 26	五所川原市金木町朝日山	金木さなぶり荒馬保存会
31 田子の虫追い	昭 58. 1. 20	田子町相米字細野・原字飯豊	細野虫追い保存会 飯豊自治会
32 大川原の火流し	昭 58. 1. 20	黒石市大川原	大川原火流し保存会
33 岩崎の鹿島祭	昭 59. 1. 24	深浦町	松神鹿島祭保存会 黒崎鹿島祭保存会 大間越鹿島祭保存会
34 福浦の歌舞伎	昭 59. 7. 28	佐井村長後	福浦芸能保存会
35 法霊神楽	昭 61. 2. 4	八戸市内丸2丁目	おがみ神社 法霊神楽保存会
36 東通のもちつき踊	昭 62. 1. 27	東通村	東通村郷土芸能保存連合会
37 東通村の獅子舞	平 3. 3. 13	東通村入口、巽部	〃
38 横浜町の獅子舞	平 4. 3. 11	横浜町百目木、向平	横浜町郷土芸能保存会
39 横浜町の神楽	平 4. 3. 11	横浜町有畑、浜田、 鶏沢、大豆田、檜木	〃
40 黒石ねぶた	平 5. 4. 16	黒石市	黒石ねぶた保存会
41 岩崎の獅子（鹿）踊	平 7. 4. 19	深浦町大間越、久田	大間越獅子踊保存会 正久獅子舞保存会
42 田名部の山車行事	平 11. 1. 22	むつ市	横迎町、小川町、柳町、 本町、田名部町、新町
43 川内の山車行事	平 11. 1. 22	むつ市川内町	上町、中浦町、新町、 浜町、仲崎町、谷地町
44 佐井の山車行事	平 11. 1. 22	佐井村	佐井の山車行事保存会
45 上十川獅子踊	平 11. 7. 23	黒石市上十川	上十川獅子踊保存会
46 脇野沢の山車行事	平 12. 4. 19	むつ市	蛭子山町印、船山町印、 脇野沢八幡宮
47 大畑の山車行事	平 12. 8. 30	むつ市脇野沢	大畑町八幡宮例祭 山車行事保存会
48 風間浦の山車行事	平 12. 8. 30	むつ市大畑町	風間浦の山車行事 保存会

名 称	指定年月日	所 在 地	保 護 団 体
49 今別町の荒馬	平 15. 4. 14	今別町	今別町荒馬保存会 大川平荒馬保存会 二股荒馬保存会
50 岡三沢神楽	平 22. 7. 21	三沢市岡三沢	岡三沢神楽保存会
51 相内の虫送り	平 23. 4. 6	五所川原市相内	相内青年団
52 鯨ヶ沢白八幡宮の大祭行事	平 25. 8. 14	鯨ヶ沢町	白八幡宮大祭保存会
53 奥戸の山車行事	平 27. 8. 14	大間町奥戸	奥戸地区山車行事保存会
54 大間の山車行事	平 29. 1. 27	大間町大間	大間の山車行事保存会
55 関の念仏舟	令 2. 9. 4	西津軽郡深浦町関	関自治会 関浄念長寿会
56 津軽の七日堂祭	令 4. 4. 13	弘前市大字百沢 岩木山神社 弘前市大字鬼沢 鬼神社 平川市猿賀 猿賀神社	岩木山神社百沢町会氏子 鬼神社氏子総代 猿賀神社猿賀町会氏子

記念物

県史跡

名 称 及 び 員 数	指定年月日	所 在 地	所有者及び管理団体
1 関の古碑群 42基	昭 30. 1. 7	深浦町関字栃沢	深 浦 町
2 八戸南部家墓所	昭 30. 1. 7	八戸市長者	個 人
3 唐馬の碑 1基	昭 35. 1. 23	三戸町川守田字下比良	三 戸 町
4 一里塚 1基	昭 36. 6. 10	八戸市十日市天摩	八 戸 市
5 一里塚 1対2基	昭 36. 10. 6	十和田市伝法寺字平窪、上ノ沢	個 人
6 一里塚 1対2基	昭 36. 10. 6	十和田市大沢田字池ノ平	個 人
7 一里塚 1対2基	昭 37. 6. 29	野辺地町坊ノ塚	〃
8 一里塚 2基	昭 37. 6. 29	七戸町字卒古沢	(株) 東 北 電 力
9 一里塚 2基	昭 37. 6. 29	七戸町字森ノ上、森ノ下	七 戸 町
10 一里塚 1基	昭 37. 6. 29	八戸市南郷頃巻沢字長久保	八 戸 市
11 一里塚 2基	昭 37. 6. 29	八戸市南郷市野沢字新田、中野字大久保	八 戸 市
12 一里塚 2基	昭 37. 6. 29	八戸市南郷大森字砂子崎、字林崎	八 戸 市
13 八幡崎遺跡	昭 44. 12. 15	平川市八幡崎宮本	個 人
14 藩境塚 4基	昭 44. 12. 15	平内町狩場沢字関口 野辺地町柴崎	個 野 辺 地 町 人
15 野辺地戦争戦死者の墓所	昭 51. 12. 11	野辺地町鳥井平	野 辺 地 町
16 一里塚 2基	昭 63. 1. 16	三戸町目時字中野 三戸町梅内字大反り前田	個 〃 人
17 斗内千人塚 墳丘、 供養塔 4基 1基	昭 63. 1. 16	三戸町斗内字清水田	〃
18 餓死萬霊等供養塔及び戒壇石 2基	昭 63. 1. 16	八戸市新井田字寺ノ上	〃
19 中里城遺跡	平 15. 4. 14	中泊町中里字亀山	中 泊 町
20 平館台場跡	平 16. 4. 19	外ヶ浜町平館田の沢	外 ヶ 浜 町

県名勝

名 称 及 び 員 数	指定年月日	所 在 地	所有者及び管理団体
1 貞昌寺庭園	平 14. 7. 24	弘前市新寺町	貞 昌 寺

県天然記念物

名称及び員数	指定年月日	所在地	所有者及び管理団体
1 赤根沢の赤岩	昭 30. 1. 7	今別町砂ヶ森字赤根沢	今 別 町
2 茨島のトチノキ 1株	昭 30. 1. 7	階上町赤保内字茨島	個 人
3 関の杉 1株	昭 30. 1. 7	深浦町関字栃沢	深 浦 町
4 大杉 2本	昭 31. 5. 14	弘前市十腰内字猿沢	巖 鬼 山 神 社
5 銀南木 1本	昭 31. 5. 14	七戸町字銀南木	個 人
6 桑の木 1本	昭 31. 5. 14	三戸町六日町	個 人
7 うつぎ 1本	昭 31. 5. 14	階上町赤保内字蛭子	〃
8 天狗杉 1本	昭 33. 1. 22	南部町大向字長谷	恵 光 院
9 爺杉 1本	昭 33. 1. 22	南部町法光寺字法光寺	法 光 寺
10 法光寺参道松並木 18本 14本	昭 33. 1. 22 令 2. 4. 30	南部町法光寺字法光寺 (追加指定)	〃
11 十三湖の白鳥	昭 35. 3. 26	五所川原市十三湖	(管) 五所川原市教委
12 大湊湾の白鳥	昭 35. 6. 24	むつ市	(管) む つ 市 教 委
13 りんごの樹 3本	昭 35. 11. 11	つがる市柏桑野木田字千年	個 人
14 カヤの木 1本	昭 42. 1. 11	八戸市南郷島守字門前	高 松 寺
15 イチイ 1本	昭 46. 9. 6	板柳町横沢字花岡	無 量 庵
16 関根の松 1本	昭 47. 3. 15	三戸町川守田字関根	三 戸 町
17 モミの木 1本	昭 47. 12. 6	十和田市沢田字水尻山	個 人
18 小川原湖のハクチョウ	昭 47. 12. 6	三沢市・上北郡	(管) 三 沢 市 教 委
19 藤崎のハクチョウ	昭 51. 1. 26	藤崎町地内平川水域	(管) 藤 崎 町 教 委
20 金木町玉鹿石	昭 55. 1. 24	五所川原市金木町喜良市小田川国有林	(管) 五所川原市教委
21 妙堂崎のモミの木(トドロップ) 1本	昭 59. 4. 19	鶴田町妙堂崎字掛元	個 人
22 妙経寺のカヤの木 1本	昭 63. 10. 25	黒石市京町字寺町	妙 経 寺
23 燈明杉 1本	平 5. 4. 16	弘前市大沢字堂ヶ平	大 沢 町 会
24 根岸の大いちろう 1本	平 6. 4. 25	おいらせ町東下谷地	個 人
25 横浜町のゲンジボタルおよびその生息地	平 8. 5. 22	横浜町上田ノ沢・吹越・長下地区	(管) 横 浜 町 教 委
26 わむら(上村)のカシワの木 1本	平 8. 5. 22	五戸町倉石中市字中市	五 戸 町
27 向外瀬のモクゲンジ(センダンバノボダイジュ) 1本	平 9. 5. 14	弘前市向外瀬	個 人
28 天満宮のシダレザクラ 1本	平 10. 4. 22	弘前市西茂森	天 満 宮
29 鬼沢のカシワ(鬼神腰掛柏) 1本	平 10. 4. 22	弘前市鬼沢字猿沢	鬼 神 社
30 百沢街道および高岡街道の松並木	平 11. 4. 21	弘前市百沢・高岡ほか	青 森 県 ・ 弘 前 市
31 寒立馬とその生息地	平 14. 11. 18	東通村尻屋字念仏間	東通村産業振興公社
32 中野神社の対植えのモミ 1対	平 20. 4. 25	黒石市南中野不動館	中 野 神 社
33 西光寺のシダレザクラ 1本	平 23. 8. 19	野辺地町字寺ノ沢	西 光 寺
34 薬師寺の石割カエデ 1本	平 26. 4. 18	黒石市温湯鶴泉	薬 師 寺
35 革秀寺のサルスベリ 1株	平 28. 4. 18	弘前市藤代	革 秀 寺
36 弘前公園のネズコ 1本	平 28. 4. 18	弘前市下白銀町	弘 前 市
37 弘前公園のアイグロマツ 1本	平 28. 4. 18	〃	〃
38 弘前公園最長寿のソメイヨシノ 1本	平 28. 4. 18	〃	〃
39 銀杏木窪の大銀杏 1本	平 30. 4. 9	階上町道仏字銀杏木窪	個 人
40 平のサイカチ 1株	平 30. 4. 9	階上町角柄折字平	〃

付属資料2 青森県文化財調査報告書一覧（主なもの）

分野	調査名	報告書名	報告書刊行年
有形文化財 (建造物)	県下民家緊急調査	青森県民家緊急調査報告書 青森県の民家（Ⅰ 概要・南部）	昭和49年（1974）
		青森県民家緊急調査報告書 青森県の民家Ⅱ 津軽	昭和55年（1980）
	青森県近世社寺建築緊急調査	青森県近世社寺建築緊急調査報告書 青森県の近世社寺	昭和54年（1979）
	近世社寺建築緊急調査	青森県の近世社寺建築（Ⅱ）	平成3年（1991）
	青森県近代化遺産総合調査	青森県の近代化遺産	平成12年（2000）
	青森県近代和風建築総合調査	青森県近代和風建築総合調査報告書	平成16年（2004）
有形文化財 (美術工芸品)	青森県内古文書等所在確認調査	青森県内古文書等所在確認調査報告書 金丸家古文書部分調査第一次目録	昭和62年（1987）
		青森県内古文書等所在確認調査報告書 佐賀家古文書調査第一次目録／No. 2	平成元年（1989）
無形文化財	青森県無形文化財調査	昭和五十年年度青森県無形文化財調査報告書 第一集 津軽塗	昭和51年（1976）
民俗文化財	青森県民俗資料調査	青森県民俗資料調査報告書第1集	昭和38年（1963）
		青森県民俗資料調査報告書第2集	昭和39年（1964）
		青森県民俗資料調査報告書第3集	昭和40年（1965）
	民俗資料緊急調査	昭和四十四年度津軽半島北部山村振興町村民俗資料緊急調査報告書	昭和45年（1970）
		昭和四十五年度下北半島山村振興町村民俗資料緊急調査報告書（第一次）	昭和46年（1971）
		昭和四十六年度下北半島山村振興町村民俗資料緊急調査報告書（第二次）	昭和47年（1972）
		昭和四十七年度むつ小川原地区民俗資料緊急調査報告書（第一次）	昭和48年（1973）
		昭和四十八年度むつ小川原地区民俗資料緊急調査報告書（第二次）	昭和49年（1974）
	緊急民俗資料分布調査	緊急民俗資料分布調査報告書 青森県民俗分布図	昭和51年（1976）
	青森県無形民俗文化財調査	青森県無形民俗文化財調査報告書 （第一集）鶏舞	昭和52年（1977）
		青森県無形民俗文化財調査報告書 （第二集）盆踊りと盆踊り歌	昭和54年（1979）
		青森県無形民俗文化財調査報告書 （第三集）下北の歌舞伎	昭和56年（1981）
	青森県の民俗芸能調査	青森県の民俗芸能	昭和61年（1986）
	民謡緊急調査	青森県の民謡－民謡緊急調査報告書－	昭和63年（1988）
青森県諸識民俗調査	青森県の諸識－青森県諸識民俗調査報告書－	平成2年（1990）	
青森県民俗芸能緊急調査	青森県民俗芸能緊急調査報告書	平成8年（1996）	
民俗文化財	青森県伝統文化伝承総合支援事業	伝承用マニュアルⅠ 青森県三八・上北地方の民俗芸能・民俗芸能伝承の周辺	平成11年（1999）
		伝承用マニュアルⅡ 青森県東青・下北地方の民俗芸能・民俗芸能伝承の周辺	平成12年（2000）
		伝承用マニュアルⅢ 青森県 中南・西北地方の民俗芸能・民俗芸能伝承の周辺	平成13年（2001）

分野	調査名	報告書名	報告書刊行年
民俗文化財	青森県祭り・行事調査	青森県祭り・行事調査報告書	平成19年（2007）
	伝統文化総合支援研究	津軽の獅子踊研究	平成20年（2008）
記念物	むつ小川原開発地域天然記念物調査	むつ小川原開発地域天然記念物調査報告書 （青森県天然記念物調査報告書第1集）	昭和47年（1972）
		むつ小川原開発地域天然記念物調査報告書 （青森県天然記念物調査報告書第2集）	昭和48年（1973）
		むつ小川原開発地域天然記念物調査報告書 （青森県天然記念物調査報告書第5集）	昭和50年（1975）
	下北半島のニホンザルおよびその生息北限地緊急調査	下北半島のニホンザルおよびその生息北限地緊急調査報告書（青森県天然記念物調査報告書第3集）	昭和48年（1973）
		下北半島のニホンザルおよびその生息北限地緊急調査報告書（青森県天然記念物調査報告書第4集）	昭和49年（1974）
	特別天然記念物カモシカ調査	青森県天然記念物調査報告書第6集 特別天然記念物カモシカ調査報告書	昭和51年（1976）
		青森県天然記念物調査報告書第7集 特別天然記念物カモシカ調査報告書	昭和52年（1977）
		青森県天然記念物調査報告書第8集 特別天然記念物カモシカ調査報告書	昭和53年（1978）
	青森県「歴史の道」調査	青森県歴史の道調査報告書 松前街道-奥州街道(2)、大豆坂通り、乳井通り、羽州街道（昭和五十七年度調査合本）	昭和58年（1983）
		青森県歴史の道調査報告書 下之切通り（小泊道）、十三街道、黒石・山形街道、百沢街道、西浜街道（鯉ヶ沢街道）（昭和五十八年度調査合本）	昭和59年（1984）
		青森県歴史の道調査報告書 久慈街道、上り街道（八戸街道）、鹿角街道、奥州街道(1)（昭和五十九年度調査合本）	昭和60年（1985）
		青森県歴史の道調査報告書 西通道、北通道、田名部道、北浜街道（昭和六十年調査合本）	昭和61年（1986）
	青森市横内川遊水地埋没林調査	青森市横内川遊水池埋没林調査報告書	平成12年（2000）
	青森県埋没林調査	生態系のタイムカプセル	平成13年（2001）
	特別天然記念物カモシカ特別調査	下北半島カモシカ保護地域特別調査報告書（1988年3月）	昭和63年（1988）
		北奥羽山系カモシカ保護地域特別調査報告書（1989・1990年度）	平成2年（1990）
		下北半島カモシカ保護地域特別調査報告書（平成4・5年度）	平成6年（1994）
北奥羽山系カモシカ保護地域特別調査報告書（1994・1995年度）		平成8年（1996）	
下北半島カモシカ保護地域特別調査報告書（平成12・13年度）		平成14年（2002）	
北奥羽山系カモシカ保護地域特別調査報告書（平成14・15年度）		平成16年（2004）	
下北半島カモシカ保護地域特別調査報告書（平成20・21年度）		平成22年（2010）	
北奥羽山系カモシカ保護地域特別調査報告書（平成22・23年度）		平成24年（2012）	
下北半島カモシカ保護地域特別調査報告書（平成28・29年度）		平成30年（2018）	

付属資料3 青森県埋蔵文化財調査報告書一覧

※平成30年度刊行分(第1集～第606集)まで掲載

番号	報告書名	報告書刊行年	番号	報告書名	報告書刊行年
第1集	むつ小川原開発に伴う新住区予定地内埋蔵文化財分布調査報告書	昭和48年(1973)	第45集	杉の沢遺跡	昭和54年(1979)
第2集	青函トンネル資材運搬専用道路建設工事関係発掘調査概報	昭和47年(1972)	第46集	松元遺跡	昭和54年(1979)
第3集	表館遺跡、発茶沢遺跡	昭和48年(1973)	第47集	近野遺跡	昭和54年(1979)
第4集	東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財分布・試掘調査報告書	昭和48年(1973)	第48集	むつ小川原開発予定地内埋蔵文化財試掘調査概報	昭和54年(1979)
第5集	五郎兵衛山、西田、浜名A遺跡	昭和48年(1973)	第49集	細越遺跡	昭和54年(1979)
第6集	東北新幹線関係遺跡分布調査報告書	昭和48年(1973)	第50集	むつ小川原港臨港道路に係る埋蔵文化財発掘事前調査報告書	昭和54年(1979)
第7集	中平遺跡発掘調査報告書	昭和48年(1973)	第51集	桔梗野工業団地造成に伴う埋蔵文化財試掘調査報告書	昭和55年(1980)
第8集	昭和48年度東北縦貫自動車道埋蔵文化財分布・試掘調査報告書	昭和49年(1974)	第52集	大平遺跡	昭和55年(1980)
第9集	むつ小川原開発予定地域内埋蔵文化財試掘調査概報	昭和49年(1974)	第53集	砂沢平遺跡	昭和55年(1980)
第10集	むつ小川原開発に伴う新住区予定地内埋蔵文化財分布・試掘調査報告	昭和49年(1974)	第54集	古館遺跡	昭和55年(1980)
第11集	小栗山地区遺跡発掘調査報告書	昭和49年(1974)	第55集	大面遺跡	昭和55年(1980)
第12集	近野遺跡(I)発掘調査報告書	昭和49年(1974)	第56集	永野遺跡	昭和55年(1980)
第13集	今別町浜名・中宇田・西田・五郎兵衛山遺跡、五所川原市原子溜池遺跡群発掘調査報告書	昭和49年(1974)	第57集	長七谷地貝塚	昭和55年(1980)
第14集	亀ヶ岡遺跡発掘調査報告書	昭和49年(1974)	第58集	神明町遺跡	昭和55年(1980)
第15集	富山遺跡・伝永泉寺発掘調査略報	昭和49年(1974)	第59集	板留(2)遺跡	昭和55年(1980)
第16集	三厩村中の平遺跡発掘調査略報	昭和48年(1973)	第60集	五輪堂遺跡	昭和55年(1980)
第17集	五戸町中沢西張遺跡	昭和49年(1974)	第61集	表館遺跡	昭和56年(1981)
第18集	千歳遺跡(13)発掘調査略報	昭和49年(1974)	第62集	新納屋遺跡(2)	昭和56年(1981)
第19集	東北縦貫自動車道関係遺跡分布・試掘調査報告書	昭和50年(1975)	第63集	鷹架遺跡	昭和56年(1981)
第20集	中里町大沢内溜池遺跡発掘調査報告書	昭和49年(1974)	第64集	国営八戸平原開拓建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書I	昭和56年(1981)
第21集	富山遺跡・永泉寺跡発掘調査報告書	昭和50年(1975)	第65集	国営八戸平原開拓建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書II	昭和56年(1981)
第22集	近野遺跡発掘調査報告書(II)	昭和50年(1975)	第66集	明前遺跡	昭和56年(1981)
第23集	土井3号遺跡発掘調査報告書	昭和49年(1974)	第67集	発茶沢遺跡	昭和57年(1982)
第24集	むつ小川原開発域関係埋蔵文化財試掘調査概報	昭和50年(1975)	第68集	山崎遺跡	昭和57年(1982)
第25集	中の平遺跡発掘調査報告書	昭和50年(1975)	第69集	右エ門次朗窪遺跡・三合山遺跡・石ノ窪遺跡	昭和57年(1982)
第26集	黒石市牡丹平南遺跡、浅瀬石遺跡発掘調査報告書	昭和51年(1976)	第70集	馬場瀬遺跡	昭和57年(1982)
第27集	千歳遺跡(13)発掘調査報告書	昭和51年(1976)	第71集	下北地点原子力発電所建設予定地内埋蔵文化財試掘調査報告書	昭和57年(1982)
第28集	むつ小川原開発予定地域内埋蔵文化財試掘調査概報	昭和51年(1976)	第72集	鴨平(1)遺跡発掘調査報告書	昭和58年(1983)
第29集	中ノ沢西張遺跡・古街道長根遺跡	昭和51年(1976)	第73集	鴨平(2)遺跡発掘調査報告書	昭和58年(1983)
第30集	白山堂遺跡・妻の神遺跡	昭和51年(1976)	第74集	長者森遺跡発掘調査報告書	昭和58年(1983)
第31集	泉山遺跡発掘調査報告書	昭和51年(1976)	第75集	下北地点原子力発電所建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書	昭和58年(1983)
第32集	鳥海山遺跡発掘調査報告書	昭和52年(1977)	第76集	鶉窪遺跡	昭和58年(1983)
第33集	近野遺跡III・三内丸山(II)遺跡	昭和52年(1977)	第77集	松原遺跡・陣馬川原遺跡・槻ノ木遺跡 県営芋久保・馬門地区	昭和58年(1983)
第34集	水木沢遺跡発掘調査報告書	昭和52年(1977)	第78集	垂柳遺跡	昭和58年(1983)
第41集	三内沢部遺跡	昭和53年(1978)	第79集	一ノ渡遺跡	昭和59年(1984)
第42集	むつ小川原開発予定地内埋蔵文化財試掘調査概報	昭和53年(1978)	第80集	浜通遺跡	昭和59年(1984)
第43集	下北地点原子力発電所建設予定地内埋蔵文化財分布調査報告書	昭和53年(1978)	第81集	弥栄平遺跡(2)	昭和59年(1984)
第44集	羽黒平遺跡	昭和54年(1979)	第82集	和野前山遺跡	昭和59年(1984)

番号	報告書名	報告書刊行年	番号	報告書名	報告書刊行年
第83集	昼巻沢遺跡	昭和59年(1984)	第126集	表館(1)遺跡Ⅳ・発茶沢(1)遺跡Ⅴ	平成2年(1990)
第84集	韭窪遺跡	昭和59年(1984)	第127集	表館(1)遺跡Ⅴ	平成2年(1990)
第85集	白山平(2)遺跡	昭和59年(1984)	第128集	弥次郎窪遺跡	平成2年(1990)
第86集	牛ヶ沢(3)遺跡	昭和59年(1984)	第129集	中崎館遺跡	平成2年(1990)
第87集	朝日山遺跡	昭和59年(1984)	第130集	奈沢遺跡	平成2年(1990)
第88集	垂柳遺跡	昭和60年(1985)	第131集	青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅱ	平成2年(1990)
第89集	尻高(2)・(3)・(4)遺跡	昭和60年(1985)	第132集	富ノ沢(1)・(2)遺跡Ⅱ	平成3年(1991)
第90集	大石平遺跡	昭和60年(1985)	第133集	富ノ沢(1)・(2)遺跡Ⅲ	平成3年(1991)
第91集	表館遺跡Ⅱ	昭和60年(1985)	第134集	中野平遺跡-縄文編、古代編-	平成3年(1991)
第92集	石ノ窪(1)・石ノ窪(2)・古宮遺跡	昭和60年(1985)		向山(4)遺跡	平成3年(1991)
第93集	売場遺跡・大タルミ遺跡	昭和60年(1985)	第135集	鬼沢猿沢・尾上山(2)・(3)遺跡	平成3年(1991)
第94集	国道338号(鷹架大橋)橋梁整備事業に係る埋蔵文化財試掘調査報告書	昭和60年(1985)	第136集	雷遺跡・西山遺跡	平成3年(1991)
第95集	今津遺跡・間沢遺跡	昭和61年(1986)	第137集	富ノ沢(2)遺跡Ⅳ	平成3年(1991)
第96集	発茶沢遺跡	昭和61年(1986)	第138集	弥栄平(6)遺跡・弥栄平(7)遺跡・弥栄平(8)遺跡	平成3年(1991)
第97集	大石平遺跡Ⅱ	昭和61年(1986)	第139集	大間原子力発電所建設予定地内	平成3年(1991)
第98集	弥栄平(1)遺跡	昭和61年(1986)	第140集	青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅲ	平成3年(1991)
第99集	独狐遺跡	昭和61年(1986)	第141集	堀切沢(2)(3)(4)(5)遺跡	平成4年(1992)
第100集	沖附(1)遺跡	昭和61年(1986)	第142集	鳴沢遺跡・鶴喰(9)遺跡	平成4年(1992)
第101集	沖附(2)遺跡	昭和61年(1986)	第143集	富ノ沢(2)遺跡Ⅴ	平成4年(1992)
第102集	境関館遺跡	昭和62年(1987)	第144集	沢堀込遺跡	平成4年(1992)
第103集	大石平遺跡発掘調査報告書Ⅲ	昭和62年(1987)	第145集	唐貝地遺跡	平成4年(1992)
第104集	大湊近川遺跡	昭和62年(1987)	第146集	青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅳ	平成4年(1992)
第105集	山本遺跡	昭和62年(1987)	第147集	富ノ沢(2)遺跡Ⅵ・富ノ沢(3)遺跡	平成5年(1993)
第106集	弥栄平(4)(5)遺跡	昭和62年(1987)	第148集	家ノ前遺跡・幸畑(7)遺跡Ⅱ	平成5年(1993)
第107集	小田内沼(1)遺跡	昭和63年(1988)	第149集	野脇遺跡	平成5年(1993)
第108集	前比良遺跡	昭和63年(1988)	第150集	野場(5)遺跡	平成5年(1993)
第109集	下谷地(1)遺跡	昭和63年(1988)	第151集	筋久辺遺跡	平成5年(1993)
第110集	茶毘館遺跡	昭和63年(1988)	第152集	朝日山遺跡Ⅱ	平成5年(1993)
第111集	李平下安原遺跡	昭和63年(1988)	第153集	高野川(2)遺跡	平成5年(1993)
第112集	上尾駮(1)遺跡A地区	昭和63年(1988)	第154集	小奥戸(1)遺跡	平成5年(1993)
第113集	上尾駮(1)遺跡C地区	昭和63年(1988)	第155集	青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅴ	平成5年(1993)
第114集	上尾駮(2)遺跡Ⅱ	昭和63年(1988)	第156集	朝日山遺跡Ⅲ	平成6年(1994)
第115集	上尾駮(2)遺跡(Ⅰ)	昭和63年(1988)	第157集	三内丸山(2)遺跡Ⅱ	平成6年(1994)
第116集	発茶沢(1)遺跡	昭和63年(1988)	第158集	内真部(4)遺跡	平成6年(1994)
第117集	二ツ石遺跡	平成元年(1989)	第159集	山元(3)遺跡	平成6年(1994)
第118集	富ノ沢(1)・(2)遺跡	平成元年(1989)	第160集	家ノ前遺跡Ⅱ・鷹架遺跡Ⅱ	平成6年(1994)
第119集	館野遺跡	平成元年(1989)	第161集	畑内遺跡Ⅰ	平成6年(1994)
第120集	表館(1)遺跡Ⅲ・発茶沢(1)遺跡Ⅳ	平成元年(1989)	第162集	日渡遺跡	平成6年(1994)
第121集	表館(1)遺跡	平成元年(1989)	第163集	稲垣村久米川遺跡	平成6年(1994)
第122集	鶴ヶ鼻遺跡	平成元年(1989)	第164集	塔ノ沢山(1)遺跡・大沢(1)遺跡	平成6年(1994)
第123集	青森県遺跡詳細分布報告書Ⅰ	平成元年(1989)	第165集	青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅵ	平成6年(1994)
第124集	下夕沢遺跡	平成元年(1989)	第166集	三内丸山(2)遺跡Ⅲ	平成6年(1994)
第125集	幸畑(7)遺跡	平成2年(1990)	第167集	朝日山(3)遺跡	平成7年(1995)

番号	報告書名	報告書刊行年	番号	報告書名	報告書刊行年
第168集	黒森下(1)遺跡発掘調査報告書	平成7年(1995)	第209集	隈無(4)遺跡	平成9年(1997)
第169集	槻ノ木(1)遺跡	平成7年(1995)	第210集	隠川(3)遺跡	平成9年(1997)
第170集	松山・羽黒平(1)遺跡	平成7年(1995)	第211集	畑内遺跡4	平成9年(1997)
第171集	山元(2)遺跡発掘調査報告書	平成7年(1995)	第212集	八盃久保(2)遺跡・八盃久保(3)遺跡・幸神遺跡	平成9年(1997)
第172集	野尻(2)遺跡	平成7年(1995)	第213集	石焼沢・西張(3)遺跡	平成9年(1997)
第173集	水木館遺跡	平成7年(1995)	第214集	田名部館跡	平成9年(1997)
第174集	千苺(2)遺跡	平成7年(1995)	第215集	朝日山(3)遺跡	平成9年(1997)
第175集	湯舟(1)・(2)遺跡	平成7年(1995)	第216集	近野遺跡(5)遺跡	平成9年(1997)
第176集	森田(4)・(5)遺跡	平成7年(1995)	第217集	宇田野(2)遺跡・宇田野(3)遺跡・草薙(3)遺跡	平成9年(1997)
第177集	上蛇沢(2)遺跡	平成7年(1995)	第218集	轡(2)遺跡	平成9年(1997)
第178集	畑内遺跡2	平成7年(1995)	第219集	垂柳遺跡・五輪野遺跡	平成9年(1997)
第179集	高野川(3)遺跡	平成7年(1995)	第220集	小沢館跡	平成9年(1997)
第180集	熊ヶ平遺跡・板子塚遺跡発掘調査報告書	平成7年(1995)	第221集	津山遺跡	平成9年(1997)
第181集	泉山遺跡	平成7年(1995)	第222集	幸畑(10)遺跡・幸畑(6)遺跡・幸畑(3)遺跡	平成9年(1997)
第182集	青森県遺跡詳細分布調査報告書VII	平成7年(1995)	第223集	松館遺跡	平成9年(1997)
第183集	塔ノ沢山(2)遺跡	平成7年(1995)	第224集	十三湊遺跡2	平成9年(1997)
第184集	中崎遺跡	平成7年(1995)	第225集	十三湊遺跡	平成9年(1997)
第185集	三内丸山(2)遺跡4	平成7年(1995)	第226集	琴湖岳(2)遺跡	平成9年(1997)
第186集	野尻(2)遺跡2・野尻(3)遺跡発掘調査報告書	平成8年(1996)	第227集	青森県遺跡詳細分布調査報告書IX	平成9年(1997)
第187集	畑内遺跡3	平成8年(1996)	第228集	根の山遺跡	平成9年(1997)
第188集	四ッ役遺跡	平成8年(1996)	第229集	三内丸山遺跡7	平成9年(1997)
第189集	白砂遺跡	平成8年(1996)	第230集	三内丸山遺跡8	平成9年(1997)
第190集	泉山遺跡3	平成8年(1996)	第231集	平野・今須(4)遺跡	平成10年(1998)
第191集	佐野平館跡・上佐野遺跡	平成8年(1996)	第232集	岡町(2)遺跡発掘調査報告書	平成10年(1998)
第192集	戸沢川代遺跡・熊ヶ平遺跡	平成8年(1996)	第233集	西張(2)遺跡	平成10年(1998)
第193集	平野遺跡	平成8年(1996)	第234集	野尻(1)遺跡	平成10年(1998)
第194集	羽黒平(1)遺跡	平成8年(1996)	第235集	大和田遺跡・寺山(3)遺跡・平窪(1)遺跡・平窪(2)遺跡・伝法寺館跡	平成10年(1998)
第195集	上田遺跡	平成8年(1996)	第236集	幸畑(4)遺跡・幸畑(1)遺跡	平成10年(1998)
第196集	洞内城跡	平成8年(1996)	第237集	隈無(1)遺跡・隈無(2)遺跡・隈無(6)遺跡発掘調査報告書	平成10年(1998)
第197集	西張(3)遺跡	平成8年(1996)	第238集	見立山(1)遺跡・弥次郎窪遺跡2	平成10年(1998)
第198集	上蛇沢(1)遺跡	平成8年(1996)	第239集	新町野遺跡・野木遺跡	平成10年(1998)
第199集	大平(5)遺跡・草薙(1)遺跡・湯ヶ森(2)遺跡	平成8年(1996)	第240集	小奥戸(2)遺跡・小奥戸(4)遺跡発掘調査報告書	平成10年(1998)
第200集	十三湊遺跡1	平成8年(1996)	第241集	長谷遺跡	平成10年(1998)
第201集	青森県遺跡詳細分布調査報告書8	平成8年(1996)	第242集	外馬屋前田(1)遺跡	平成10年(1998)
第202集	沖附(1)遺跡発掘調査報告書	平成8年(1996)	第243集	高屋敷館遺跡	平成10年(1998)
第203集	猿沢(42)遺跡外遺跡試掘調査報告書	平成8年(1996)	第244集	隠川(4)遺跡・隠川(12)遺跡発掘調査報告書	平成10年(1998)
第204集	三内丸山遺跡5	平成8年(1996)	第245集	水吉遺跡	平成10年(1998)
第205集	三内丸山遺跡VI	平成8年(1996)	第246集	白砂・大沢遺跡発掘調査報告書	平成10年(1998)
第206集	高屋敷館遺跡発掘調査概報	平成9年(1997)	第247集	青森県遺跡詳細分布調査報告書10	平成10年(1998)
第207集	実吉遺跡	平成9年(1997)	第248集	十三湊遺跡3	平成10年(1998)
第208集	桜ヶ峰(2)遺跡	平成9年(1997)	第249集	三内丸山遺跡9	平成10年(1998)

番号	報告書名	報告書刊行年	番号	報告書名	報告書刊行年
第250集	三内丸山遺跡10	平成10年(1998)	第292集	蟹沢(2)遺跡	平成13年(2001)
第251集	三内丸山遺跡11	平成10年(1998)	第293集	宮本(2)遺跡発掘調査報告書	平成13年(2001)
第252集	三内丸山遺跡12	平成10年(1998)	第294集	栄山(3)遺跡	平成13年(2001)
第253集	下馬坂遺跡発掘調査報告書	平成11年(1999)	第295集	隠川(11)遺跡2	平成13年(2001)
第254集	戸沢遺跡	平成11年(1999)	第296集	上野平(3)遺跡	平成13年(2001)
第255集	安田(2)遺跡	平成11年(1999)	第297集	上野遺跡	平成13年(2001)
第256集	新納屋(1)遺跡	平成11年(1999)	第298集	朝日山(2)遺跡	平成13年(2001)
第257集	三内丸山(6)遺跡1	平成11年(1999)	第299集	桜ヶ峰(1)遺跡	平成13年(2001)
第258集	山下遺跡・上野尻遺跡	平成11年(1999)	第300集	岩渡小谷(2)遺跡	平成13年(2001)
第259集	野尻(1)遺跡2	平成11年(1999)	第301集	岩ノ沢平遺跡2	平成13年(2001)
第260集	隠川(11)遺跡1・隠川(12)遺跡2	平成11年(1999)	第302集	上野尻遺跡2	平成13年(2001)
第261集	十腰内(1)遺跡	平成11年(1999)	第303集	安田(2)遺跡2	平成13年(2001)
第262集	畑内遺跡5	平成11年(1999)	第304集	十腰内(1)遺跡2	平成13年(2001)
第263集	楡引遺跡	平成11年(1999)	第305集	笹ノ沢(2)・(3)遺跡	平成13年(2001)
第264集	野木遺跡2	平成11年(1999)	第306集	黒坂遺跡	平成13年(2001)
第265集	三内丸山遺跡13	平成11年(1999)	第307集	三内丸山(6)遺跡3	平成13年(2001)
第266集	高岩(1)遺跡・高岩(2)遺跡・白蛇(1)遺跡・鳥河岸遺跡	平成11年(1999)	第308集	畑内遺跡7	平成13年(2001)
第267集	青森県遺跡詳細分布調査報告書11	平成11年(1999)	第309集	三内丸山遺跡18	平成13年(2001)
第268集	十三湊遺跡4	平成11年(1999)	第310集	青森県遺跡詳細分布調査報告書13	平成13年(2001)
第269集	三内丸山(5)遺跡	平成11年(1999)	第311集	長溜池遺跡	平成13年(2001)
第270集	大矢沢野田(1)遺跡 発掘調査報告書	平成11年(1999)	第312集	十三湊遺跡VI	平成13年(2001)
第271集	モダシ平遺跡	平成12年(2000)	第313集	隈無(8)遺跡 発掘調査報告書	平成14年(2002)
第272集	楡引遺跡2	平成12年(2000)	第314集	小奥戸(4)遺跡2	平成14年(2002)
第273集	丹内遺跡	平成12年(2000)	第315集	近野遺跡6	平成14年(2002)
第274集	山下遺跡2・米山(2)遺跡	平成12年(2000)	第316集	朝日山(2)遺跡3	平成14年(2002)
第275集	新町野遺跡2	平成12年(2000)	第317集	蟹沢(3)遺跡・黒坂遺跡2	平成14年(2002)
第276集	畑内遺跡6	平成12年(2000)	第318集	笹ノ沢(3)遺跡	平成14年(2002)
第277集	野尻(1)遺跡3	平成12年(2000)	第319集	野辺地蟹田(10)遺跡・向田(30)遺跡・向田(31)遺跡	平成14年(2002)
第278集	餅ノ沢遺跡	平成12年(2000)	第320集	野尻(1)遺跡4	平成14年(2002)
第279集	三内丸山(6)遺跡2 第1分冊	平成12年(2000)	第321集	安田(2)遺跡3	平成14年(2002)
第280集	砂子遺跡	平成12年(2000)	第322集	宮田館遺跡	平成14年(2002)
第281集	野木遺跡3	平成12年(2000)	第323集	上野尻遺跡3	平成14年(2002)
第282集	三内丸山遺跡14	平成12年(2000)	第324集	朝日山(2)遺跡4	平成14年(2002)
第283集	三内丸山遺跡15	平成12年(2000)	第325集	朝日山(2)遺跡5	平成14年(2002)
第284集	青森県遺跡詳細分布調査報告書12	平成12年(2000)	第326集	畑内遺跡8	平成14年(2002)
第285集	山ノ越遺跡	平成12年(2000)	第327集	三内丸山(6)遺跡4	平成14年(2002)
第286集	十三湊遺跡5	平成12年(2000)	第328集	青森県遺跡詳細分布調査報告書14	平成14年(2002)
第287集	岩ノ沢平遺跡	平成12年(2000)	第329集	十三湊遺跡7	平成14年(2002)
第288集	三内丸山遺跡16	平成12年(2000)	第330集	十三湊遺跡	平成14年(2002)
第289集	三内丸山遺跡	平成12年(2000)	第331集	清水遺跡	平成14年(2002)
第290集	底田(3)遺跡	平成13年(2001)	第332集	弥生平遺跡	平成14年(2002)
第291集	松ヶ崎遺跡	平成13年(2001)	第333集	餅ノ沢遺跡2	平成14年(2002)

番号	報告書名	報告書刊行年
第334集	幸神遺跡	平成14年(2002)
第335集	古坊遺跡	平成14年(2002)
第336集	田向冷水遺跡	平成14年(2002)
第337集	三内丸山遺跡19	平成14年(2002)
第338集	三内丸山遺跡20	平成14年(2002)
第339集	獅子神遺跡	平成15年(2003)
第340集	宮田館遺跡2・三本木遺跡	平成15年(2003)
第341集	西浜折曾の関遺跡	平成15年(2003)
第342集	檜館遺跡	平成15年(2003)
第343集	野辺地蟹田(10)遺跡2・野辺地蟹田(12)遺跡・向田(34)遺跡	平成15年(2003)
第344集	宮田館遺跡3・米山(2)遺跡2	平成15年(2003)
第345集	畑内遺跡9	平成15年(2003)
第346集	笹ノ沢(3)遺跡Ⅲ	平成15年(2003)
第347集	尾上山遺跡、葎野遺跡	平成15年(2003)
第348集	有戸鳥井平(7)遺跡	平成15年(2003)
第349集	朝日山(2)遺跡6	平成15年(2003)
第350集	朝日山(2)遺跡7	平成15年(2003)
第351集	野尻(1)遺跡5	平成15年(2003)
第352集	岩渡小谷(3)・(4)遺跡	平成15年(2003)
第353集	上野尻遺跡4	平成15年(2003)
第354集	青森県遺跡詳細分布調査報告書15	平成15年(2003)
第355集	十三湊遺跡8	平成15年(2003)
第356集	湯田平(2)遺跡	平成15年(2003)
第357集	八幡崎(2)遺跡	平成15年(2003)
第358集	稲元遺跡	平成15年(2003)
第359集	宮元遺跡	平成15年(2003)
第360集	松石橋遺跡	平成15年(2003)
第361集	三内丸山遺跡21	平成15年(2003)
第362集	三内丸山遺跡22	平成15年(2003)
第363集	特別史跡三内丸山遺跡一部損傷事故に係る発掘調査報告書	平成15年(2003)
第364集	根岸山添遺跡	平成16年(2004)
第365集	宮田館遺跡Ⅳ	平成16年(2004)
第366集	野尻(1)遺跡Ⅵ	平成16年(2004)
	野尻(2)遺跡Ⅲ	平成16年(2004)
第367集	長久保(2)遺跡	平成16年(2004)
第368集	朝日山(2)遺跡Ⅷ	平成16年(2004)
第369集	朝日山(2)遺跡Ⅸ	平成16年(2004)
第370集	三内丸山(5)遺跡Ⅱ・近野遺跡Ⅶ	平成16年(2004)
第371集	岩渡小谷(4)遺跡Ⅱ	平成16年(2004)
第372集	笹ノ沢(3)遺跡Ⅳ	平成16年(2004)
第373集	向田(35)遺跡	平成16年(2004)
第374集	青森県遺跡詳細分布調査報告書16	平成16年(2004)
第375集	中野館跡	平成16年(2004)

番号	報告書名	報告書刊行年
第376集	糠塚小沢遺跡	平成16年(2004)
第377集	松ヶ崎遺跡	平成16年(2004)
第378集	法師岡遺跡外	平成16年(2004)
第379集	黒坂出口遺跡	平成16年(2004)
第380集	宮元遺跡Ⅱ	平成16年(2004)
第381集	三内丸山遺跡23	平成16年(2004)
第382集	三内丸山遺跡24	平成16年(2004)
第383集	三内丸山遺跡25	平成16年(2004)
第384集	大開・新田遺跡	平成17年(2005)
第385集	糠塚大開(2)遺跡	平成17年(2005)
第386集	大沢遺跡Ⅱ	平成17年(2005)
第387集	法師岡館遺跡	平成17年(2005)
第388集	檜館遺跡Ⅱ	平成17年(2005)
第389集	倉越(2)遺跡・大池館遺跡	平成17年(2005)
第390集	三内沢部(3)遺跡・柴山(1)遺跡・洗平(2)遺跡	平成17年(2005)
第391集	米山(2)遺跡Ⅲ	平成17年(2005)
第392集	通目木遺跡・ふくべ(3)遺跡・ふくべ(4)遺跡	平成17年(2005)
第393集	高屋敷館遺跡Ⅲ	平成17年(2005)
第394集	近野遺跡Ⅷ	平成17年(2005)
第395集	山元(1)遺跡	平成17年(2005)
第396集	林ノ前遺跡	平成17年(2005)
第397集	青森県遺跡詳細分布調査報告書17	平成17年(2005)
第398集	十三湊遺跡	平成17年(2005)
第399集	島守館跡外	平成17年(2005)
第400集	泉沢(3)遺跡・根岸山添遺跡	平成17年(2005)
第401集	大平山元Ⅱ遺跡	平成17年(2005)
第402集	岡町(9)遺跡	平成17年(2005)
第403集	和野前山遺跡外	平成17年(2005)
第404集	三内丸山遺跡26	平成17年(2005)
第405集	三内丸山遺跡27	平成17年(2005)
第406集	三内丸山遺跡28	平成17年(2005)
第407集	西久根遺跡	平成18年(2006)
第408集	向田(37)遺跡	平成18年(2006)
第409集	川原平(1)・(4)遺跡・大川添(2)遺跡・水上遺跡	平成18年(2006)
第410集	新田遺跡Ⅱ	平成18年(2006)
第411集	宮田館遺跡Ⅴ	平成18年(2006)
第412集	潟野遺跡	平成18年(2006)
第413集	田代遺跡	平成18年(2006)
第414集	野尻(3)遺跡Ⅱ	平成18年(2006)
第415集	林ノ前遺跡Ⅱ	平成18年(2006)
第416集	西張平遺跡	平成18年(2006)
第417集	大沢遺跡・寒水遺跡・倉越(2)遺跡Ⅱ・大池館遺跡Ⅱ	平成18年(2006)
第418集	近野遺跡Ⅸ	平成18年(2006)

番号	報告書名	報告書刊行年	番号	報告書名	報告書刊行年
第419集	青森県遺跡詳細分布調査報告書18	平成18年(2006)	第461集	山本遺跡	平成20年(2008)
第420集	福島城跡1	平成18年(2006)	第462集	三内丸山33	平成20年(2008)
第421集	間沢遺跡2	平成18年(2006)	第463集	三内丸山34	平成20年(2008)
第422集	三内丸山遺跡29	平成18年(2006)	第464集	倉越(2)遺跡Ⅲ・太田(2)遺跡	平成21年(2009)
第423集	三内丸山遺跡30	平成18年(2006)	第465集	荒屋敷久保(2)遺跡・横沢山(1)遺跡・横沢山(2)遺跡	平成21年(2009)
第424集	東道ノ上(3)遺跡	平成18年(2006)	第466集	砂子瀬遺跡・水上(3)遺跡・水上(4)遺跡	平成21年(2009)
第425集	館向遺跡	平成19年(2007)	第467集	滝沢遺跡・坂元(3)遺跡	平成21年(2009)
第426集	三内沢部(3)遺跡	平成19年(2007)	第468集	稲元遺跡Ⅱ	平成21年(2009)
第427集	太田野(2)遺跡・太田野(3)遺跡	平成19年(2007)	第469集	山田(2)遺跡	平成21年(2009)
第428集	田代遺跡Ⅱ	平成19年(2007)	第470集	長久保(2)遺跡Ⅲ・糠塚小沢遺跡Ⅱ・中居林遺跡Ⅱ	平成21年(2009)
第429集	宮田館遺跡Ⅵ	平成19年(2007)	第471集	新田(2)遺跡	平成21年(2009)
第430集	坪毛沢(1)遺跡・坪毛沢(3)遺跡	平成19年(2007)	第472集	新田(1)遺跡	平成21年(2009)
第431集	潟野遺跡Ⅱ	平成19年(2007)	第473集	米山(2)遺跡Ⅵ・宮田館遺跡Ⅶ	平成21年(2009)
第432集	近野遺跡Ⅹ	平成19年(2007)	第474集	中平遺跡	平成21年(2009)
第433集	米山(2)遺跡Ⅳ	平成19年(2007)	第475集	前川遺跡	平成21年(2009)
第434集	三内遺跡Ⅱ・三内丸山(9)遺跡	平成19年(2007)	第476集	青森県遺跡詳細分布調査報告書21	平成21年(2009)
第435集	沢ノ黒遺跡	平成19年(2007)	第477集	西高校遺跡	平成21年(2009)
第436集	西張平遺跡Ⅱ	平成19年(2007)	第478集	三内丸山遺跡35	平成21年(2009)
第437集	二股(2)遺跡	平成19年(2007)	第479集	天当平(1)遺跡・天当平(2)遺跡・藤沢(1)遺跡・笹畑(2)遺跡	平成22年(2010)
第438集	赤平(2)遺跡・赤平(3)遺跡	平成19年(2007)	第480集	笹子(2)遺跡	平成22年(2010)
第439集	青森県遺跡詳細分布調査報告書19	平成19年(2007)	第481集	犬落瀬柳沢遺跡・根古橋遺跡	平成22年(2010)
第440集	福島城跡2	平成19年(2007)	第482集	砂子瀬遺跡Ⅱ・大川添(2)遺跡Ⅱ	平成22年(2010)
第441集	玉水(4)遺跡	平成19年(2007)	第483集	三内丸山(9)遺跡Ⅲ	平成22年(2010)
第442集	葉色遺跡	平成19年(2007)	第484集	山田(4)遺跡	平成22年(2010)
第443集	三内丸山遺跡31	平成19年(2007)	第485集	中居林遺跡Ⅲ	平成22年(2010)
第444集	三内丸山遺跡32	平成19年(2007)	第486集	上野遺跡Ⅱ	平成22年(2010)
第445集	上野遺跡	平成20年(2008)	第487集	赤坂遺跡	平成22年(2010)
第446集	弥栄平(1)遺跡Ⅱ	平成20年(2008)	第488集	明戸・高屋遺跡	平成22年(2010)
第447集	坂元(2)遺跡	平成20年(2008)	第489集	大久保平遺跡	平成22年(2010)
第448集	三内丸山(9)遺跡	平成20年(2008)	第490集	中平遺跡Ⅱ	平成22年(2010)
第449集	坪毛沢(1)遺跡Ⅱ 柴山(1)遺跡Ⅱ 大坊頭遺跡 赤平(1)遺跡 赤平(2)遺跡Ⅱ	平成20年(2008)	第491集	稲元遺跡	平成22年(2010)
第450集	寺屋敷平遺跡	平成20年(2008)	第492集	扇田(2)遺跡・扇田(3)遺跡	平成22年(2010)
第451集	山屋敷平遺跡 上平遺跡	平成20年(2008)	第493集	青森県遺跡詳細分布調査報告書22	平成22年(2010)
第452集	水上遺跡Ⅱ	平成20年(2008)	第494集	三内丸山遺跡36	平成22年(2010)
第453集	荒屋敷久保(1)遺跡	平成20年(2008)	第495集	山田(2)遺跡Ⅱ	平成23年(2011)
第454集	長久保(2)遺跡Ⅱ 中居林遺跡	平成20年(2008)	第496集	太田野(3)遺跡Ⅱ	平成23年(2011)
第455集	太田野(2)遺跡Ⅱ 太田(1)遺跡・北野(1)遺跡 北野(2)遺跡	平成20年(2008)	第497集	松ヶ崎遺跡Ⅲ	平成23年(2011)
第456集	米山(2)遺跡Ⅴ	平成20年(2008)	第498集	根古橋遺跡Ⅱ	平成23年(2011)
第457集	ふくべ(3)遺跡Ⅱ ふくべ(4)遺跡Ⅱ	平成20年(2008)	第499集	道仏鹿糠遺跡・藤沢(2)遺跡	平成23年(2011)
第458集	石江遺跡 三内沢部(3)遺跡Ⅲ	平成20年(2008)	第500集	大川添(1)遺跡・水上(4)遺跡・芦沢(1)遺跡	平成23年(2011)
第459集	青森県遺跡詳細分布調査報告書20	平成20年(2008)	第501集	後潟(1)遺跡	平成23年(2011)
第460集	福島城跡3	平成20年(2008)	第502集	五川目(6)遺跡	平成23年(2011)

番号	報告書名	報告書刊行年
第503集	堀端(1)遺跡	平成23年(2011)
第504集	大畑家ノ上遺跡	平成23年(2011)
第505集	坂元(1)・(2)遺跡	平成23年(2011)
第506集	田代遺跡Ⅲ	平成23年(2011)
第507集	乳井茶臼館	平成23年(2011)
第508集	山田(2)遺跡Ⅲ	平成23年(2011)
第509集	三内丸山遺跡37	平成23年(2011)
第510集	青森県遺跡詳細分布調査報告書23	平成23年(2011)
第511集	堀切沢(2)・(3)遺跡Ⅱ	平成24年(2012)
第512集	四戸橋富田遺跡・後潟(1)遺跡Ⅱ	平成24年(2012)
第513集	砂子瀬遺跡Ⅲ	平成24年(2012)
第514集	水上(2)遺跡	平成24年(2012)
第515集	大川添(2)遺跡Ⅲ	平成24年(2012)
第516集	市子林遺跡・館平遺跡	平成24年(2012)
第517集	上明戸遺跡・堀端(1)遺跡Ⅱ	平成24年(2012)
第518集	中平遺跡Ⅲ	平成24年(2012)
第519集	三内丸山遺跡38	平成24年(2012)
第520集	三内丸山遺跡39	平成24年(2012)
第521集	涌館遺跡	平成24年(2012)
第522集	福島城	平成24年(2012)
第523集	青森県遺跡詳細分布調査報告書24	平成24年(2012)
第524集	八幡遺跡・千石屋敷遺跡	平成25年(2013)
第525集	韭窪遺跡Ⅱ	平成25年(2013)
第526集	十三盛遺跡	平成25年(2013)
第527集	川原平(4)遺跡Ⅱ	平成25年(2013)
第528集	水上(2)遺跡Ⅱ・水上(3)遺跡Ⅱ	平成25年(2013)
第529集	駒沢(5)遺跡・駒沢(6)遺跡	平成25年(2013)
第530集	神原(2)遺跡	平成25年(2013)
第531集	赤坂遺跡Ⅱ	平成25年(2013)
第532集	駒木沢(2)遺跡	平成25年(2013)
第533集	三内丸山遺跡40	平成25年(2013)
第534集	伊吹遺跡	平成25年(2013)
第535集	鯨森(1)遺跡	平成25年(2013)
第536集	青森県遺跡詳細分布調査報告書25	平成25年(2013)
第537集	松ヶ崎遺跡Ⅳ・檜館遺跡Ⅲ・潟野遺跡Ⅲ	平成26年(2014)
第538集	十三盛遺跡Ⅱ	平成26年(2014)
第539集	川原平(4)遺跡Ⅲ	平成26年(2014)
第540集	芦沢(2)遺跡	平成26年(2014)
第541集	鬼川辺(1)遺跡・鬼川辺(2)遺跡・鬼川辺(3)遺跡	平成26年(2014)
第542集	大川添(4)遺跡	平成26年(2014)
第543集	砂子瀬遺跡Ⅳ	平成26年(2014)
第544集	大川添(3)遺跡	平成26年(2014)

番号	報告書名	報告書刊行年
第545集	薬師遺跡・上新岡館	平成26年(2014)
第546集	三内丸山遺跡41	平成26年(2014)
第547集	蔵主町遺跡	平成26年(2014)
第548集	明神沼遺跡・福島城跡5	平成26年(2014)
第549集	青森県遺跡詳細分布調査報告書26	平成26年(2014)
第550集	八幡遺跡Ⅱ・千石屋遺跡Ⅱ	平成27年(2015)
第551集	鳴戸(3)遺跡	平成27年(2015)
第552集	赤坂遺跡Ⅲ	平成27年(2015)
第553集	館平遺跡Ⅱ	平成27年(2015)
第554集	駒沢(5)遺跡Ⅱ・駒沢(6)遺跡Ⅱ	平成27年(2015)
第555集	斗南丘(5)遺跡	平成27年(2015)
第556集	下石川平野遺跡	平成27年(2015)
第557集	三内丸山遺跡42	平成27年(2015)
第558集	剣吉荒町遺跡	平成27年(2015)
第559集	弥栄平(1)遺跡Ⅲ	平成27年(2015)
第560集	青森県遺跡詳細分布調査報告書27	平成27年(2015)
第561集	潟野遺跡Ⅳ・弥次郎窪遺跡Ⅲ	平成28年(2016)
第562集	東道ノ上(3)遺跡Ⅱ	平成28年(2016)
第563集	金沢街道沢(1)遺跡・新沢(1)遺跡・新沢(2)遺跡	平成28年(2016)
第564集	川原平(1)遺跡Ⅱ	平成28年(2016)
第565集	川原平(1)遺跡Ⅲ	平成28年(2016)
第566集	川原平(4)遺跡Ⅳ	平成28年(2016)
第567集	川原平(6)遺跡	平成28年(2016)
第568集	酪農(1)遺跡	平成28年(2016)
第569集	下石川平野遺跡Ⅱ・旭(1)遺跡・旭(2)遺跡	平成28年(2016)
第570集	三内丸山遺跡43	平成28年(2016)
第571集	鷲ノ巣(1)遺跡・鷲ノ巣(3)遺跡	平成28年(2016)
第572集	下天摩遺跡・大草里窪遺跡	平成28年(2016)
第573集	青森県遺跡詳細分布調査報告書28	平成28年(2016)
第574集	鳴戸(3)遺跡Ⅱ	平成29年(2017)
第575集	水上(2)遺跡Ⅲ	平成29年(2017)
第576集	川原平(1)遺跡Ⅳ	平成29年(2017)
第577集	川原平(1)遺跡Ⅴ	平成29年(2017)
第578集	川原平(1)遺跡Ⅵ	平成29年(2017)
第579集	川原平(1)遺跡Ⅶ	平成29年(2017)
第580集	川原平(1)遺跡Ⅷ	平成29年(2017)
第581集	二枚橋(1)遺跡	平成29年(2017)
第582集	館平遺跡	平成29年(2017)
第583集	下石川平野遺跡Ⅲ・浪岡蛭沢遺跡・旭(2)遺跡Ⅱ	平成29年(2017)
第584集	鳥舌内館	平成29年(2017)
第585集	三内丸山(6)遺跡Ⅴ	平成29年(2017)
第586集	道仏鹿糠遺跡Ⅱ・下平窪遺跡	平成29年(2017)

番号	報告書名	報告書刊行年
第587集	青森県遺跡詳細分布調査報告書29	平成29年(2017)
第588集	三内丸山遺跡44(総括報告書)	平成29年(2017)
第589集	東道ノ上(3)遺跡Ⅲ	平成30年(2018)
第590集	夷堂遺跡・塚長根遺跡	平成30年(2018)
第591集	熊沢溜池遺跡・上野遺跡・郷山前村元遺跡	平成30年(2018)
第592集	内田(1)遺跡	平成30年(2018)
第593集	沢部(1)遺跡	平成30年(2018)
第594集	沢部(2)遺跡	平成30年(2018)
第595集	潜石(2)遺跡	平成30年(2018)
第596集	上桑木窪遺跡	平成30年(2018)
第597集	青森県遺跡詳細分布調査報告書30	平成30年(2018)
第598集	後平(1)遺跡 後平(2)遺跡 後平(3)遺跡	平成31年(2019)
第599集	篠塚遺跡	平成31年(2019)
第600集	外の沢(4)遺跡 外の沢(5)遺跡	平成31年(2019)
第601集	釜ノ平(2)遺跡	平成31年(2019)
第602集	内田(2)遺跡	平成31年(2019)
第603集	米山(2)遺跡Ⅶ	平成31年(2019)
第604集	柄貝遺跡	平成31年(2019)
第605集	青森県遺跡詳細分布調査報告書31	平成31年(2019)
第606集	青森県内の貝塚遺跡重点調査事業報告書	平成31年(2019)
第607集	後平(4)遺跡・後平(1)遺跡Ⅱ	令和2年(2020)
第608集	長谷川遺跡	令和2年(2020)
第609集	家ノ上遺跡	令和2年(2020)
第610集	銅屋(1)遺跡	令和2年(2020)
第611集	古野(3)遺跡	令和2年(2020)
第612集	西張(3)遺跡・館遺跡	令和2年(2020)
第613集	米山(2)遺跡Ⅷ	令和2年(2020)
第614集	沖付(1)遺跡Ⅲ	令和2年(2020)
第615集	青森県遺跡詳細分布調査報告書32	令和2年(2020)
第616集	猪ノ鼻(1)遺跡	令和3年(2021)
第617集	猪ノ鼻(2)遺跡	令和3年(2021)
第618集	戸来館遺跡	令和3年(2021)
第619集	内田(2)遺跡Ⅱ	令和3年(2021)
第620集	林ノ脇遺跡	令和3年(2021)
第621集	古野(2)遺跡	令和3年(2021)

番号	報告書名	報告書刊行年
第622集	百目木(3)遺跡	令和3年(2021)
第623集	扇田(4)遺跡・中野(2)遺跡	令和3年(2021)
第624集	青森県遺跡詳細分布調査報告書33	令和3年(2021)
第625集	船場向川久保(2)遺跡	令和4年(2022)
第626集	焼畑(2)遺跡	令和4年(2022)
第627集	上野平遺跡	令和4年(2022)
第628集	吹越(2)遺跡	令和4年(2022)
第629集	法霊林遺跡	令和4年(2022)
第630集	米山(2)遺跡Ⅸ	令和4年(2022)
第631集	三内丸山遺跡45	令和4年(2022)
第632集	青森県遺跡詳細分布調査報告書34	令和4年(2022)
第633集	林ノ脇遺跡Ⅱ	令和5年(2023)
第634集	林ノ脇遺跡Ⅲ	令和5年(2023)
第635集	樽沢村元(3)遺跡	令和5年(2023)
第636集	石田(2)遺跡	令和5年(2023)
第637集	三内丸山遺跡46	令和5年(2023)
第638集	三内丸山遺跡47	令和5年(2023)
第639集	青森県遺跡詳細分布調査報告書35	令和5年(2023)
第640集	青森県の窪地として確認できる縦穴	令和5年(2023)
第641集	酪農(3)遺跡	令和6年(2024)
第642集	鉢森平(6)遺跡	令和6年(2024)
第643集	毛合清水(3)遺跡・北熊ノ沢(2)遺跡	令和6年(2024)
第644集	戸来館遺跡Ⅱ	令和6年(2024)
第645集	三内丸山遺跡48	令和6年(2024)
第646集	青森県遺跡詳細分布調査報告書36	令和6年(2024)
第647集	鉢森平(7)遺跡	令和7年(2025)
第648集	林ノ後遺跡	令和7年(2025)
第649集	郷山前村元遺跡Ⅱ	令和7年(2025)
第650集	鳴瀬遺跡	令和7年(2025)
第651集	三内丸山遺跡49	令和7年(2025)
第652集	青森県遺跡詳細分布調査報告書37	令和7年(2025)

付属資料4 青森県立郷土館調査報告書等一覧

書名	補題	報告書刊行年
青森県立郷土館調査報告	考古-1 小田野沢 下田代納屋B遺跡発掘調査報告書	昭和51年(1976)
青森県立郷土館調査報告	民俗-1 「雪国の民俗」調査報告書	昭和51年(1976)
青森県立郷土館調査報告	民俗-2 「陸奥舟岡の民俗」調査報告書	昭和53年(1978)
青森県立郷土館調査報告	民俗-3 「九艘泊・蛸田の民俗」調査報告書	昭和54年(1979)
青森県立郷土館調査報告	考古-2 大平山元I遺跡発掘調査報告書	昭和54年(1979)
青森県立郷土館調査報告	考古-3 宇鉄II遺跡発掘調査報告書	昭和54年(1979)
青森県立郷土館調査報告	民俗-4 「鶏沢・有畑・浜田の民俗」調査報告書	昭和55年(1980)
青森県立郷土館調査報告	考古-4 大平山元II遺跡発掘調査報告書(本文編)	昭和55年(1980)
青森県立郷土館調査報告	考古-4 大平山元II遺跡発掘調査報告書(図版編)	昭和55年(1980)
青森県立郷土館調査報告	歴史-1 尻八館調査報告書	昭和56年(1981)
青森県立郷土館調査報告	民俗-5 「浦田の民俗」調査報告書	昭和56年(1981)
青森県立郷土館調査報告	考古-5 大平山元III遺跡発掘調査報告書	昭和56年(1981)
青森県立郷土館調査報告	自然-1 津軽半島の自然 津軽半島自然調査報告	昭和57年(1982)
青森県立郷土館調査報告	民俗-6 「小舟渡の民俗」調査報告書	昭和57年(1982)
青森県立郷土館調査報告	民俗-7 「小田野沢の民俗」調査報告書	昭和58年(1983)
青森県立郷土館調査報告	歴史-2 青森県の板碑	昭和58年(1983)
青森県立郷土館調査報告	民俗-8 「関の民俗」調査報告書	昭和59年(1984)
青森県立郷土館調査報告	考古-6 亀ヶ岡石器時代遺跡	昭和59年(1984)
青森県立郷土館調査報告	民俗-9 「脇元の民俗」調査報告書	昭和60年(1985)
青森県立郷土館調査報告	自然-2 下北半島の自然 下北半島自然調査報告	昭和61年(1986)
青森県立郷土館調査報告	民俗-10 「宇鉄の民俗」調査報告書	昭和62年(1987)
青森県立郷土館調査報告	考古-7 名川町剣吉荒町遺跡(第2地区)発掘調査報告書	昭和63年(1988)
青森県立郷土館調査報告	民俗-11 「蛇浦の民俗」調査報告書	昭和63年(1988)
青森県立郷土館調査報告	民俗-12 青森県山村民俗調査報告書-1 「世増・畑内の民俗」調査報告書	平成元年(1989)
青森県立郷土館調査報告	考古-8 三厩村宇鉄遺跡発掘調査報告書(II) —弥生甕棺墓の第4次調査—	平成元年(1989)
青森県立郷土館調査報告	民俗-13 青森県山村民俗調査報告書-2 「西越・田中の民俗」調査報告書	平成2年(1990)
青森県立郷土館調査報告	歴史-3 青森県中世金石造文化財	平成2年(1990)
青森県立郷土館調査報告	自然-3 赤石川流域の自然	平成3年(1991)
青森県立郷土館調査報告	民俗-14 青森県山村民俗調査報告書-3 「上小倉平・下小倉平の民俗」調査報告書	平成3年(1991)
青森県立郷土館調査報告	民俗-15 青森県山村民俗調査報告書-4 「小国の民俗」調査報告書	平成4年(1992)
青森県立郷土館調査報告	考古-9 小川原湖周辺の貝塚—三沢市山中(2)貝塚・天間林村二ツ森貝塚発掘調査報告—	平成4年(1992)
青森県立郷土館調査報告	民俗-16 青森県山村民俗調査報告書-5 「大秋・白沢の民俗」調査報告書	平成5年(1993)
青森県立郷土館調査報告	民俗-17 青森県農村民俗調査報告書-1 「菖蒲川の民俗」調査報告書	平成6年(1994)

書名	補題	報告書刊行年
青森県立郷土館調査報告	産業－2 青森県の諸職2	平成6年(1994)
青森県立郷土館調査報告	考古－10 木造町田小屋野貝塚－岩木川流域の縄文前期の貝塚発掘調査報告書－	平成7年(1995)
青森県立郷土館調査報告	民俗－18 青森県農村民俗調査報告書－2 「洞内の民俗」調査報告書	平成7年(1995)
青森県立郷土館調査報告	自然－4 白神山地の自然－笹内川流域・十二湖周辺－	平成8年(1996)
青森県立郷土館調査報告	民俗－19 青森県農村民俗調査報告書－3 「奥内の民俗」調査報告書	平成8年(1996)
青森県立郷土館調査報告	民俗－20 青森県農村民俗調査報告書－4 「諏訪堂の民俗」調査報告書	平成9年(1997)
青森県立郷土館調査報告	考古－11 馬淵川流域の遺跡調査報告書	平成9年(1997)
青森県立郷土館調査報告	歴史－4 青森県の仏像－西北五地方編－	平成10年(1998)
青森県立郷土館調査報告	民俗－21 青森県農村民俗調査報告書－5 「再賀の民俗」調査報告書	平成10年(1998)
青森県立郷土館調査報告	美術－1 青森県美術調査報告書(1) 今純三作品目録	平成11年(1999)
青森県立郷土館調査報告	考古12 東北町長者久保遺跡・木造町丸山遺跡	平成12年(2000)
青森県立郷土館調査報告	自然－5 下北丘陵の自然－下北丘陵自然調査報告－	平成13年(2001)
青森県立郷土館調査報告	産業－2 青森県沿岸漁業調査報告書	平成14年(2002)
青森県立郷土館調査報告	民俗－22 青森県山車祭礼調査報告書	平成15年(2003)

その他

書名	補題	報告書刊行年	
調査研究年報		昭和51～ 平成19年	1976～ 2007
青森県立郷土館研究紀要		平成21年 ～	2009～
青森県立郷土館報	※「調査事業概要」として調査報告を掲載	昭和50年	1975
青森県埋蔵文化財調査センター研究紀要		平成8年～	1996～
特別史跡三内丸山遺跡年報		平成9年～	1997～
特別史跡三内丸山遺跡研究紀要		令和元年～	2019～

付属資料5 青森県史一覽

編名	題	副題	刊行年
資料編	考古1	旧石器・縄文草創期～中期	平成28年(2016)
	考古2	縄文後期・晩期	平成24年(2012)
	考古3	弥生～古代	平成16年(2004)
	考古4	中世・近世	平成14年(2002)
	古代1	文献史料	平成12年(2000)
	古代2	出土文字資料	平成19年(2007)
	中世1	南部氏関係資料	平成15年(2003)
	中世2	安藤氏他諸家資料	平成16年(2004)
	中世3	北奥関係資料	平成23年(2011)
	中世4	金石文・編さん物・海外資料・補遺	平成28年(2016)
	近世1	近世北奥の成立と北方世界	平成12年(2000)
	近世2	津軽1 前期津軽領	平成13年(2001)
	近世3	津軽2 後期津軽領	平成17年(2005)
	近世4	南部1 盛岡藩領	平成14年(2002)
	近世5	南部2 八戸藩領	平成22年(2010)
	近世6	幕末・維新期の北奥	平成26年(2014)
	近世	学芸関係	平成15年(2003)
	近現代1	近代成立期の青森県	平成13年(2001)
	近現代2	日清・日露戦争期の青森県	平成14年(2002)
	近現代3	「大國」と「東北」の中の青森県	平成15年(2003)
近現代4	昭和恐慌から北の要塞へ	平成16年(2004)	
近現代5	占領と改革の時代	平成20年(2008)	
近現代6	高度経済成長期の青森県	平成25年(2013)	
近現代7	青森論	平成27年(2015)	
近現代8	日記	平成28年(2016)	
民俗編	資料 南部		平成12年(2000)
	資料 下北		平成18年(2006)
	資料 津軽		平成25年(2013)

編名	題	副題	刊行年
文化財編	建築		平成27年(2015)
	美術工芸		平成22年(2010)
自然編	地学		平成12年(2000)
	生物		平成14年(2002)
別編	三内丸山遺跡		平成13年(2003)
通史編	1	原始 古代 中世	平成29年(2017)
	2	近世	平成29年(2017)
	3	近現代 民俗	平成29年(2017)

青森県史叢書一覽

担当部会	書名	刊行年
民俗	奥南新報「村の話」集成 上・下	平成9年(1997)
民俗	馬淵川流域の民俗	平成10年(1998)
民俗	小川原湖周辺と三本木原台地の民俗	平成13年(2001)
民俗	下北半島北通りの民俗	平成14年(2002)
古代	青森県史資料編古代1 補遺	平成14年(2002)
民俗	下北半島西通りの民俗	平成15年(2003)
文化財	下北の仏像	平成17年(2005)
文化財	青森県の暮らしと建築の近代化に寄与した人々	平成18年(2006)
民俗	岩木川流域の民俗	平成19年(2007)
文化財	南部の仏像	平成20年(2008)
民俗	西浜と外ヶ浜の民俗	平成21年(2009)
文化財	津軽の仏像	平成22年(2010)
文化財	近現代の美術家	平成23年(2011)

<参考> 青森県史(旧青森県史)一覽

巻名	篇名	刊行年
第壹巻	藩政時代以前	大正15年(1926)
第貳巻	藩政時代(津軽篇)	
第參巻	藩政時代(津軽篇)	
第四巻	藩政時代(南部篇)	
第五巻	藩政時代(南部篇)	
第六巻	藩政時代(南部篇) 近世篇	
第七巻	近世篇	
第八巻	近世篇	

青森県文化財保存活用大綱の策定について

1 策定の経緯

青森県文化財保存活用大綱（以下「大綱」という。）の策定に当たっては、令和元年度に青森県文化財保護審議会委員、有識者、市町村教育委員会職員等で策定委員会を組織し、検討を進めました。

大綱の策定及び公表に至る経緯は次のとおりです。

年月日	実施内容
H31. 4. 26	大綱策定委員会設置要綱制定
R1. 5. 17	大綱策定委員会委員委嘱
R1. 7. 2	第1回策定委員会開催（構成案の検討）
R1. 10. 17	委員への意見照会（素案に関する意見照会）
R1. 11. 21	文化庁との協議（素案に関する指導・助言）
R1. 12. 17	第2回策定委員会開催（素案の検討）
R2. 1. 9	各市町村・関係機関への意見照会（素案に関する意見照会）
R2. 1. 10	パブリックコメントの募集（R2. 1. 10～2. 8）
R2. 2. 14	第3回策定委員会開催（素案の検討）
R2. 2. 26	文化庁との協議2回目（素案に関する指導・助言）
R2. 3. 3	委員への意見照会（最終）
R2. 3. 13	青森県教育委員会に議案提出
R2. 3. 25	青森県教育委員会第854回定例会で議決
R2. 3. 26	公表（県庁ホームページに掲載・関係先に発送）

2 大綱策定委員会設置要綱・委員

- ・設置要綱：別紙1のとおり
- ・委員名簿：別紙2のとおり

(別紙 1)

青森県文化財保存活用大綱策定委員会設置要綱

(設置)

第 1 条 青森県文化財保存活用大綱（以下「大綱」という。）の策定に関する検討を行うため、青森県文化財保存活用大綱策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第 2 条 委員会は、次に掲げる事項について検討を行い、その結果を青森県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）に報告する。

- (1) 青森県文化財保存活用大綱の策定に関すること
- (2) その他大綱の策定に関し、必要な事項

(組織等)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる者のうちから教育長が委嘱又は任命する 13 名以内の委員をもって組織する。

- (1) 青森県文化財保護審議会委員
- (2) 関係行政機関の職員
- (3) 青森県教育庁文化財保護課長
- (4) 前各号に掲げる者のほか、教育長が必要と認める者

2 委員会は、前条の規定による報告をもって解散する。

(委員長及び副委員長)

第 4 条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第 5 条 委員会の会議は、教育長が招集し、委員長がその議長となる。

2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 委員長は、必要があると認めたときは、会議に委員以外の者の出席を求めることができる。

(庶務)

第 6 条 委員会の庶務は、青森県教育庁文化財保護課において処理する。

(その他)

第 7 条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成 31 年 4 月 26 日から施行する。

(別紙 2)

青森県文化財保存活用大綱策定委員会 委員一覧

氏 名	所属・職名	備 考
岡田 俊治	県立弘前工業高等学校定時制 教諭	青森県文化財保護審議会 委員
藤田 俊雄	八戸市立図書館 嘱託	青森県文化財保護審議会 委員
外崎 純一		青森県文化財保護審議会 委員
工藤 竹久		青森県文化財保護審議会 委員
兵藤 勝幸	藤崎造園 代表	青森県文化財保護審議会 委員
今井 二三夫	弘前文化財保存技術協会 理事長	
児玉 大成	青森市教育委員会事務局文化財課 主幹	
小石川 透	弘前市教育委員会文化財課 主幹兼文化財保護係長	
渡 則子	八戸市教育委員会社会教育課 副参事	
齋藤 淳	中泊町博物館 館長	
金見 真樹	七戸町教育委員会世界遺産対策室 室長補佐	
小山 卓臣	東通村教育委員会教育総務課 総括主幹・学芸員	
佐藤 久常	青森県教育庁文化財保護課 課長	

※所属・職名は令和元年度当時のものです。

掲載画像提供先等一覧

頁数	名 称	画像提供先 (敬称略)
表紙 P14	特別史跡 三内丸山遺跡	青森県教育委員会
表紙 P11	国宝 土偶 (青森県八戸市風張 1 遺跡出土)	八戸市教育委員会 (是川縄文館)
表紙	重要無形民俗文化財 下北の能舞 (東通村 蒲野沢青年会「翁」)	三内丸山遺跡と青森県の伝統文化を活用した地域活性化プロジェクト実行委員会
表紙 P11	重要無形文化財 津軽塗 (研ぎ出し風景)	弘前市教育委員会
表紙 P11	重要無形文化財 津軽塗 (八角五段重箱「四季」)	弘前市教育委員会
表紙	天然記念物 北金ヶ沢のイチョウ	深浦町教育委員会
表紙	重要文化財 旧笠石家住宅	十和田市教育委員会
P7	重要文化財 青森県大平山元遺跡出土品	外ヶ浜町教育委員会
P7	史跡 小牧野遺跡	青森市教育委員会
P8	重要文化財 青森県丹後平古墳群出土品 (金銅獅嚙三累環頭太刀柄頭)	八戸市教育委員会 (八戸市博物館、撮影：小川忠博)
P9	史跡 聖寿寺館跡	南部町教育委員会
P9	重要文化財 弘前城 天守	弘前市教育委員会
P10	りんごと岩木山	弘前市教育委員会
P11	重要文化財 旧第五十九銀行本店本館	弘前市教育委員会
P12	重要有形民俗文化財 津軽・南部のさしこ着物	青森県教育委員会
P12	重要無形民俗文化財 青森のねぶた	青森ねぶた祭実行委員会事務局
P12	名勝 盛美園	平川市教育委員会
P12	下北半島のサルおよびサル生息北限地	むつ市教育委員会
P13	弘前市仲町 重要伝統的建造物保存地区	弘前市教育委員会
P13	黒石市中町 重要伝統的建造物保存地区	黒石市教育委員会
P13	重要無形民俗文化財 八戸三社大祭の山車行事	八戸市教育委員会

頁数	名 称	画像提供先 (敬称略)
P21	文化財調査の様子	南部町教育委員会
P24	登録有形文化財 村井家住宅	南部町教育委員会
P24	三内丸山遺跡センター 「さんまるミュージアム」	青森県教育委員会
P25	登録有形文化財 旧第八師団長官舎	弘前市教育委員会
P25	特別天然記念物 カモシカ (下北半島保護地域)	磯山 隆幸
P26	こども民俗芸能大会 (青森県立田子高等学校「田子の杜の芸能」)	青森県教育委員会
P27	高校生文化財魅力発信事業 (青森県立八戸工業高等学校)	青森県教育委員会
P27	高校生縄文案内人養成事業 (青森県立青森中央高等学校)	青森県教育委員会
P27	小学生による縄文遺跡と地域の文化財体験事業 (つがる市立森田小学校)	青森県教育委員会
P33	防火訓練 (重要文化財 旧平山家住宅)	五所川原市教育委員会

青森県文化財保存活用大綱改訂版

発 行 青森県教育委員会（令和8年3月）

編 集 青森県教育庁文化財保護課

〒030-8540 青森県青森市長島1丁目1-1

TEL 017-734-9920 FAX 017-734-8280

E-mail E-BUNKA@pref.aomori.lg.jp